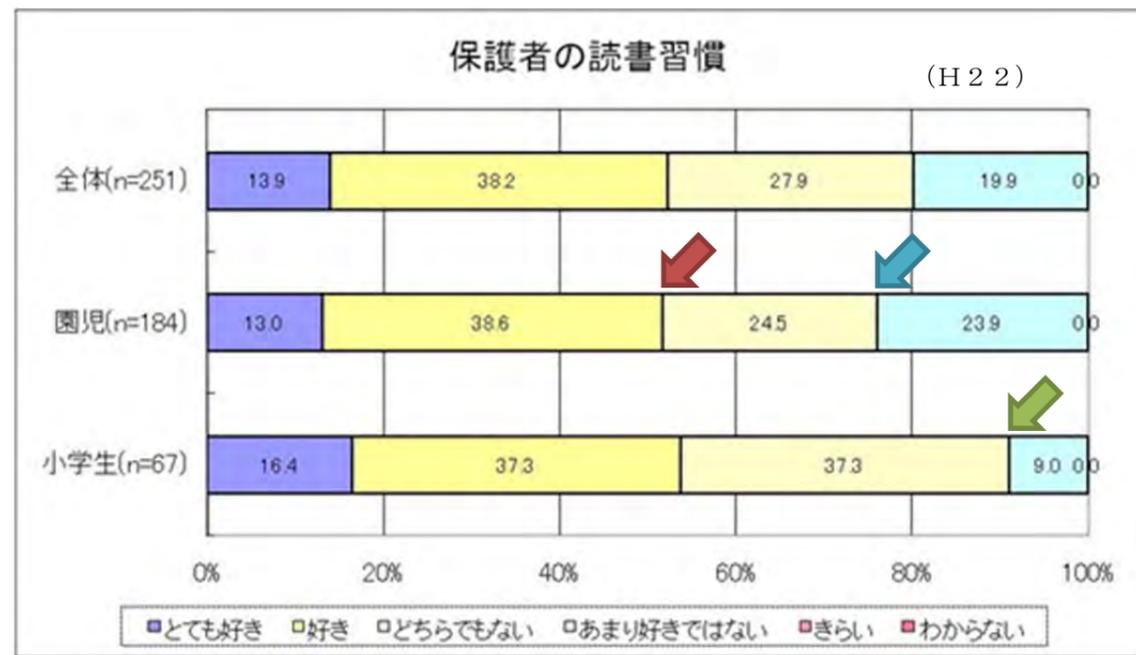
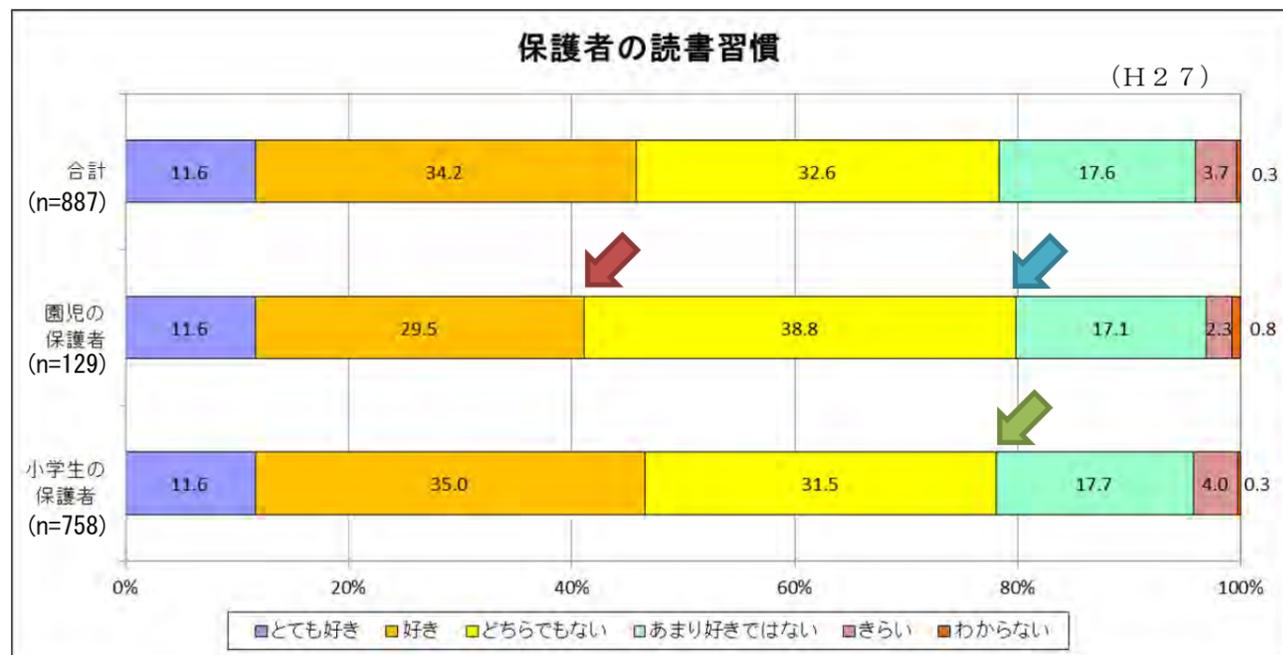


平成27年度

子ども読書活動に関するアンケート 【結果報告書】

# 保護者 編

【図表 21】 あなたは、本（まんが、雑誌は除きます。）を読むことが好きですか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

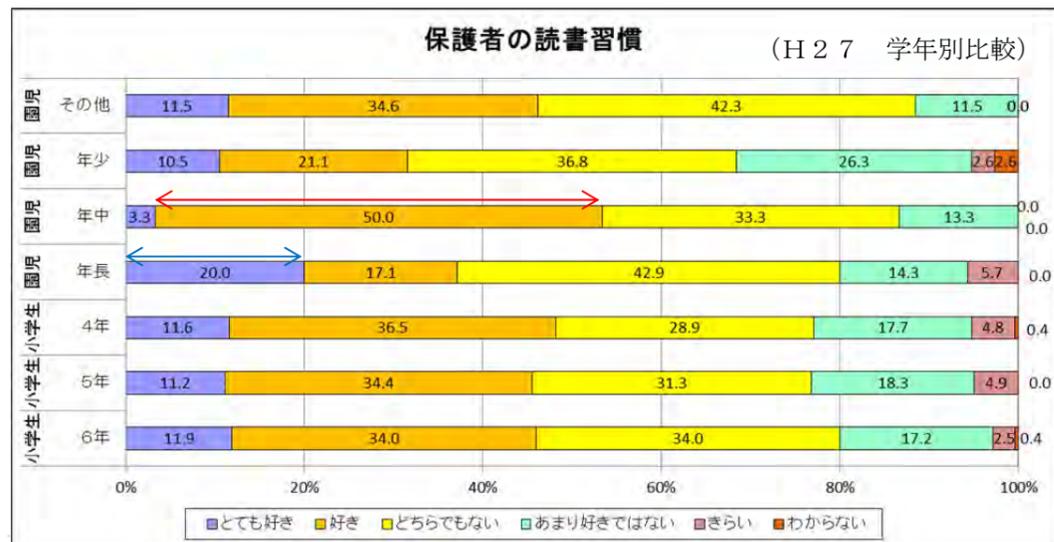
前回（H22）との比較では、前回は全く選択されなかった「きらい」や「わからない」が、今回はわずかながら存在することがまず目に付く。

園児の保護者では「とても好き」と「好き」の合計が50%を超えていたが、今回は40%を少し上回る程度に落ち込んでいるが、「あまり好きではない」についても23.9%から17.1%へと大きく減っており、「どちらでもない」という回答が24.5%から38.8%へと最も多くなっている。

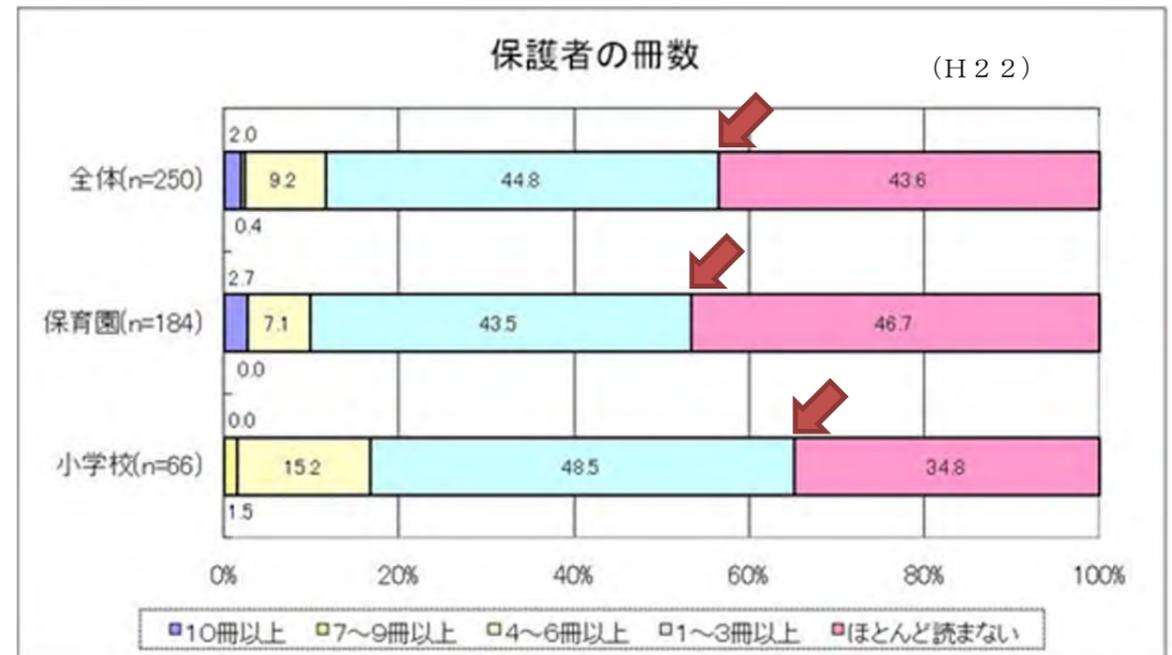
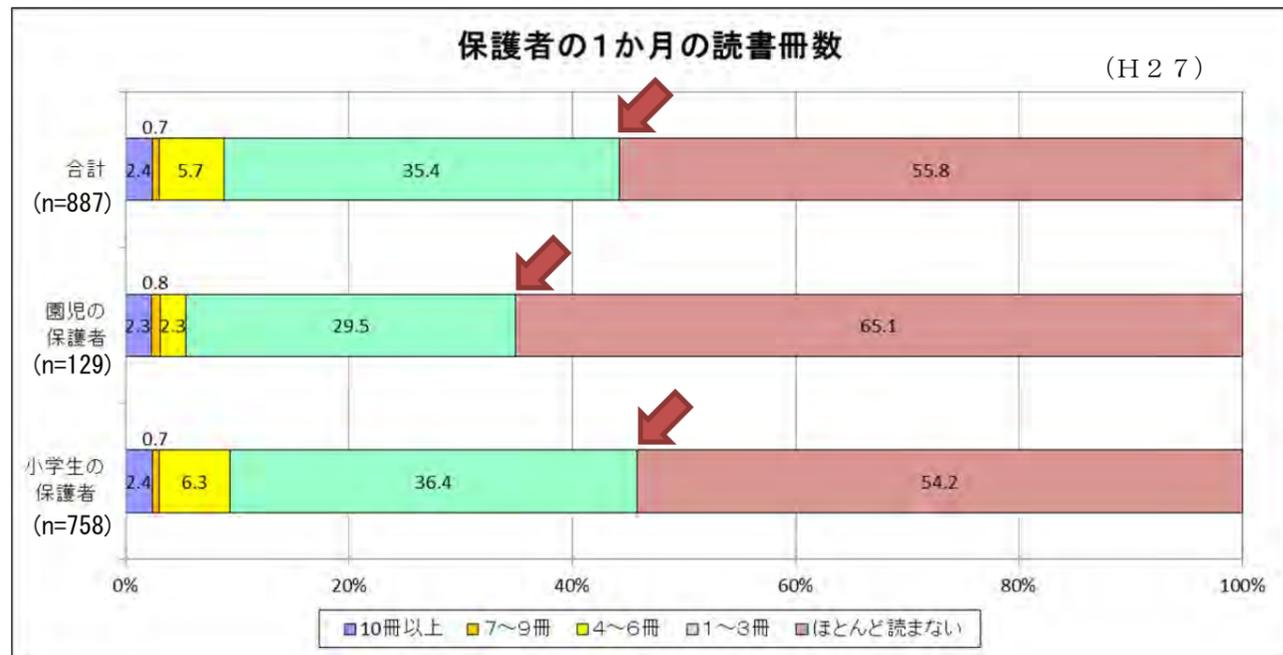
小学生の保護者では、回答者数が10倍以上違うため厳密な比較が困難だが、「とても好き」や「好き」には大きな変化はないが、園児の保護者とは逆に「どちらでもない」が減って「あまり好きではない」が前回の9%から17.7%へと倍近く増えており、保護者自体の読書離れが少し気かりである。

男女比較を見ると、園児の保護者と小学生の保護者のいずれも、「とても好き」と「好き」を合わせた割合で、男児の保護者より女児の保護者の方が高い傾向にある。

学年別比較では、小学生の保護者には特に学年ごとの大きな違いは見られないが、園児の保護者では、年中園児の保護者の「好き」が50%にも上り、また年長園児の保護者の「とても好き」が20%になっているにも関わらず「好き」は17.1%と他の年齢層よりも著しく低く、選択傾向にバラつきがみられる。これは、もともと対象者の総数が129人と少ない園児の保護者を4階級に分けたため、1つの層あたりの対象者数が30人前後とかなり少なくなってしまったことにより誤差ノイズの影響が激しく表れてしまった可能性があるため、参考程度にとどめるべきである。



【図表 22】 あなたは、1か月に、本（まんが、雑誌は除きます。）を何冊くらい読みますか。（1つを選択）



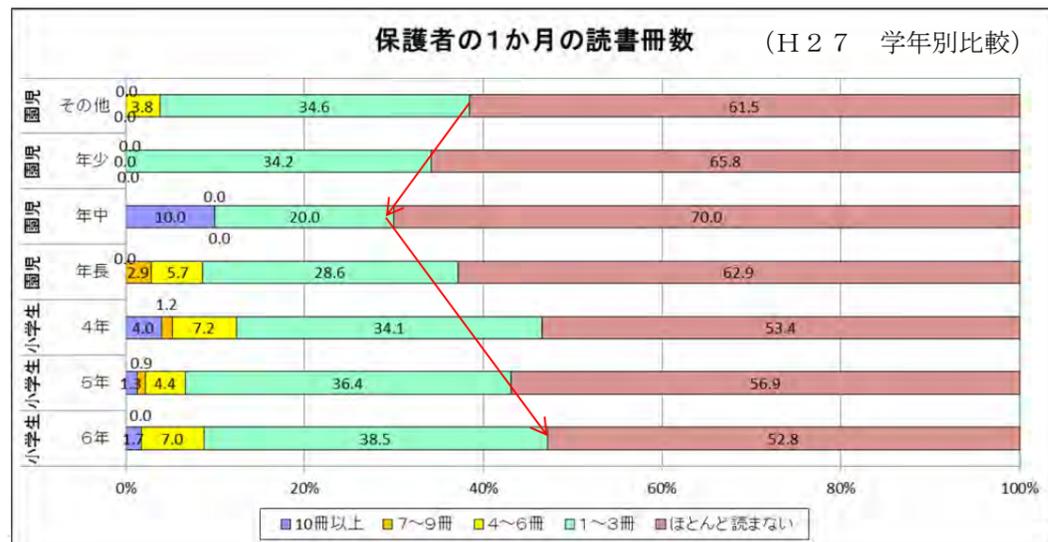
■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

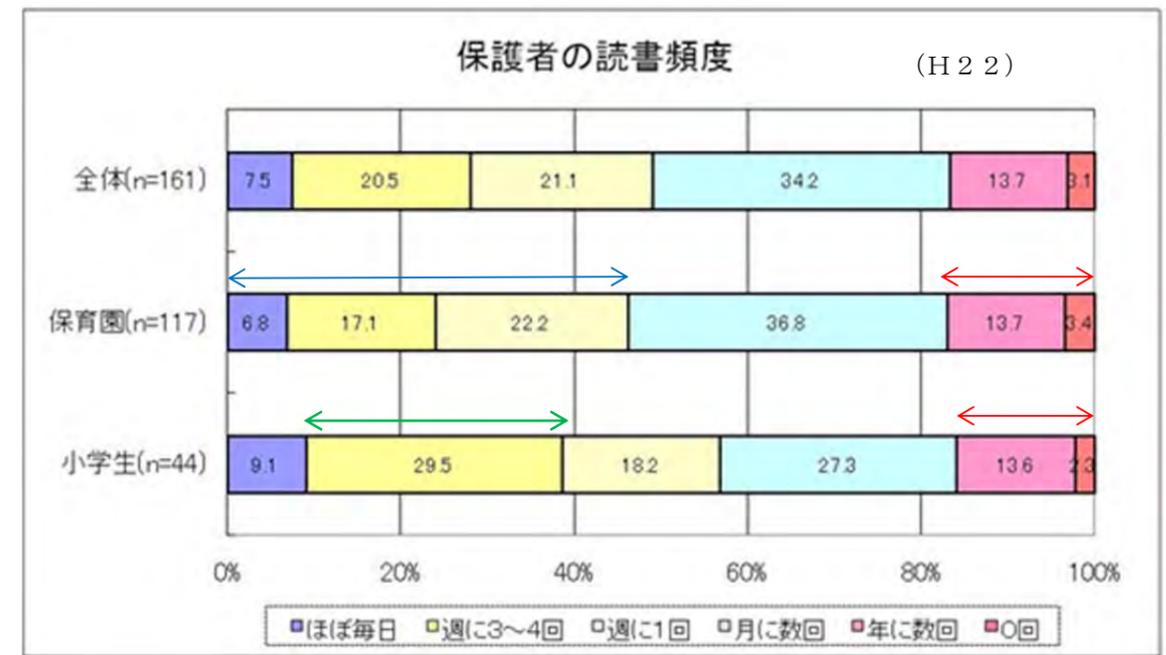
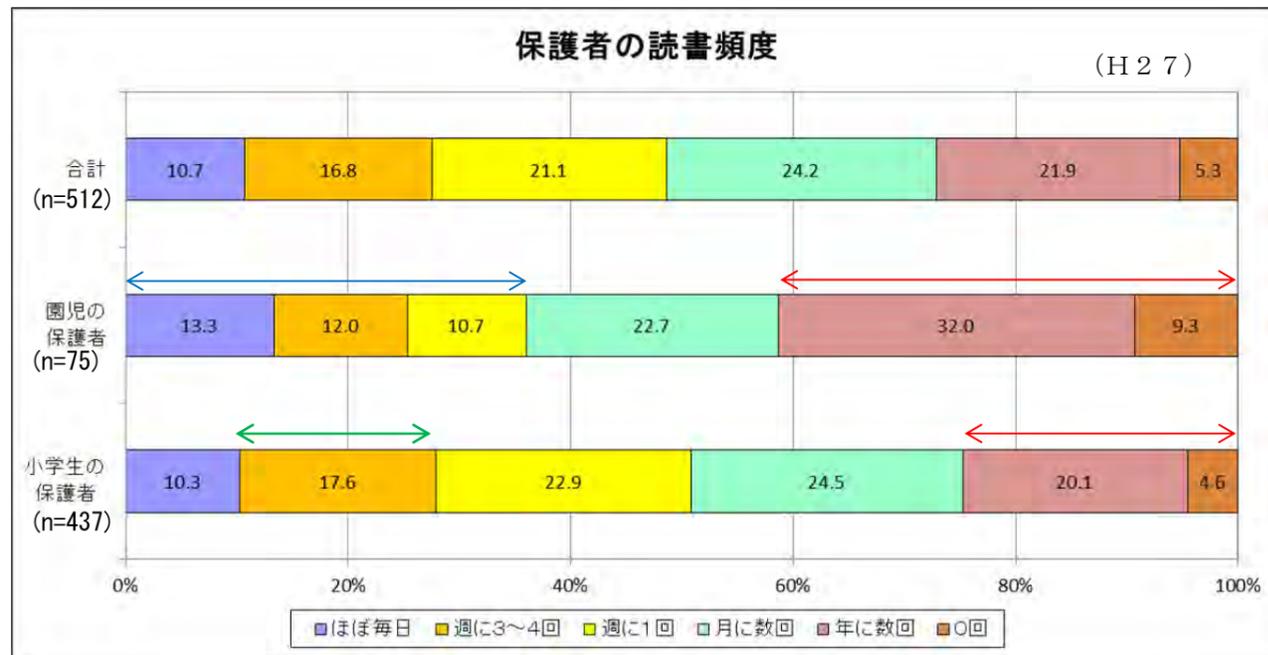
前回（H22）と比較して、「ほとんど読まない」の割合が大きく増え、半数以上に上っている。園児の保護者では「ほとんど読まない」が、なんと65.1%にも上っている。小学生の保護者でも54.2%と、半数以上の保護者が「ほとんど読まない」を選択しているという驚くべき結果となった。前頁の【図表 21】で懸念された保護者自身の読書離れが、本当に深刻な状況にある可能性が否定できない。

男女比較を見ると、園児の保護者と小学生の保護者のいずれにおいても、男児の保護者の方が女子の保護者よりも「ほとんど読まない」の選択割合が高いことがわかる。保育園男児の保護者に至っては「ほとんど読まない」が7割を超え、4冊以上を読むという選択をした保護者も皆無であった。前頁【図表 21】の結果と合わせ考えると、嫌いだから読まないというわけではなく、読みたくても読めない状況だと推測される。保育園の男児は、女兒よりも手間がかかって、読書する時間が割けないということであろうか。

学年別比較では、回答者総数が少ないことから敢えて粗い分析を行うが、保育園の年中の70%をピークとして「ほとんど読まない」という回答割合が高くなっているようだが、同時に「10冊以上」読む保護者の割合が10%と最も高いのもこの年中という複雑な結果となっている。しかし、男女比較と合わせて考えると、この「10冊以上」読むは女兒の保護者であることがわかり、逆に「ほとんど読まない」が70%に及ぶ理由は男児の保護者にあることが明らかであるから、矛盾する結果ではない。



【図表 23】 <本を読む人に聞きます。>あなたは、普段、どれくらい本を読んでいますか。（1つを選択）



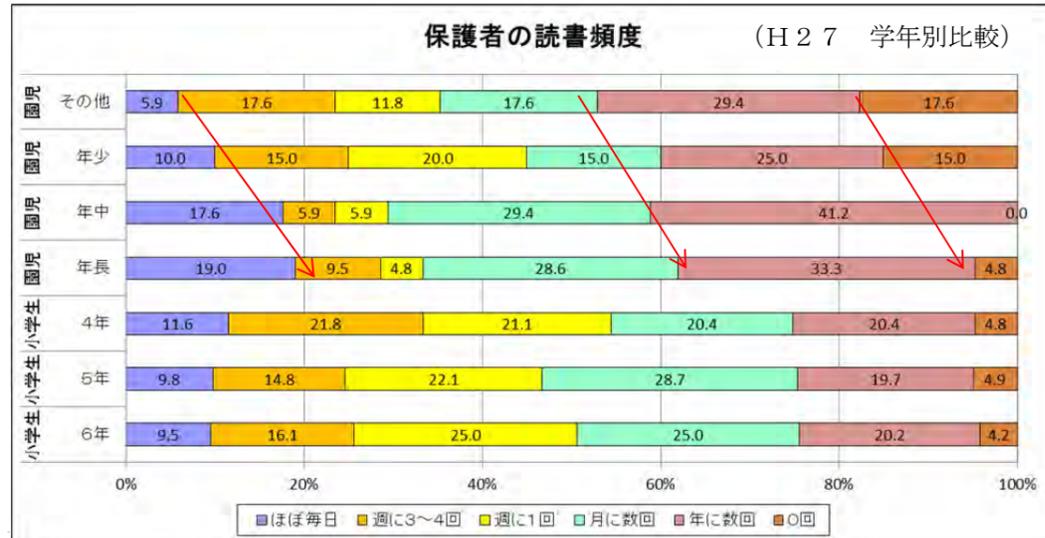
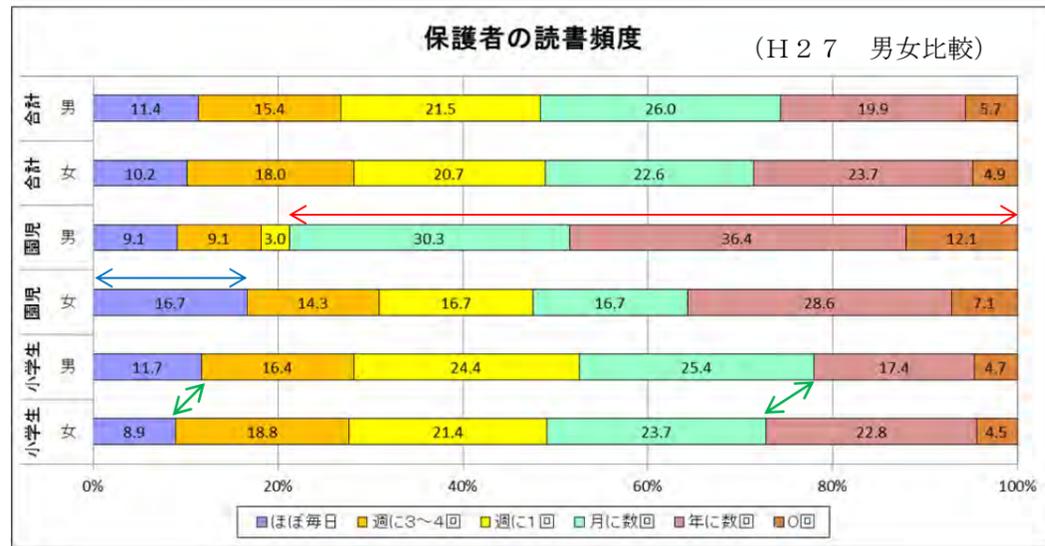
■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、まず、目につくのが「0回」と「年に数回」しか読まない保護者の数が、園児の保護者では20%未満から40%以上へと倍増し、小学生の保護者においても10%近く増加していることである。

それに応ずるように、園児の保護者では「週に1回」以上本を読む割合も、前回の合計46.1%から今回は36%へと大きく低下している。

小学生の保護者では、「週に3~4回」の割合が前回の29.5%から今回は17.6%へと、やはり大きく低下しており、ここでも保護者自身の読書離れが懸念される結果となった。これは、「児童・生徒編」での分析において、小・中学生から見て保護者が「よく本を読んでいる」と感じる割合が前回よりも減少しているという結果と一致している。

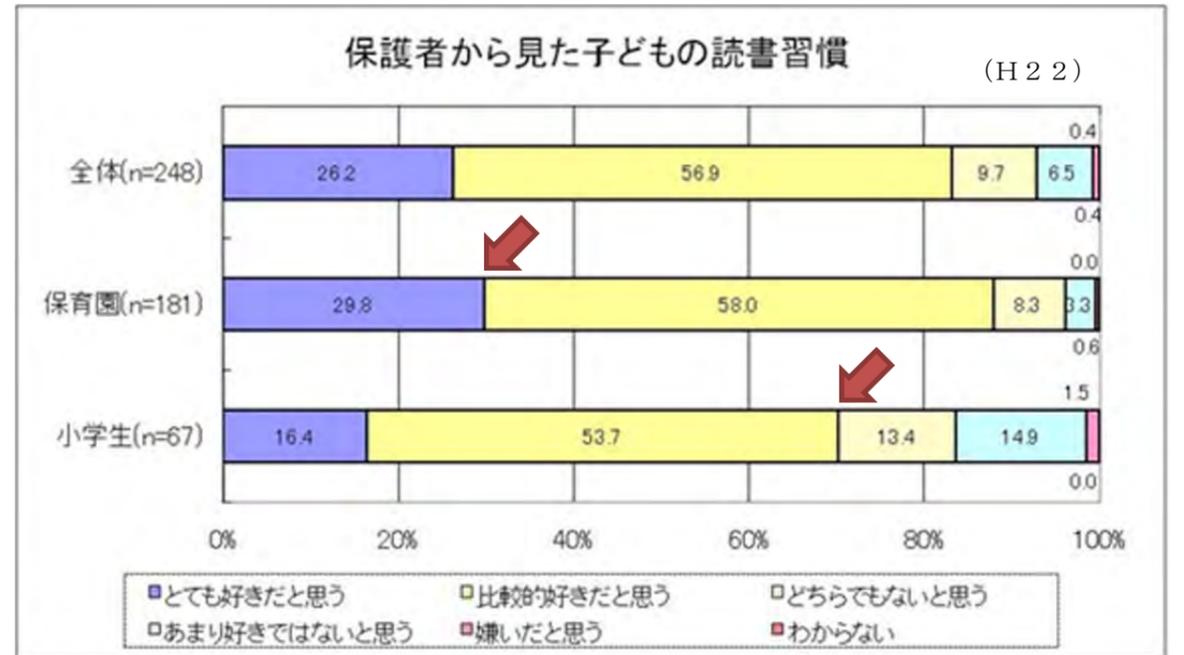
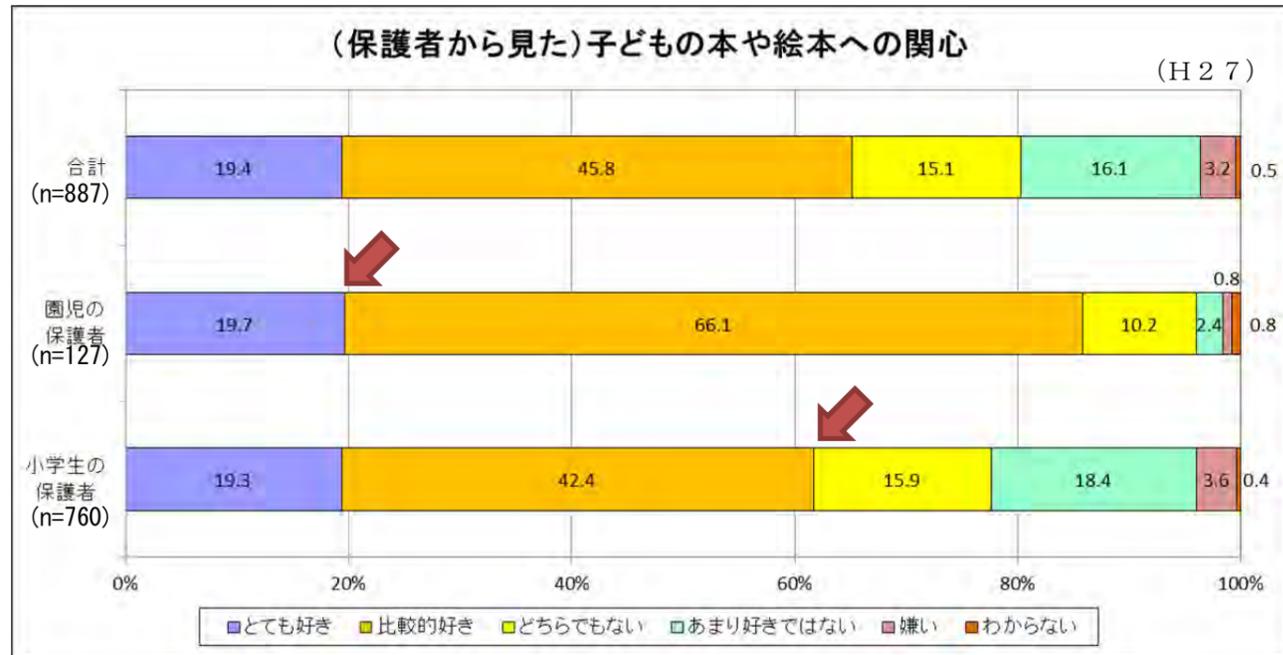


男女比較を見ると、前頁【図表 22】と同じように、保育園男児の保護者で「月に数回」以下の読書頻度の割合が他のどの集団と比べても著しく高いという特異性を示している。同じく保育園女児の保護者の「ほぼ毎日」の割合が16.7%と頭抜けて高いのも前頁【図表 22】での分析結果と一致しているように思われる。

小学生の保護者では、「ほぼ毎日」や「年に数回」の比較などからすると、わずかに男児の保護者のほうが女児の保護者より読書頻度が高いように見受けられる。

この設問は、「本を読む人に」だけを対象に絞っているため、これまでの設問よりさらに回答者数が少ないため、学年別比較の結果の信頼度は低いが、かすかな傾向として、保育園児の年齢が上がるにともない、その保護者の読書頻度も向上しているように思われる。小学生保護者には、あまり特筆すべき傾向は見られない。

【図表 24】 あなたのお子さんは、本又は絵本が好きだと思いますか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、全体的として「とても好き」や「比較的好き」を選ぶ割合が減少している。2つを合わせた割合が、前は80%を超えていたものが、今回は70%を大きく下回っている。

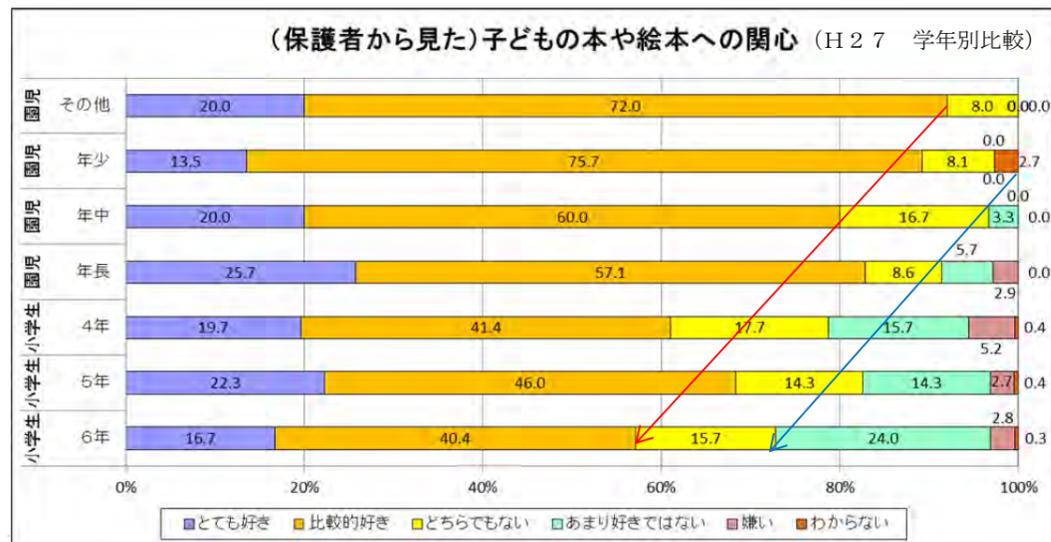
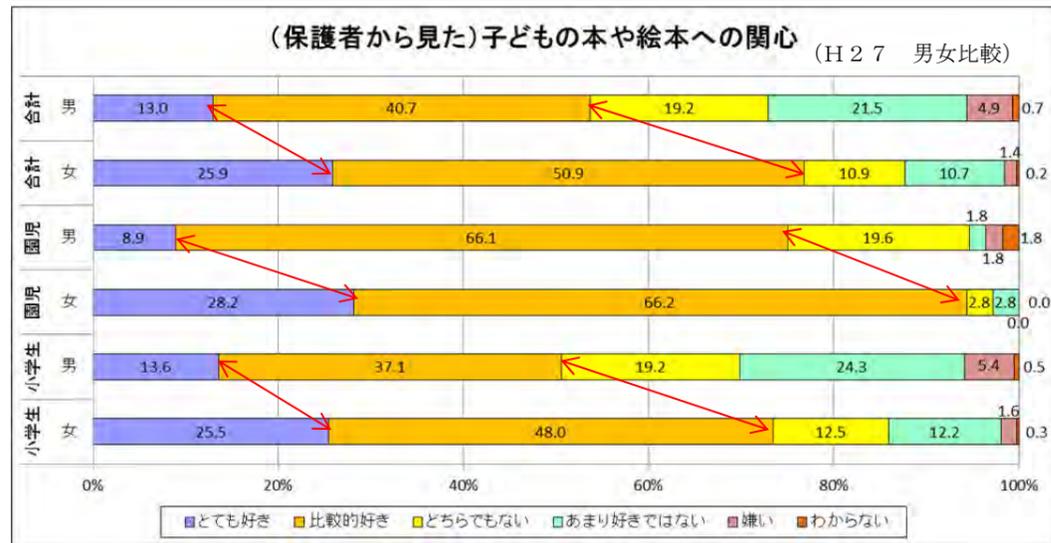
保護者から見た園児では、前回「とても好き」が29.8%と3割近かったものが、今回は19.7%と2割程度にまで落ち込んでいるが、「比較的好き」が前回の58%から今回は66.1%へと増加したことで、2つを合わせた割合ではそれほどの変化はみられなかった。

一方、保護者から見た小学生は「とても好き」が前回の16.4%から今回19.3%と少し増えたものの、「比較的好き」が前回の53.7%から今回は42.4%へと大きく減少したため、2つを合わせた割合も大きく落ち込んだ。園児の保護者より小学生の保護者の数の方が6倍ぐら多いため、全体としての結果は、この保護者から見た小学生の結果に引きずられたものである。

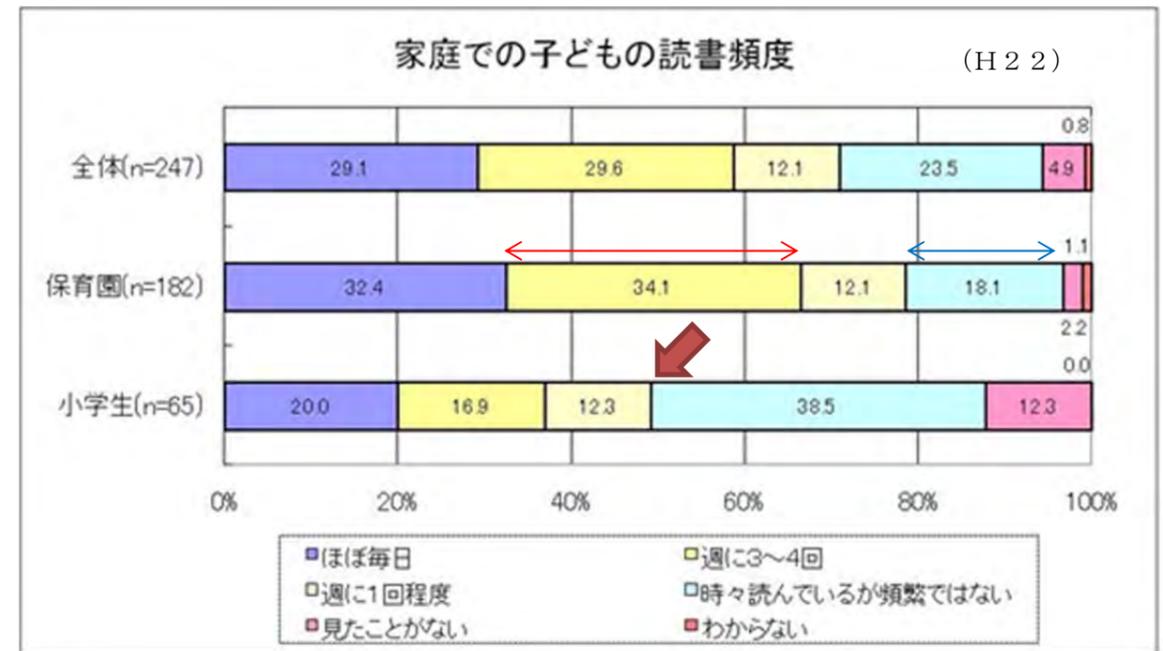
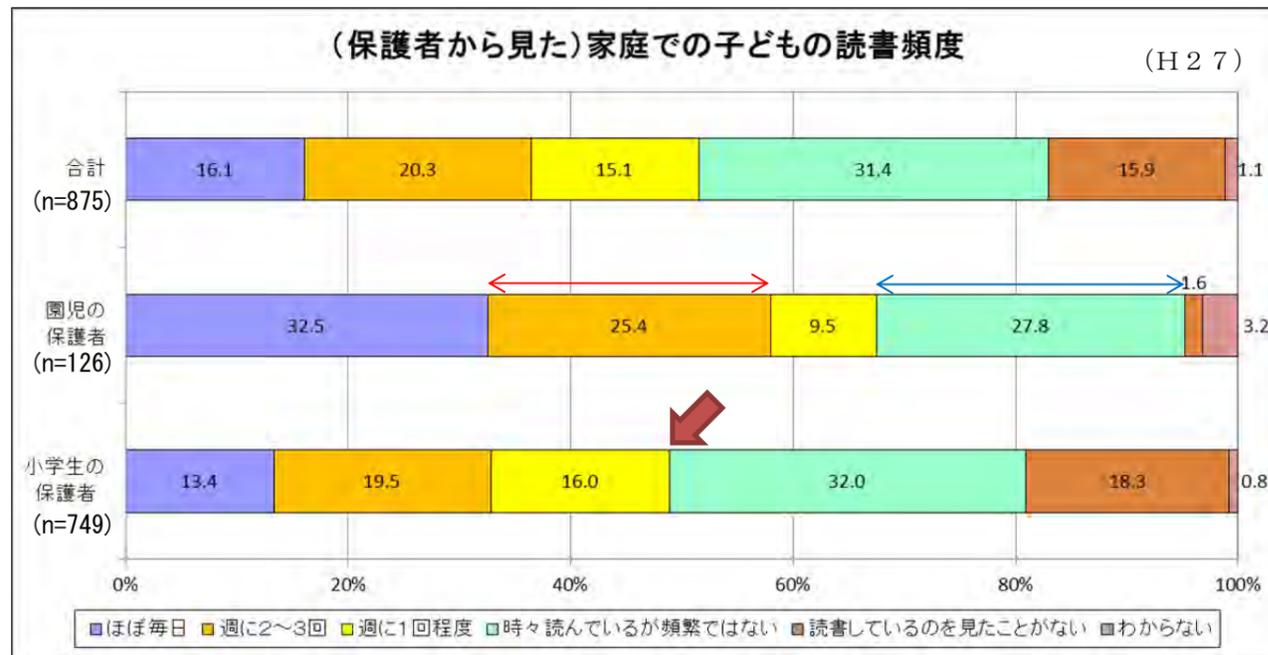
男女比較を見ると、いずれも男児より女児の方が「とても好き」、「比較的好き」の割合が高い。学年別比較では、大きな傾向として年齢が上がるにつれて「とても好き」と「比較的好き」を合わせた割合が減少していき、反対に「あまり好きではない」の割合が増加していることが分かる。

このことから、小学生向けに読書への関心を高める施策を強化する必要があると思われる。

ただし、アンケート対象は、保育園と小学校4～6年生の保護者であり、この間に実際には小学1～3年生のデータが入って初めて正しい学年別比較が可能となることに留意しなければならない。



【図表 25】 あなたのお子さんは、家庭でどの程度読書をしていますか。お子さんが保育園児の場合は、絵本を読む頻度をお答えください。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、保護者から見た園児の読書頻度は「週に2~3回」が前回の34.1%から今回は25.4%へと大きく減少し、かわりに「時々読んでいるが頻繁ではない」が前回の18.1%から今回の27.8%へと大きく低下している。

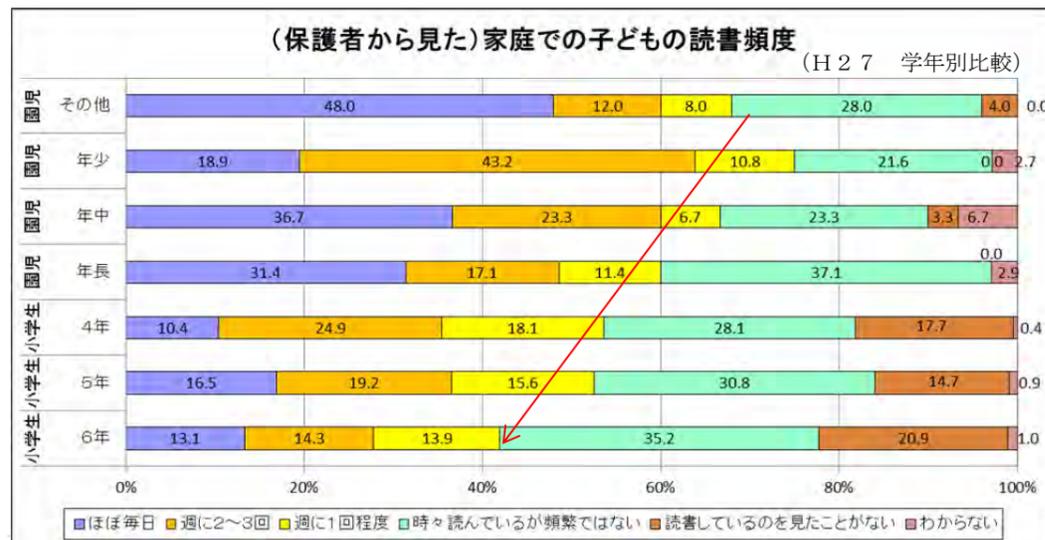
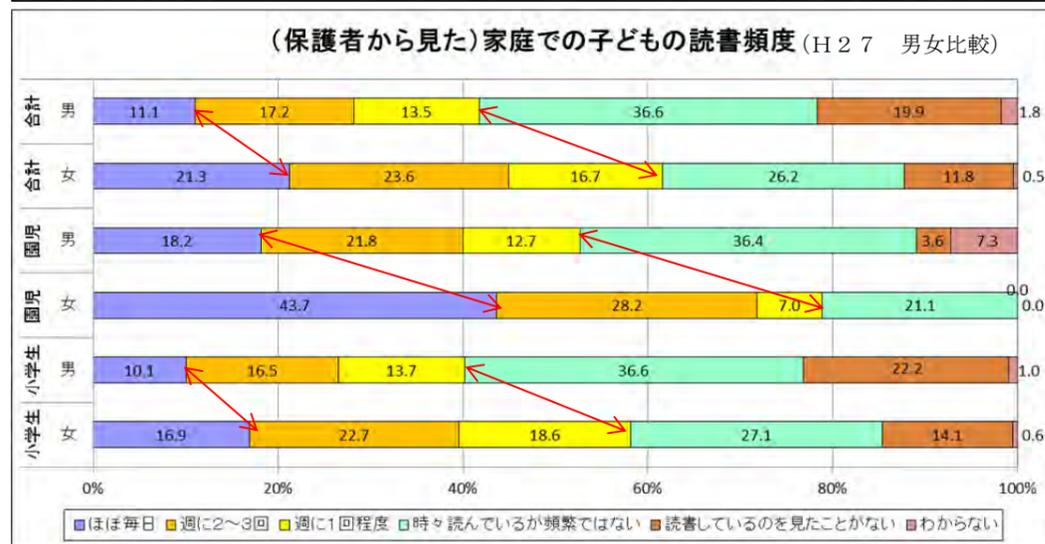
保護者から見た小学生では、各選択肢の配分にそれぞれ前回との増減がみられるが、「週に1回程度」以上読む割合の合計で比べると、前回と今回のともに50%弱と大きな違いはない。

全体の傾向において、読書頻度が前回より低下したように見えるのは、前回と今回の小学生の保護者の回答者総数が10倍以上違うためであり、今回の全体合計は、ほとんど小学生の結果に引きずられたものである。

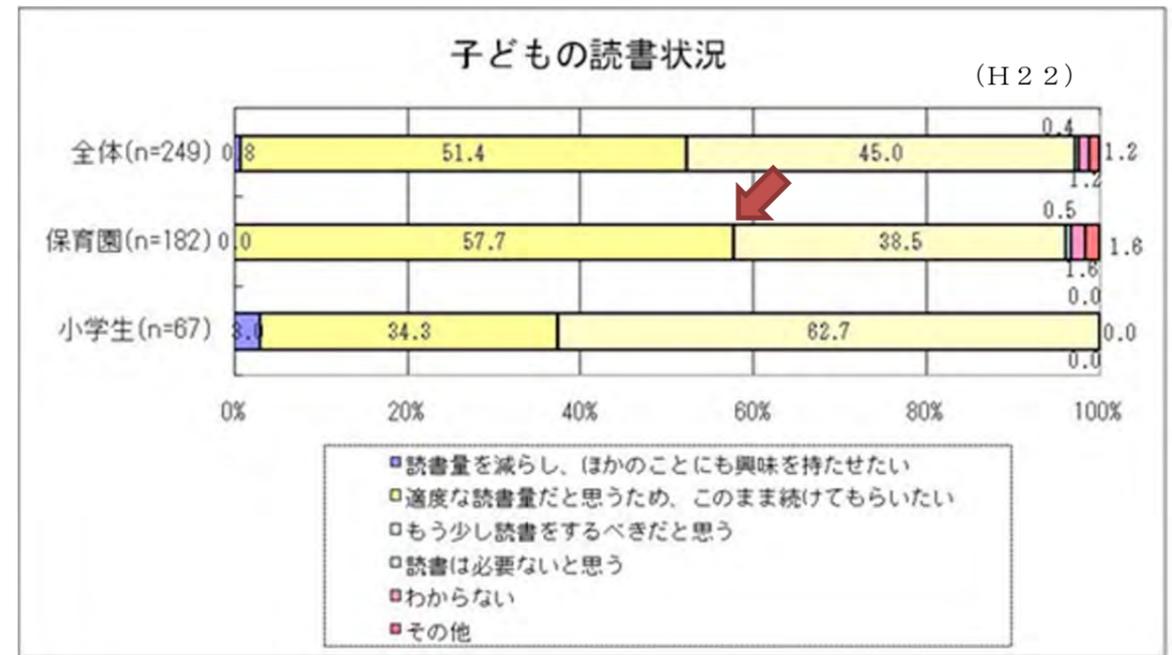
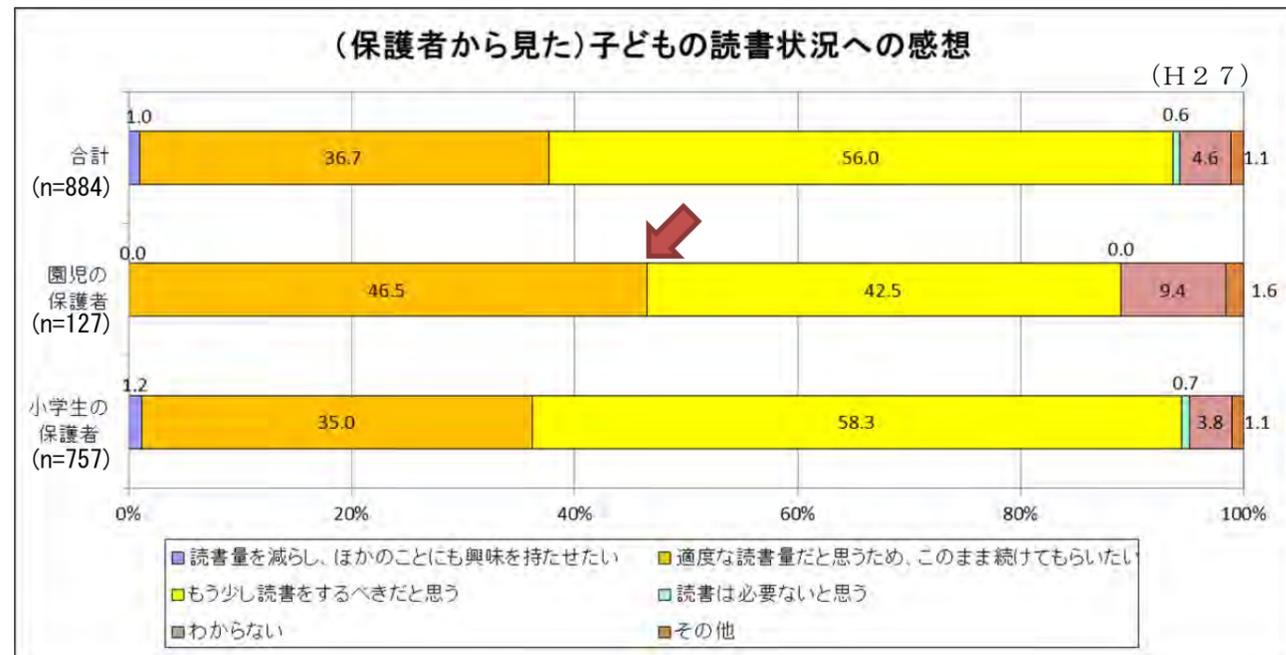
男女比較を見ると、いずれにおいても男児より女児のほうが読書頻度が高いと受け止められている。

学年別比較では、大まかな傾向として、年齢が上がるとともに読書頻度の低下が伺われるが、対象の学年が連続していないこと、園児において対象者数がかなり少ないことに留意したうえで、分析結果を受け止める必要がある。

この結果と、「児童・生徒編」における小学生自身が評価する読書頻度とを比べると、小学生自身では「週に2~3回」以上読むと申告している割合が60%を超えており、保護者から見た小学生での30%強という割合とは倍の違いがあることがわかる。「うちの子は本を読まない…」と言う前に、今一度、子どもの読書活動について、イメージではなく、実際の様子を、保護者は把握する必要があるのではないだろうか。



【図表 26】 あなたのお子さんの読書の状況について、どのようにお考えですか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、特筆すべきは、保護者から見た園児における「適切な読書量だと思うため、このまま続けてもらいたい」が前回の57.7%から今回は46.5%へ減少し、そのかわりに「もう少し読書をするべきだと思う」が前回の38.5%から今回の42.5%へと増加している点であろう。

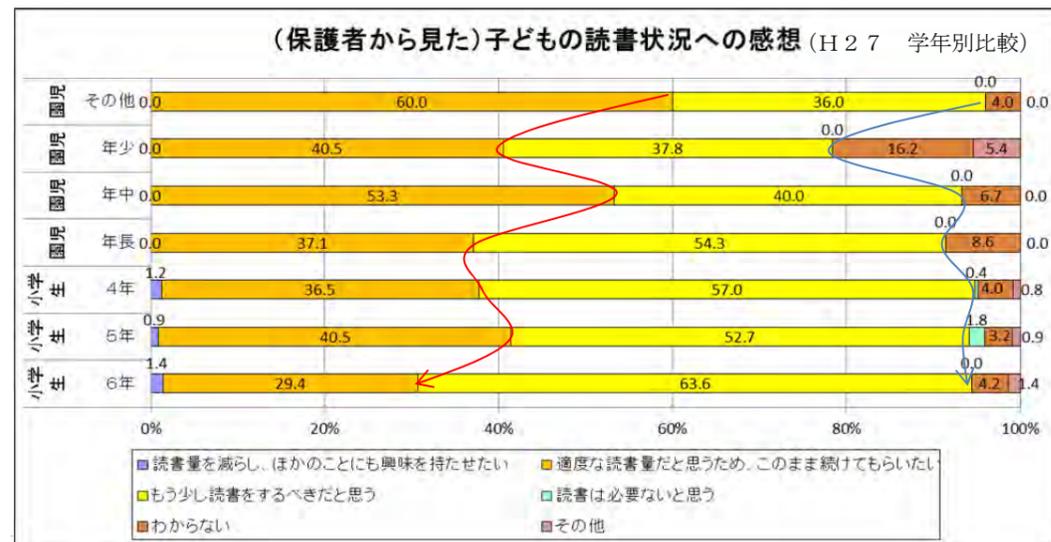
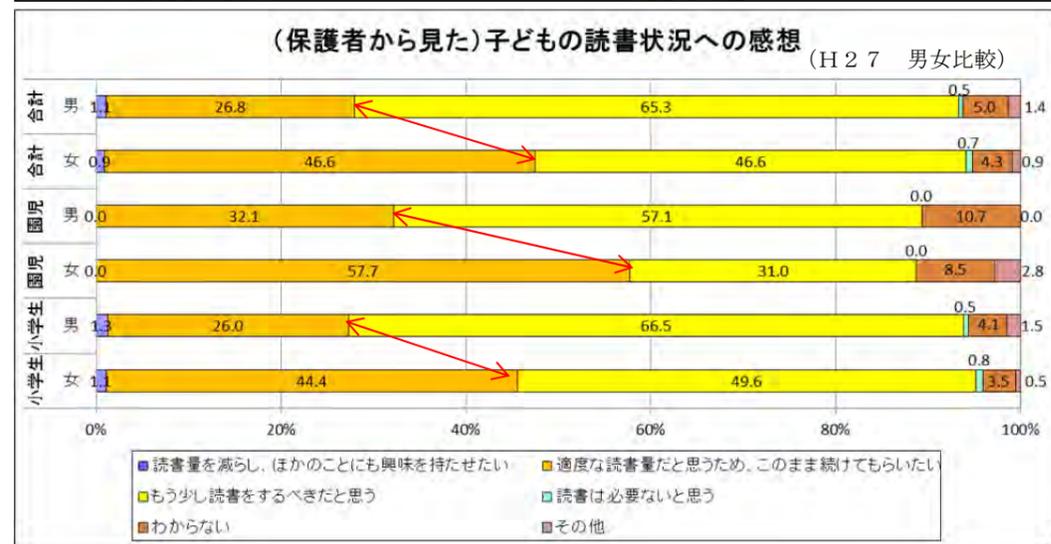
保護者から見た小学生では、「わからない」や「その他」が現れたことによって、今回少しだけ「もう少し読書をするべきだと思う」が減少しているが、小学生のグラフ全体としての傾向には前回からあまり変化はない。

男女比較を見ると、いずれにおいても男児の保護者より女児の保護者の方が、子どもの読書量を適度であると感じていることがわかる。

残念ながら学年別比較からは、あまり明確な傾向は読み取ることができない。強いて言えば、年齢が上がるとともに「適切な読書量」が低下し、「もう少し読書をするべきだと思う」が増える傾向が、多少窺える。

この結果と、「児童・生徒編」における小学生自身が「自分の読書についてどう思うか」の分析結果とを比べると、小学生自身は「十分」又は「適度」な読書量だと自身を評価する割合が合計で50%を少し上回っており、前頁の読書頻度に関する分析結果と同様に、保護者と子どもの間での評価に大きな隔りがあることが明らかとなった。

今後、子どもの読書活動を活性化するためには、このような評価の食い違いを解消していかなければ、子どもたちに受け入れてもらえるような施策を行うことは困難だと思われる。



【お子さんの読書状況について】 その他（自由記載）意見

保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	絵本はよく見えています が、字はまだ読めま せん	自分では見るぐらいし かできないけど、な かなか親が読んであ げられない 本人も読んでいる（見 ている）が、もっと 読み聞かせをしてあ げたい	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
自分が読書好きではない為、仕 方ないかなと…。 <u>妖怪ウォッチ以外の本も読ん でほしい</u>	<自由記載なし>	どんな事にも興味を持つこと は大切だと思う。 <u>内容をじっくり読むようにし てほしい</u> 必要ならば読むようになると 思う	<自由記載なし>	同じ本を繰り返し読むのも良 いが、 <u>他の分野の本を読んで ほしい</u> です。 読書の楽しさを知って欲しい 本を読むようにしていますが、 メリハリがないので困る 幼い時は、寝る前に毎日読んで いて、喜んで聞いてくれてい たけど、今は、習い事など遊 びたかったりと、なかなか、 時間がない	<u>まんが</u> を読んでいる事が多い ので、 <u>もう少しためになる本 を読んでほしい</u> 。

【お子さんの読書状況について】 「読書が必要ない」を選択した理由（自由記載）意見

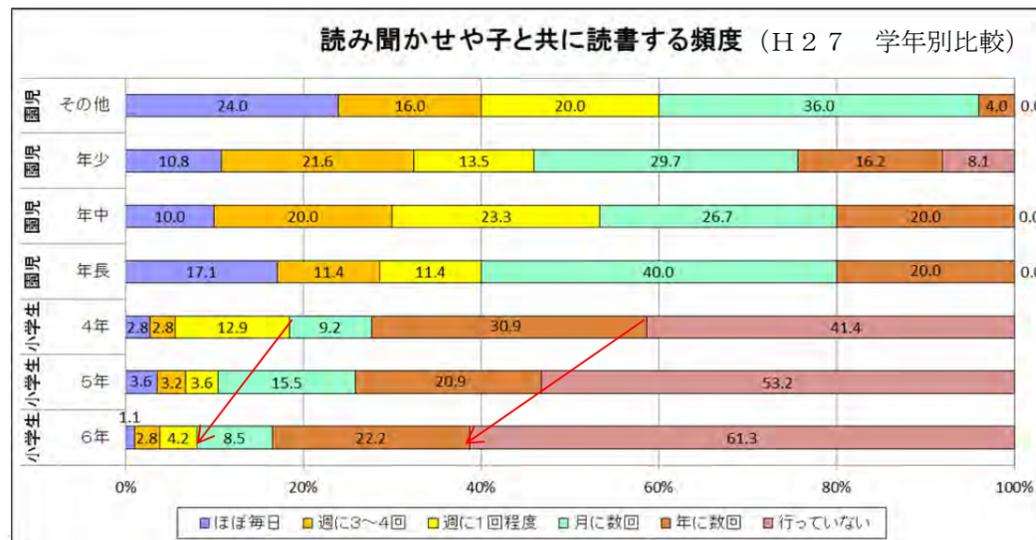
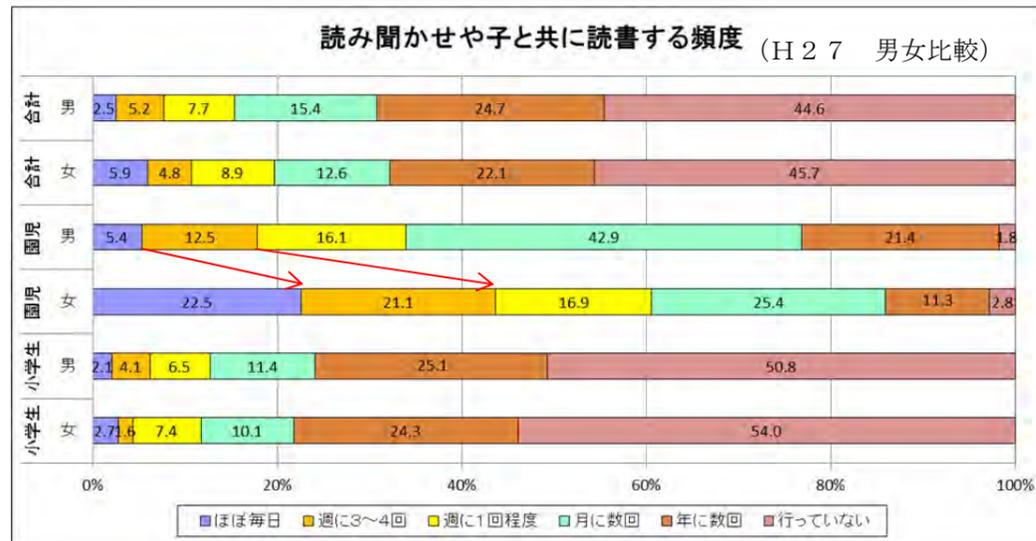
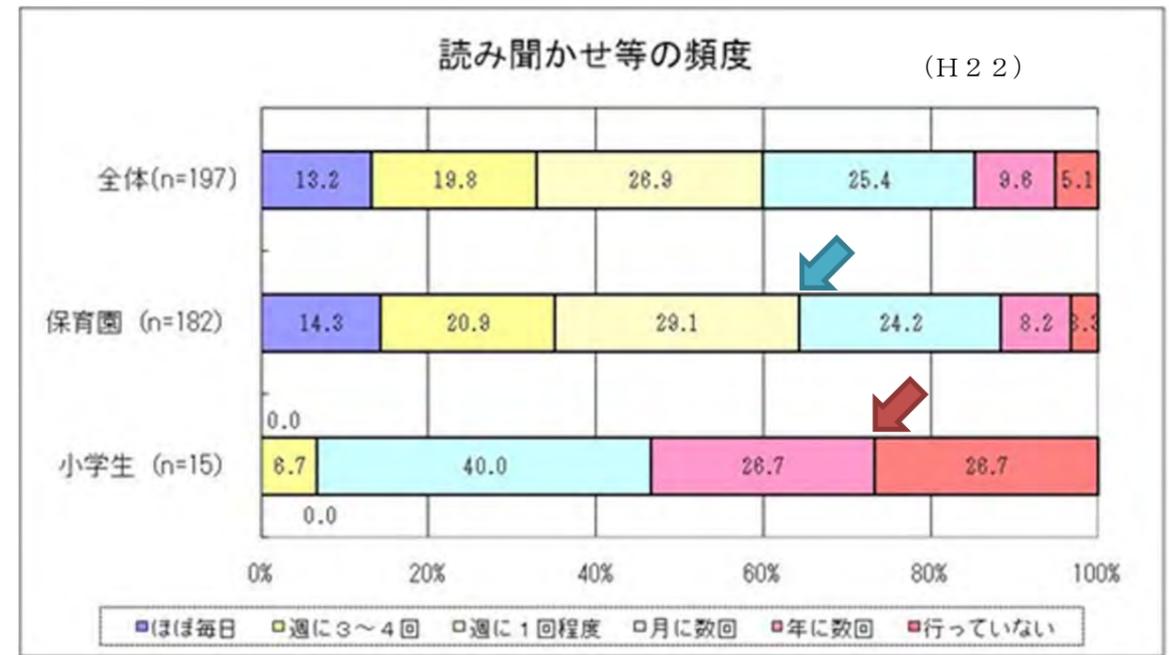
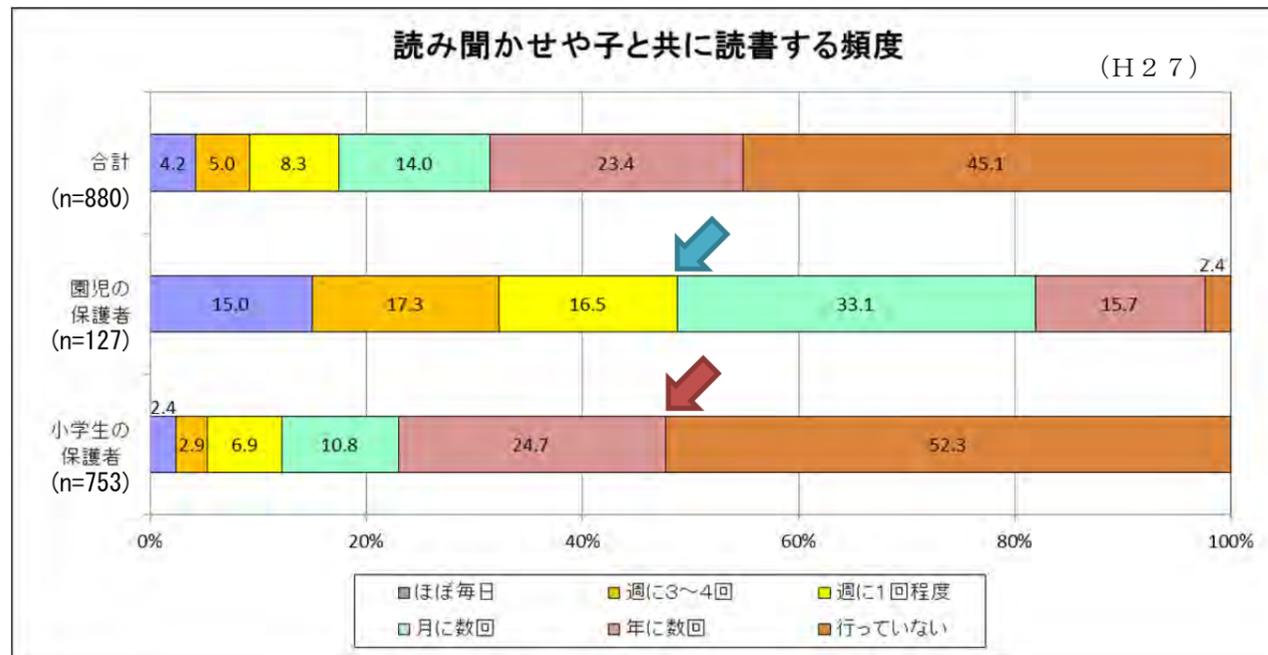
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	なんにもわかんないから	<b>必要ないというか、まんがでも 読むことはとても良いと思 うのに、まんがを除く理由が 分からない。本の種類に線を 引かないで欲しい。</b>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

【図表 27】 ご家庭で、お子さんに読み聞かせをしたり、お子さんと一緒に読書をしたりすることはありますか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、園児の保護者では「週に1回程度」以上読み聞かせなどを行う割合が、前回は60%を大きく超えていたのが、今回は50%をやや下回っているのが気にかかる。

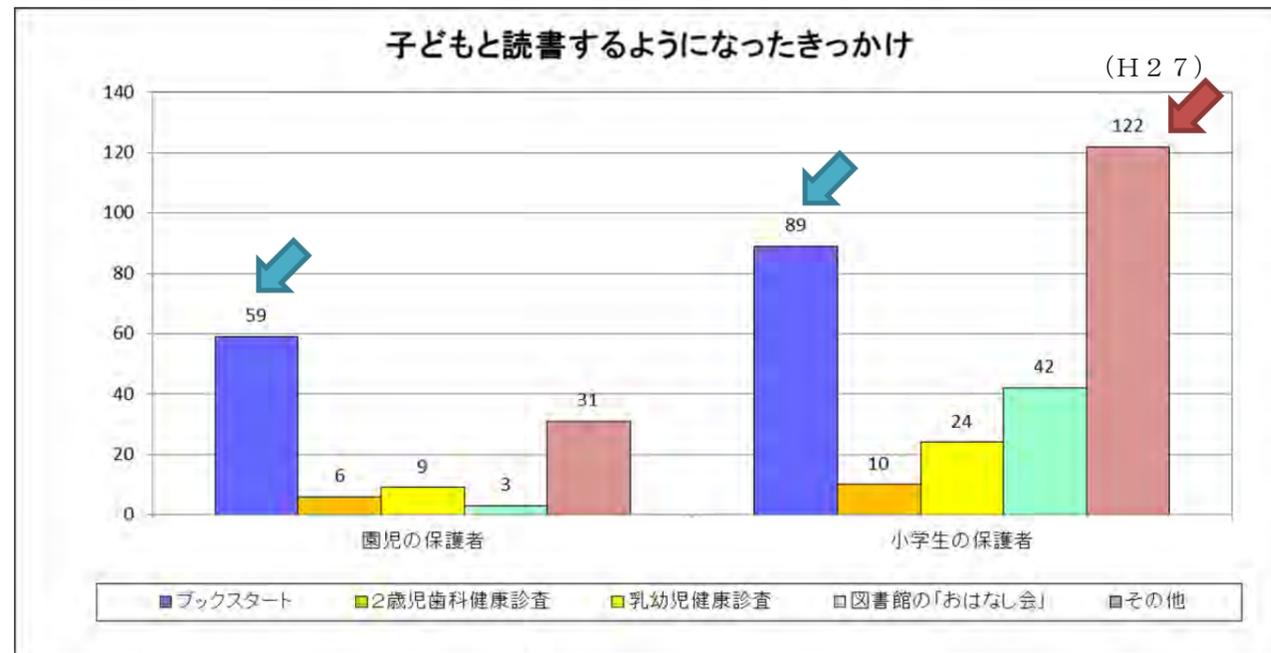
小学生の保護者では「行っていない」の割合が、前回の26.7%から今回は52.3%とほぼ倍増し、半数を占めるに至っている。子どもに「もっと読書をしてほしい」と思いながらも、読み聞かせや子と共に読書をするという行動には繋がっていないようである。

男女比較を見ると、園児の保護者で、男児の保護者より女児の保護者の方が「ほぼ毎日」や「週に3~4回」など頻度が高い傾向が強く見て取れる。一方、小学生の保護者では、それほど明確な男女差は見て取れず、わずかに女児の保護者の方が活動頻度が少ないように見える。

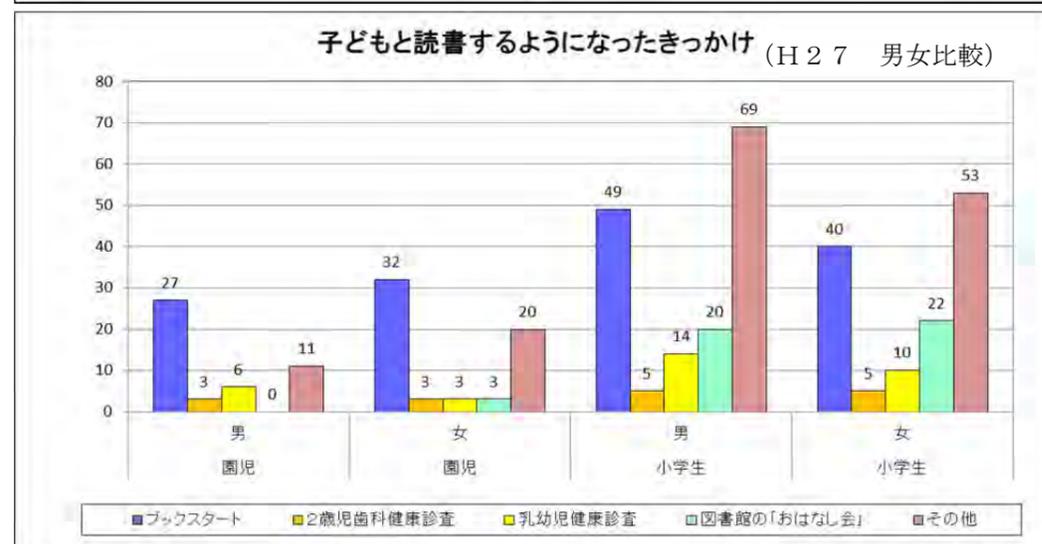
学年別比較では、小学生の保護者について、子どもの学年が上がるに伴って活動頻度が低下していく傾向が見てとれるが、これは「児童・生徒編」における小学生のみへの設問「ほかの人に本を読んでもらうのが好きか」への回答と照らし合わせると、児童自身が高学年になるほど、それをあまり望まなくなる傾向にあるので、必ずしも問題であるとは言えないだろう。

残念ながら、保育園については回答者数の少なさから、はっきりとした傾向は読み取れない。

【図表 27-1】 <お子さんと一緒に読書をする人に聞きます>お子さんと読書をするきっかけとなったことはなんですか。(複数選択)



前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)



【複数選択における棒グラフの見方】

小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

<分析>

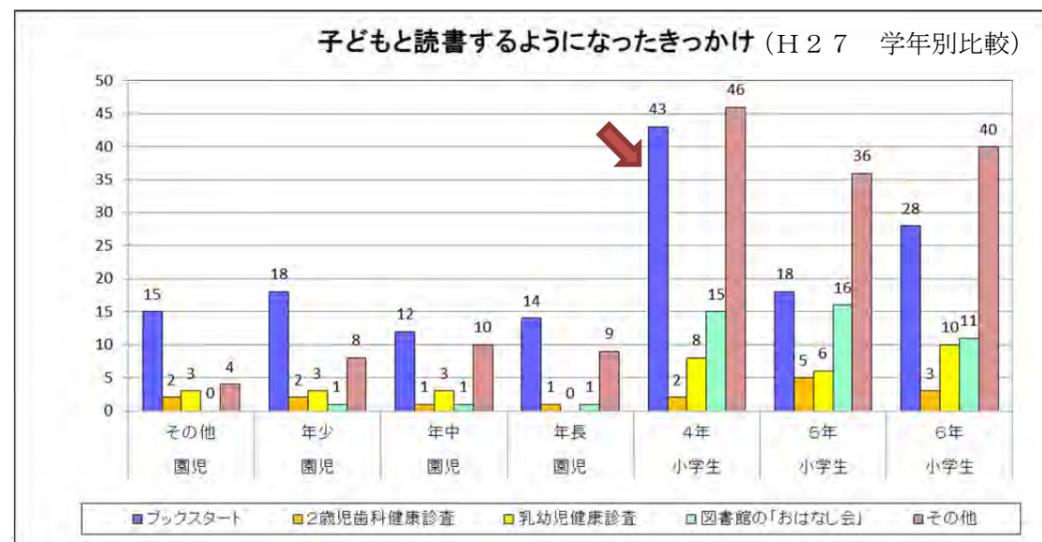
園児の保護者と小学生の保護者のいずれにおいても、やはり「ブックスタート」をきっかけとする回答が多数を占めるが、小学生の保護者においては、意外にも「その他」の選択が最も多数に上った(その他の内容については、次頁の「その他(自由記載)意見」を参照のこと。)

「その他」の選択数は園児の保護者においても比較的多いため、そもそも選択肢の幅が狭すぎて、実態を正しく反映するには不十分だった可能性がある。

次頁の「その他(自由記載)意見」にざっと目を通すと、園児の保護者では「兄弟の影響」が、全般的には「保育園」や「寝る前の習慣」などの意見が多いようである。次回、同様のアンケートを行う場合には、これらを踏まえて適切に選択肢を設定する必要があるだろう。

男女比較では、いずれも明確な男女差は見られない。

学年別比較でも、明確な傾向は見当たらないが、小学4年生の保護者の回答において「ブックスタート」の選択が他の集団よりも突出しているのが際立っている。小学4年生の保護者だけに何か特別な事情があるのだろうか。



【子どもと読書するようになったきっかけ】 その他（自由記載）意見

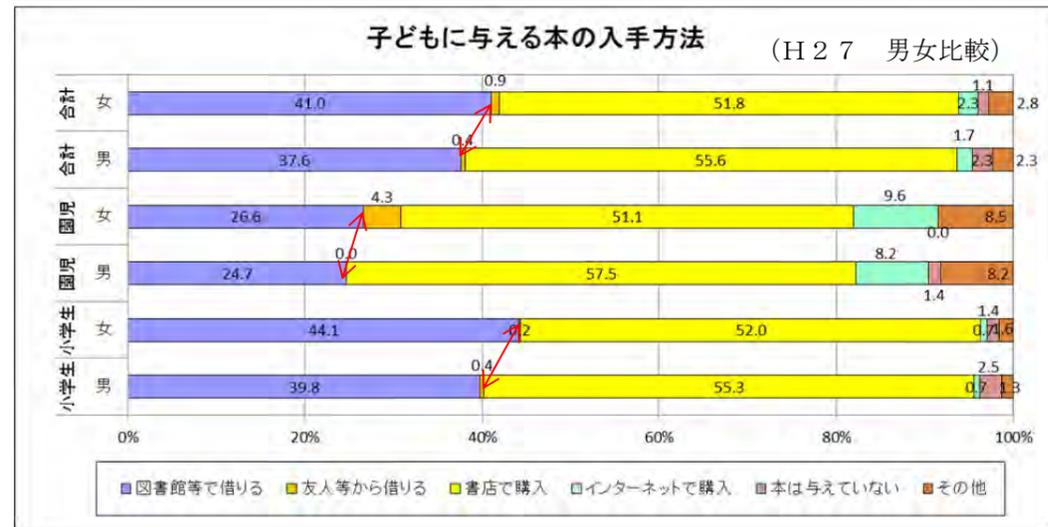
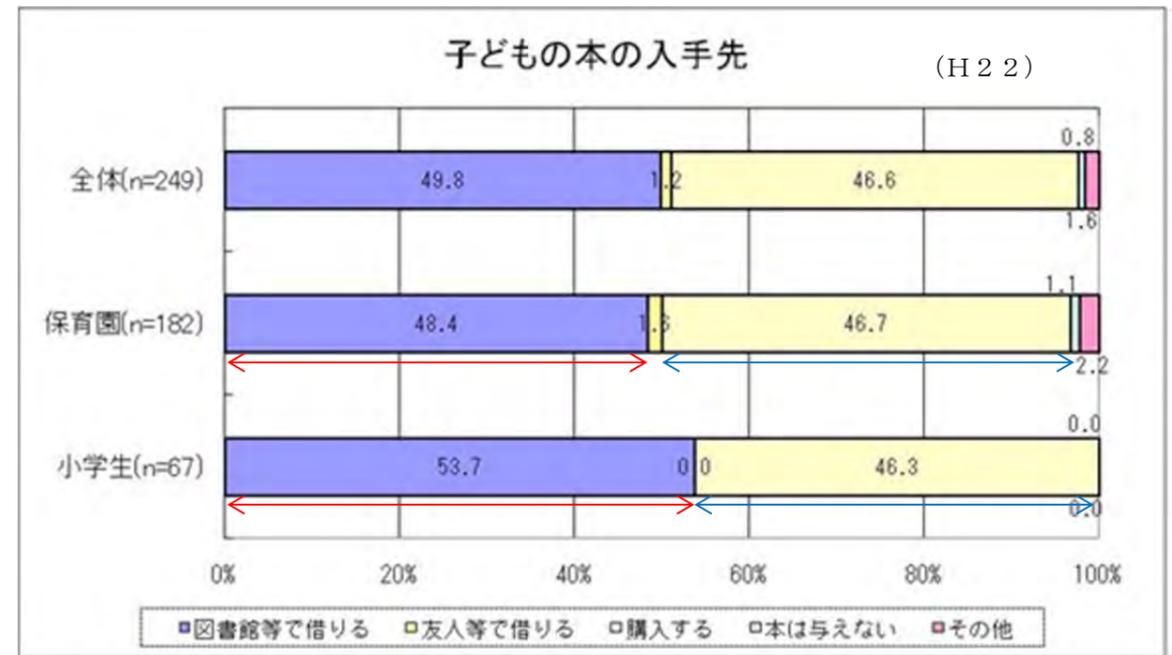
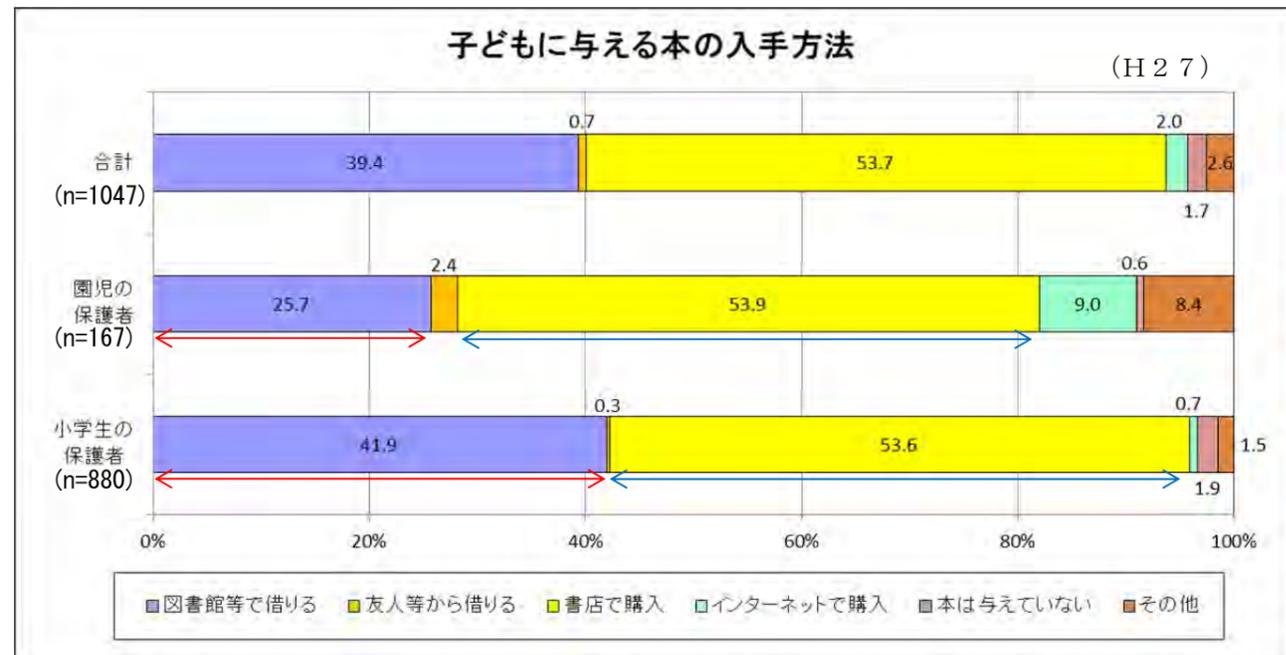
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
お姉ちゃんと一緒に読んでいたから	お兄ちゃんが本に興味を出してから	子どもが絵本を読んで、と言うようになってから母が読んでくれていたから	ねる前の習慣 家にある子ども向けの本を読んで 兄妹のえいきょう 本を好きになってほしかったので。テレビなどで読み聞かせの効果などをみて。	自分が子どもの頃、絵本をたくさん読んでもらっていたため 特にきっかけはないです。子どもに本を読むのは当たり前だと思っているので。 保育園での先生の読み聞かせ、お遊戯会の内容	お兄ちゃんの絵本があるため 家庭、保育園 絵本を読むことが子育てによいと思ったから 子育ての講座で読み聞かせが子どもの情緒によいことから 出産祝いで本をもらったことがきっかけ 寝る前の読み聞かせをきっかけに 妹が生まれ、里帰りの際に祖母が絵本を読んで寝かしつけてくれたことがきっかけとなった。	子育ての講演を聞いてから本を読むのがよいと思ったから	しまじろう（ベネッセ） 子どもに言われて図書館でかりてから 生後3か月の頃、知人に絵本をプレゼントしてもらったことがきっかけ 長女（姉）の時から自然とやっていたため

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
1歳の時から保育園に入っていて先生にすすめられたので 1人だと読書しないのでスキンシップのいっかんとしてとくになし 育児本 音読の時 夏休みの作文の文章力があまりに低かった為 家に本があったから 子育てサークルの時？ 子供が持ってくるから 自分の母親が自分に読み聞かせをしていたから自然と 自分も子どもの頃によんでもらったという記憶 主人や身内に本が好き人が多い為 小さいころは寝る前に毎日読んでいた。今もときどき。 寝る前に読むタイムを設けた 寝る前の読み聞かせ 寝る前の読み聞かせ 親がよむ本をのぞきこんでいたので自然に。 人に聞いて 保育士なので子どもに読んであげたいと思ったから 母が本好き 本屋に行っておもしろそうなを買ったから	かわいい絵本などを見つけた時とくになし。なんとなく。 なんとなく なんとなくその場の雰囲気 音読の宿題 家にあった本と一緒にパラパラしたのがきっかけ 絵本が好きで自分でも読みたかったから 絵本のよさを知識として得ている為（仕事が保育） 義母さんが、たくさん本を読んでくれていたのだから 産まれる前から知っていた 自然に 自分も好きで購入していたから 実家で読んでもらっていたため 小学校での読み聞かせのボランティア。自分も読んであげるのが好き。 小学校の読み聞かせボランティアを始めたから 上の子に読んでいて 図書館で本を借りるようになって 妊娠中にお腹の子にむけて読んでいた 保育園の絵本 保育園の本の貸出し 娘の言葉が遅かったのだから、絵本の読み聞かせから始めました	きっかけは特になし ポピーに本がついている。 もともと本を好きな子になってほしいと思っていたため 何となく自然に 絵本がすきだから 元々読書が好きなので自然に 子どもが読んでと持ってくるので 子供に「読んで」と言われたから。 自然に 自分が読んでいると絵本を持ってきて読んでと言う。 出産祝いに絵本をもらい「よみ聞かせ」について知ってから 寝るときに読んでほしいといわれるため。 寝る前に絵本を読み始めたことから 寝付き行事にしたかったので、母親からのアドバイスもあり始めた 昔から図書館が好き 読み聞かせが大事と認識していて、 長男が赤ちゃんの時から毎月2冊ずつ絵本を購入していた（童話館ブッククラブ） 保育園での絵本の貸し出し、保育園での絵本の購入 毎夜、寝る前に読み聞かせをしている。 幼いころからの習慣 幼児の時から寝る前に布団の中で読んでいたから	気がついたら 子どもが読んでいた本がとても楽しい本だったので読む様になりました。 子どもが本を読んでというので 子育てサロン 子供に読んでと頼まれたから 自分が絵本や本が好きだから 自分が読んであげたかったから 自分も親に読んでもらっていた為 就寝前の読み聞かせ 小さい頃からねる前に本を読んであげるようにしてました。特に理由がある訳ではないです。 寝る前に必ず読み聞かせをした 世の中に活字があったから 赤ちゃんからの習慣	お腹にいる時から読み聞かせがしたくてやっていた ボランティアで絵本の読み聞かせをしているのでその練習につきあってもらっています。 一緒に図書館に出掛けたりしたから 子どもが読んでほしいというから 子供が喜ぶから 子供のゲーム時間を減らすため 自分が読み聞かせする立場になったこと 自分の母親が自分に読み聞かせをしていたから自然と 自分の幼いころの体験 1.32 自分はいつも本を読んでいたが、子どもにも勧め一緒に読むことが時々ある 書店などで興味のある本を選んで読んで読んで読んで読む感じ 小学校の読み聞かせのボランティア、読み聞かせが好き 赤ちゃんのころから読み聞かせをしている。男の子なので6年で最後かな 赤ちゃんの頃から読み聞かせはしていないので、特にきっかけはなかったです。 読み聞かせボランティアをはじめたから 保育園の絵本 本が好きだから 1.351.3	お祝いでたくさん本をいただいたので もともと母が本好き 家に本がたくさんあったから 絵本を含め、本を読むことは、心の栄養だと思っている為、ただ、今は年々一緒に読む時間が減っていて反省 子どもが好きだから 子供が読んで欲しいから 私が本を読むことが好き。家庭に本がたくさんある。 自分が好きだったから 赤ちゃんのころから読み聞かせをしていたから 特になし 本は心を豊かにするので、物心付く前から一緒に楽しんでいます。 毎日の日課 幼稚園で絵本を買った

【図表 28】 あなたのお子さんに本を与える際、主に、どこでその本を入手しますか。（1つを選択・複数でも可）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。  
 なお、今回は複数の選択も可となり、さらに「インターネット購入」の選択肢も増えている。

<分析>

前回 (H22) と比較して、いずれも「図書館で借りる」の割合が大きく低下し、その代わりに「書店で購入」や「インターネットで購入」が増加している。

特に園児の保護者では「図書館で借りる」が前回の 48.4%から今回は 25.7%へと激減し、代わりに「書店で購入」が前回の 46.7%から 53.9%へと大きく増加しただけでなく、今回から追加した選択肢の「インターネットで購入」の割合も 9%に上っており、深刻な図書館離れが懸念される。

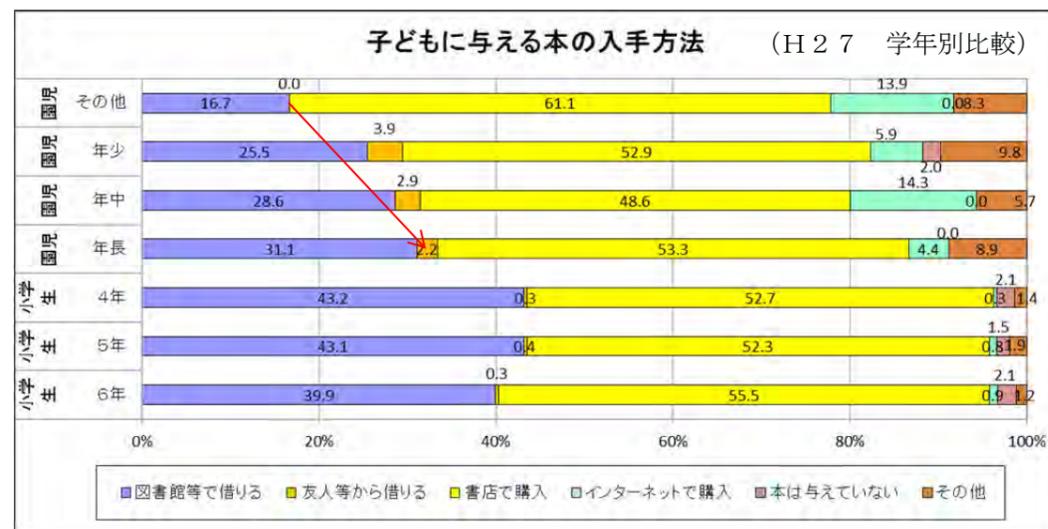
園児の保護者ほどではないが、その傾向は小学生の保護者でも同様で、「図書館で借りる」が前回の 53.7%から 41.9%へと大きく低下し、逆に「書店で購入」が前回の 46.3%から今回の 53.6%へと大きく割合を伸ばしている。

男女比較を見ると、いずれにおいても男児の保護者より女児の保護者のほうが「図書館で借りる」割合が高く、逆に「書店で購入」を選ぶ傾向はわずかに男児の保護者の方が高くなっている。

学年別比較では、回答者数が少ないながらも園児の保護者において年齢が上がるとともに「図書館で借りる」割合が少しずつ増加する傾向が窺える。

小学生の保護者では、それほど明確な傾向は読み取れない。

今回の設問にはないが「なぜ、その入手先を選んだのか」についても調査し、対策を考える必要があるだろう。



【子どもに与える本の入手方法】 その他（自由記載）意見

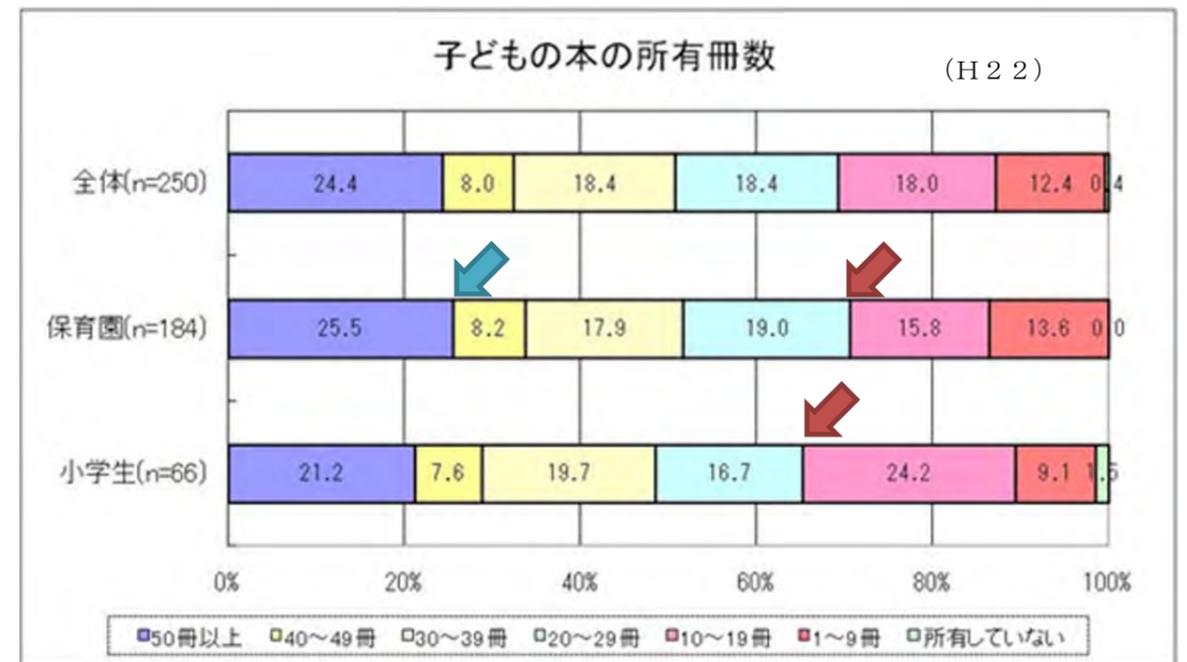
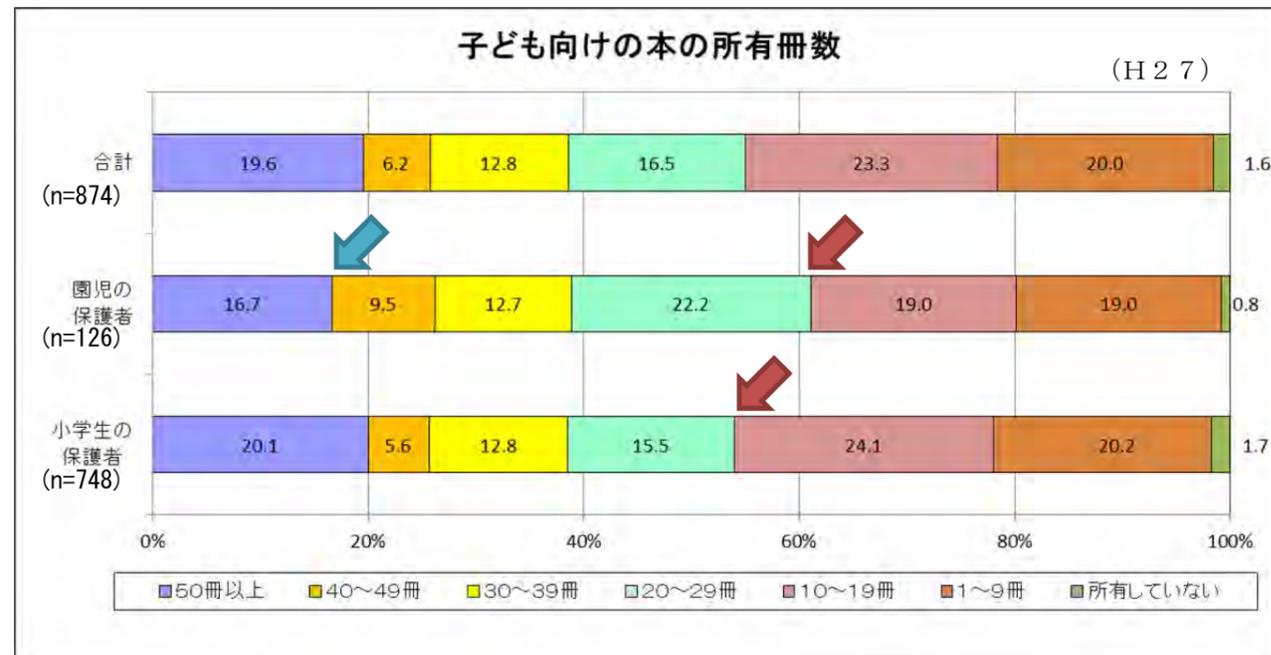
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
家にたくさん絵本がある	プレゼント	図書館で借りてから	もらう 兄の本 習い事の教室で借りる	家にある物	家庭、保育園の絵本	上の子のもの	プレゼント 家にたくさん絵本がある

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
学校の図書室で借りる 学校の注文時 保育園で購入	誕生日のプレゼント	ほしいといった時お金があればかう	学校で借りてくる 学校で借りる 自分自身が子どもころに読んでいたもの。	古本屋 祖父母から	自分の持っている本を貸す

【図表 29】 ご家庭で、子ども向けの本をどの程度所有されていますか。(1つを選択)



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回 (H22) と比較して、いずれも 20 冊以上の所有者の割合が大きく低下している。

園児の保護者では、20 冊以上の所有が前は 70%以上であったのが、今回は 60%を少し上回る程度にまで落ちている。小学生の保護者も、前は 60%を大きく上回っていたのが、今回は大きく下回った。

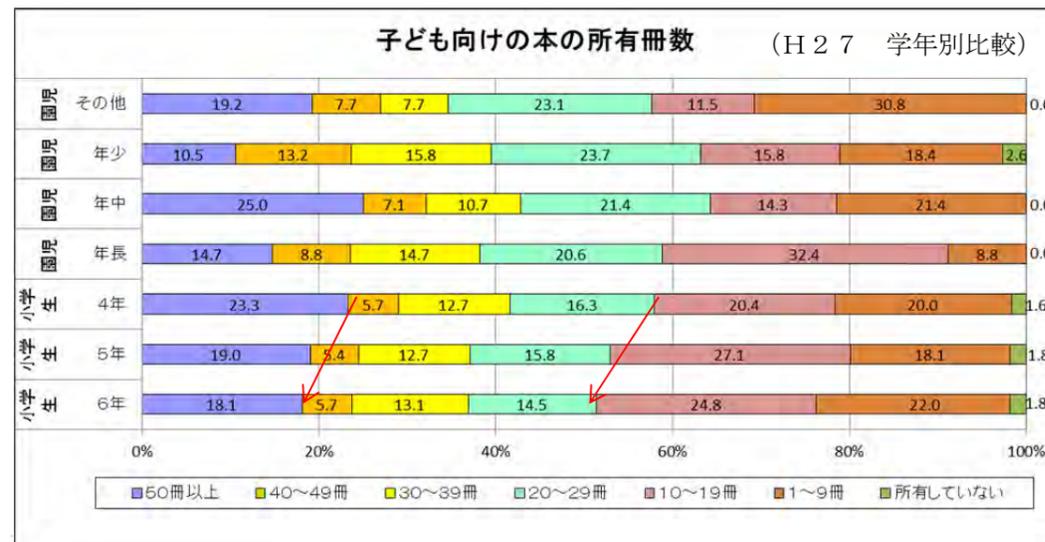
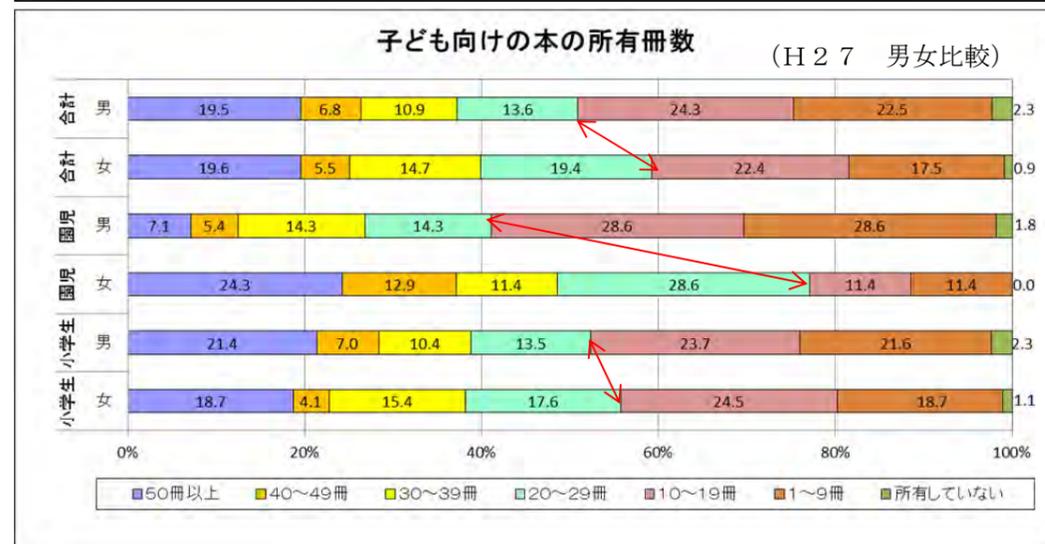
特に、園児の保護者で「50 冊以上」を所有する割合が、前回の 25.5%から今回は 16.7%へと大きく低下しているのが目立つ。

男女比較を見ると、いずれにおいても 20 冊未満の所有者の割合が、男児の方が女児より多い。

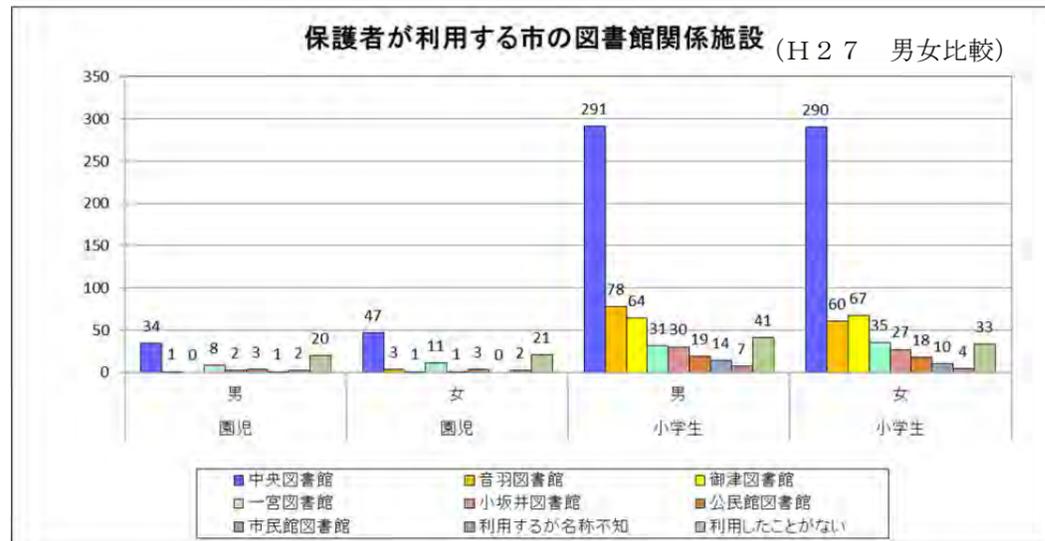
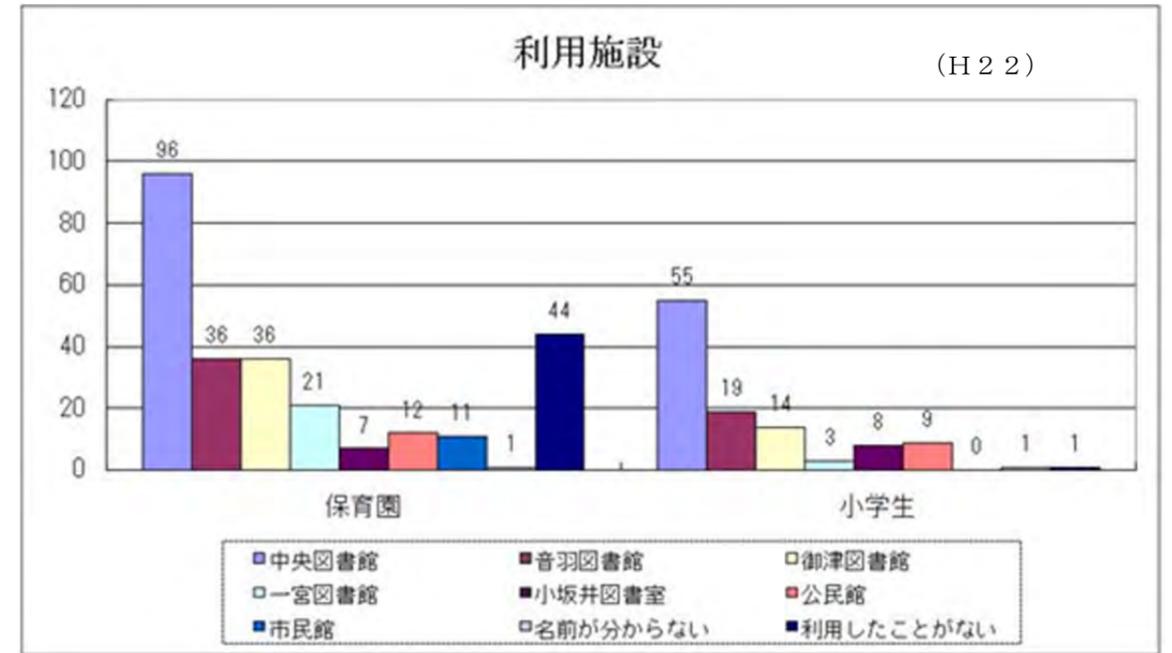
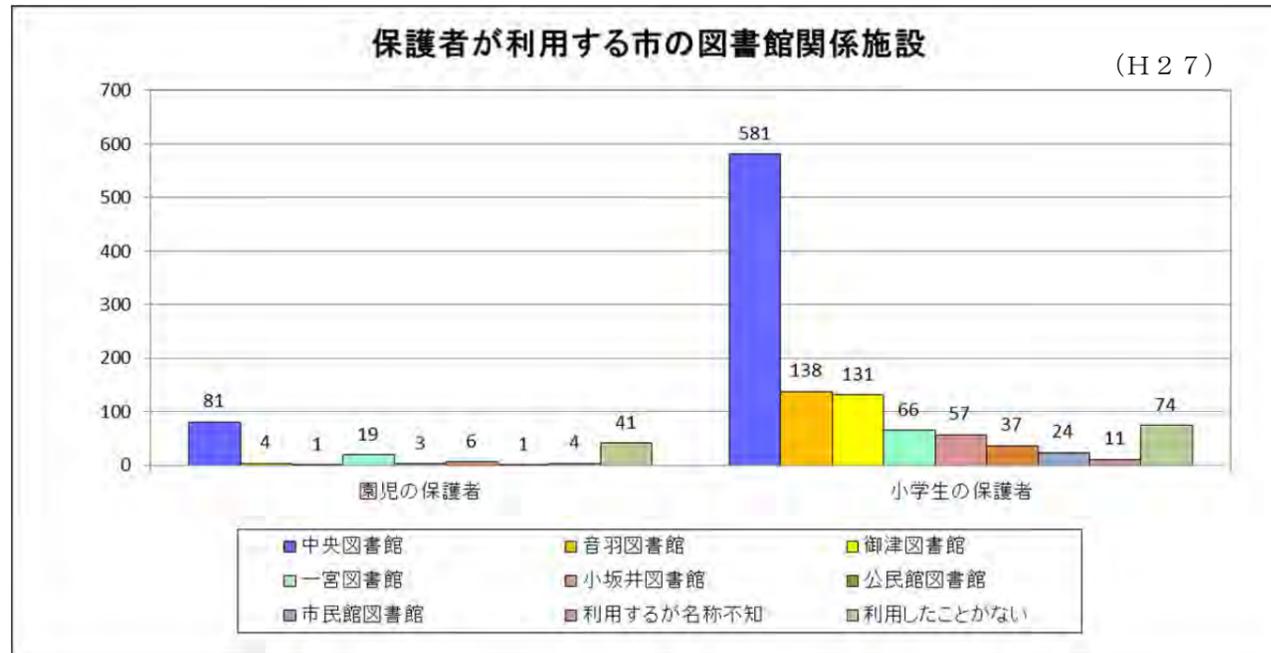
学年別比較では、小学生の保護者において、子どもの学年が上がるのに伴い本を多く所有冊数する者の割合が低下する傾向にある。

残念ながら園児の保護者においては、回答者数が少ないため子どもの年齢にともなう明確な傾向は読み取れない。

一つ前の設問【図表 28】で、前回より「図書館で借りる」が減り「書店で購入」が増えている結果と合わせてみると、所有冊数が多い割合が低下しているのは少し矛盾しているようにも思えるが、この設問では「子ども向けの本」という表現を使っているのに対し、【図表 28】では「子どもに与える本」という表現を使っていることが、結果の食い違う理由かもしれない。「子どもに与える本」は、必ずしも「子ども向けの本」ではないのだろう。



【図表 30】 あなたは、豊川市の図書館や公民館、市民館の図書室などを利用したことがありますか。（複数選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

**【複数選択における棒グラフの見方】**  
 小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

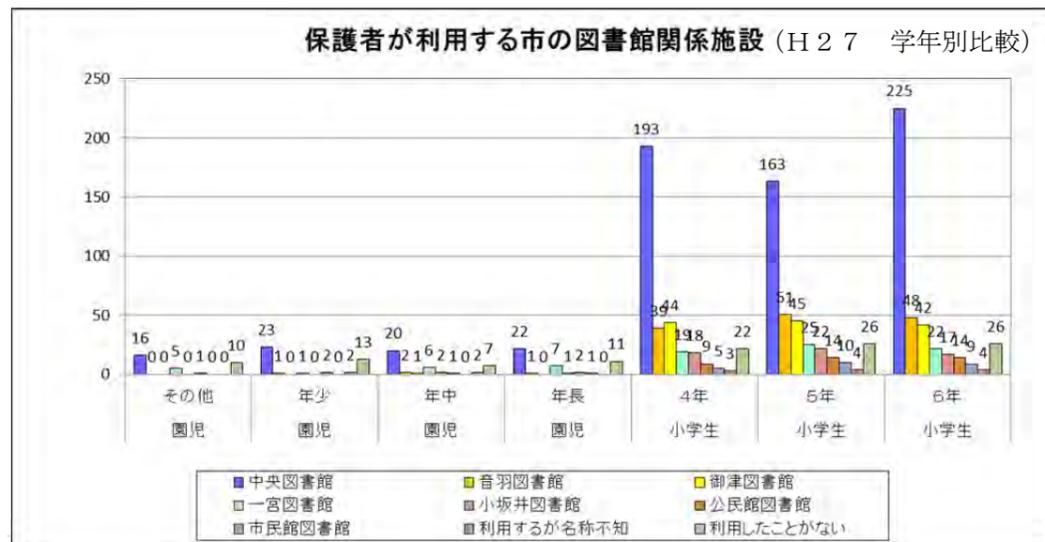
<分析>

この設問については、いずれにおいても回答者数が大きく違うため、前回との比較は困難である。

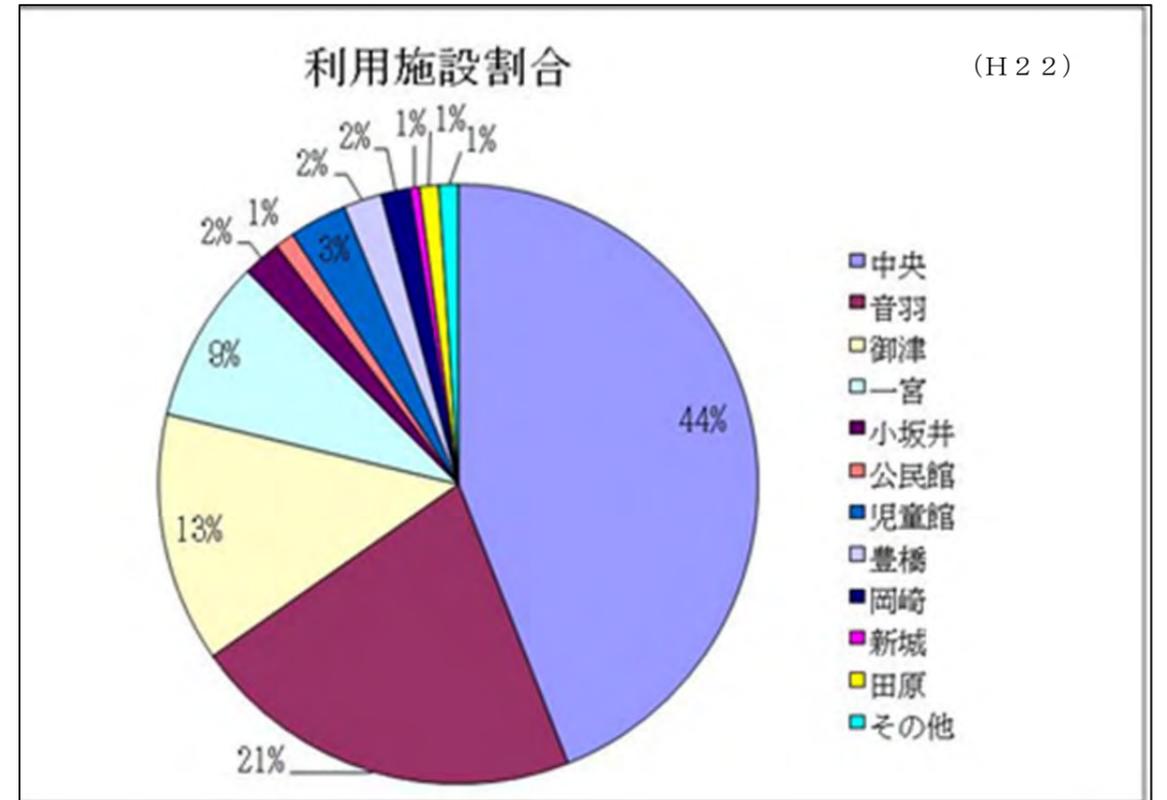
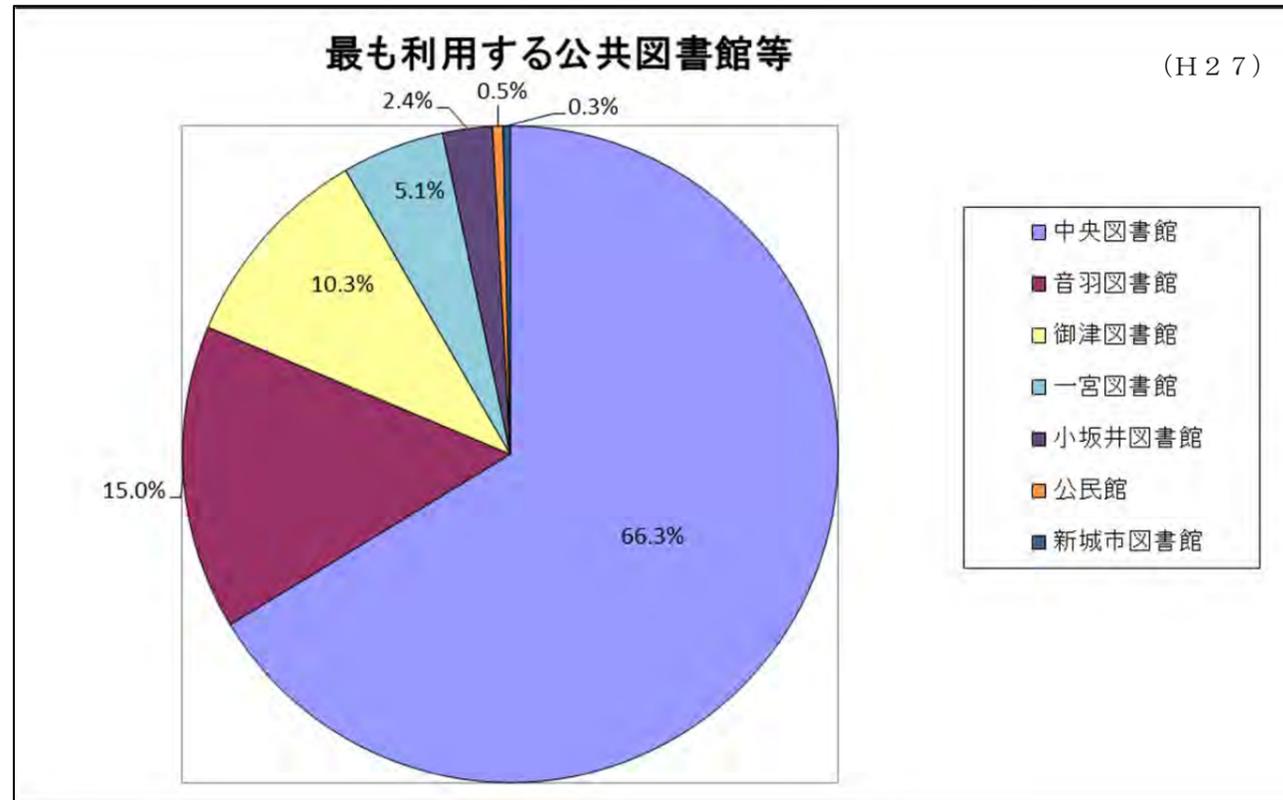
また、男女比較や学年別比較についても、いずれも中央図書館が最も多いという特徴において違いはなく、有意な分析には繋がりそうもない。

そもそもが、住んでいる地域などによってある程度選択が決まってしまう設問であるので、無作為抽出ではない今回のようなアンケート実施方法においては、この設問にはほとんど意味がなく、次回に向けては設問趣旨をよく検討し、設問内容を見直す必要があるだろう。

ただし、他の設問の回答と、この設問の利用図書館を結びつけ、クロス分析等により各図書館ごとの特殊性を分析するためにであれば、この設問にも意味はあるかもしれない。



【図表 31】 あなたが最もよく利用する図書館など（豊川市外でも結構です。）はどこですか。名称をお書きください。（自由筆記）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

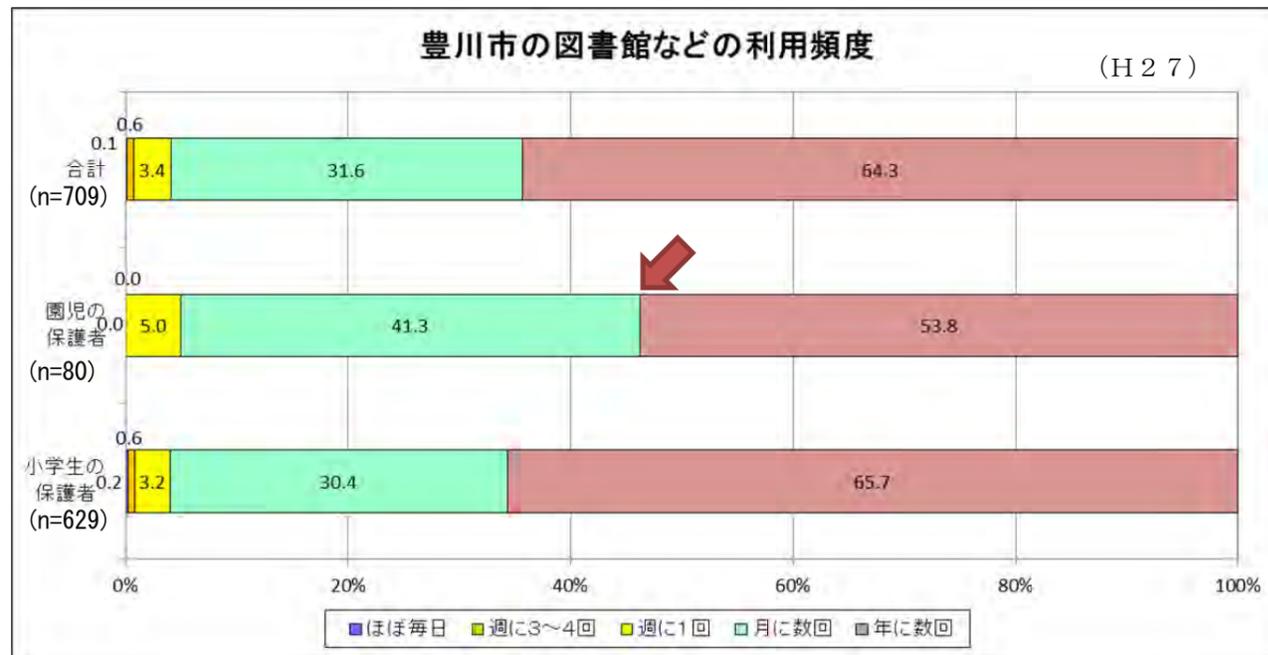
この設問についても、グラフ上は、前回（H22）よりも「中央図書館」の割合が大きく増えたという明確な結果が読み取れるが、そもそも、前回とは小学生と園児の保護者の比率が大きく異なり、特に小学生保護者の回答者の総数が、今回は前回の10倍以上にもなるため、全く比較に意味はない。

単に、「やはり中央図書館が一番多かった」という、ある意味当然の結果が確認されただけである。

従って、この設問についても、次回のアンケートでは設問趣旨をよく検討し、設問内容を見直す必要があることは、前頁【図表 30】に対する分析と同様である。

ただ、強いて挙げるとすれば、回答者数が少ないにも関わらず前回は「豊橋」、「岡崎」、「新城」、「田原」などの市外の図書館を記載する保護者があったのが、今回は回答者総数が多いにも関わらず、市外は「新城」のみであることが興味深い点ではある。

【図表 32】 <豊川市の図書館などを利用している人に聞きます。>あなたは、豊川市の図書館などを、どの程度利用していますか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

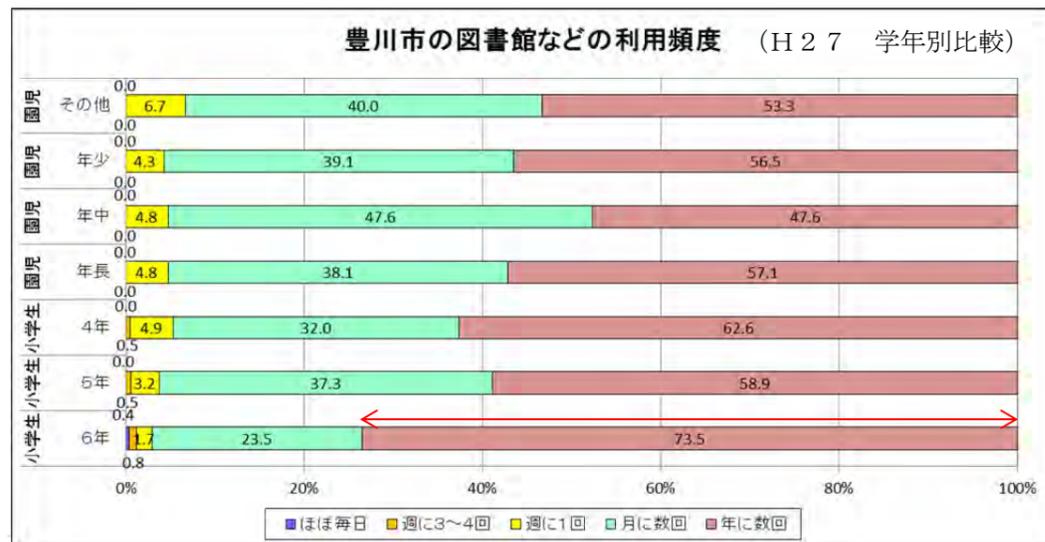
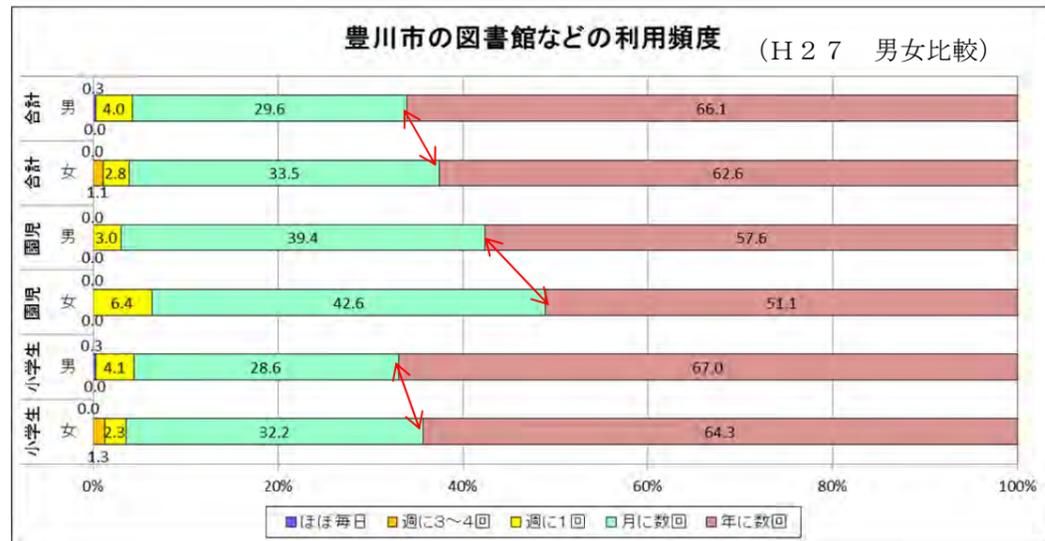
<分析>

前回 (H22) と比較して、園児の保護者について「年に数回」しか利用しない保護者が、前回は 44.9%であったのに対し、今回は 53.8%と大きく割合を増やしている。小学生の保護者では、それほど明確な変化はない。全体の合計に前回との差がみられるのは、今回は小学生の保護者の回答者が非常に多く、全体の結果が小学生の保護者の結果に引きずられてしまうからであり、経年変化ではないので無視してよい。

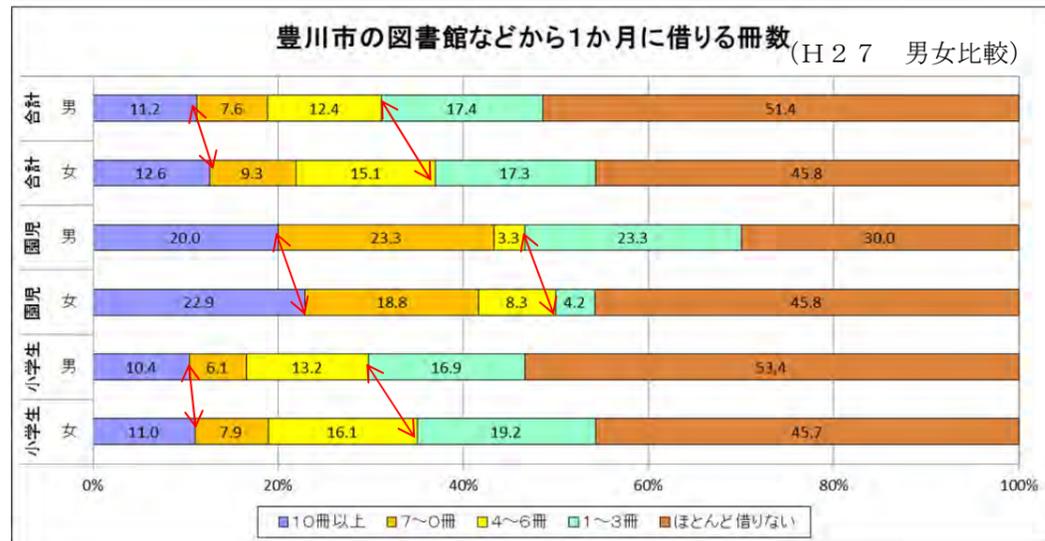
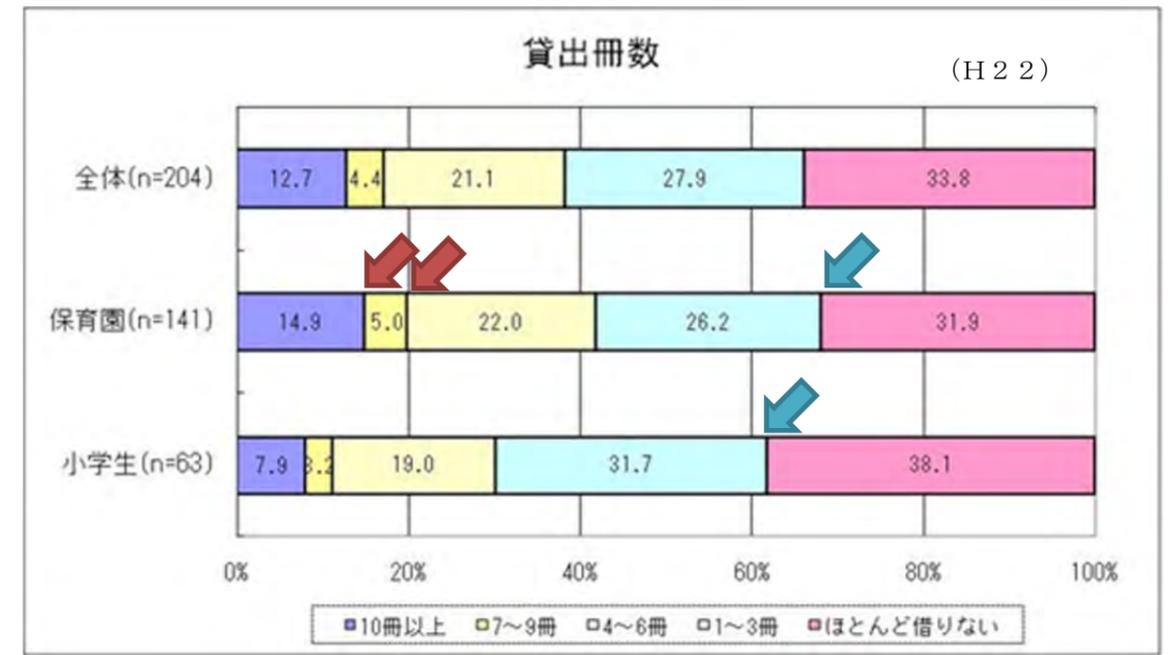
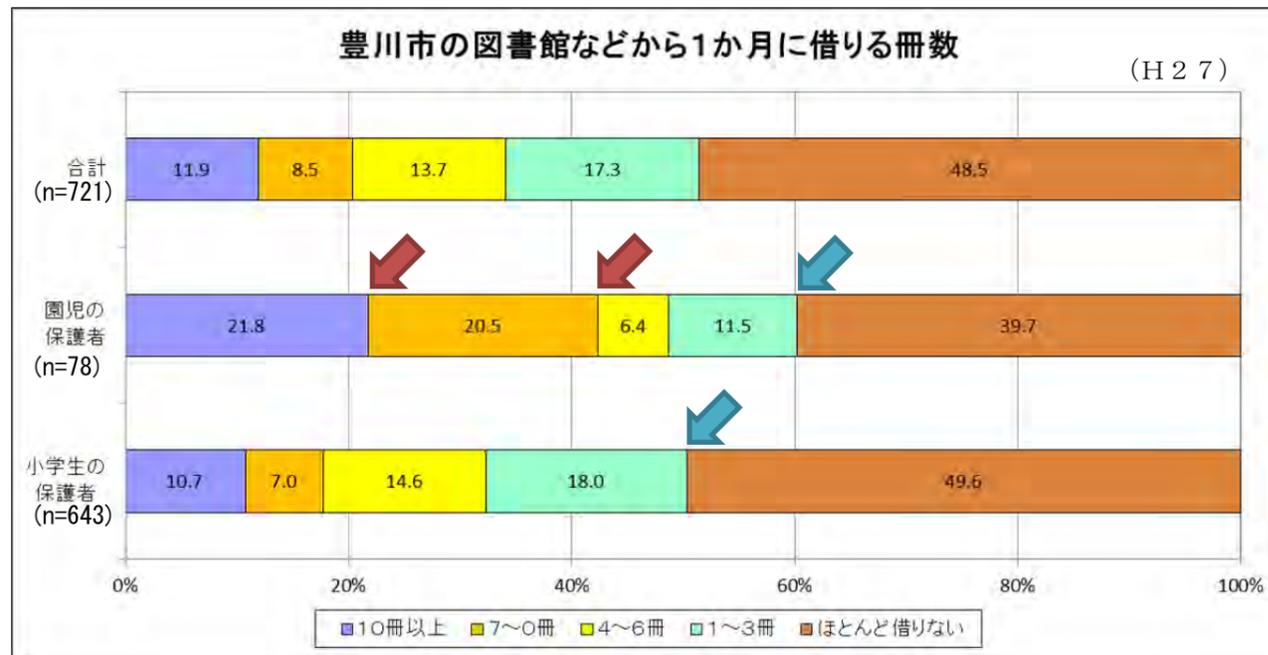
男女比較を見ると、いずれにおいても男児の保護者より女児の保護者の方が利用頻度が多い人の割合が高い。学年別比較では、あまり明確な傾向は読み取れないが、小学6年生の保護者において「年に数回」しか利用しない人の割合が抜きんでて高く、73.5%にも達するのが特徴的である。

総合的に見て、市の図書館の利用頻度はあまり高いとは言えないので、今後、いかにして利用頻度を高めるか、有効な施策を検討する必要がある。

「利用頻度を高める」というイメージがわきにくいですが、「リピーターを増やす」と言い換えれば、必要な取組が見えてくるのではないだろうか。民間のサービス施設やアトラクション施設などを参考に、来館するたびに新たな驚き、新たな楽しみに出会えるなど、次の来館時への期待感を高められるような工夫を考えなければならないだろう。



【図表 33】 <豊川市の図書館などを利用している人に聞きます。>あなたは、豊川市の図書館などから1か月に何冊程度本を借りていますか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

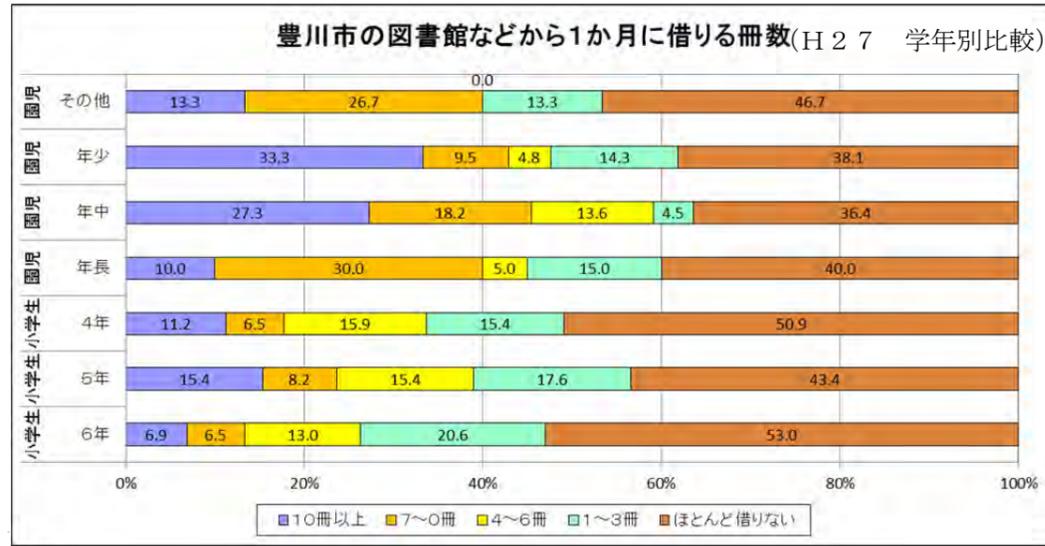
<分析>

前回 (H22) と比較して、園児の保護者において「10冊以上」の割合が前回の 14.9%から大きく伸びて今回は 21.8%へと、「7～9冊」についても前回の 5%から 4倍以上に伸びて今回は 20.5%にもなり、貸出冊数の多い保護者の割合が激増しているように見える。しかし、回答者数が前回の 141人から今回は半数程度の 78人へと減っているので、今回の結果は統計母数の少なさによる誤差ノイズが大きく表れているだけかもしれない。

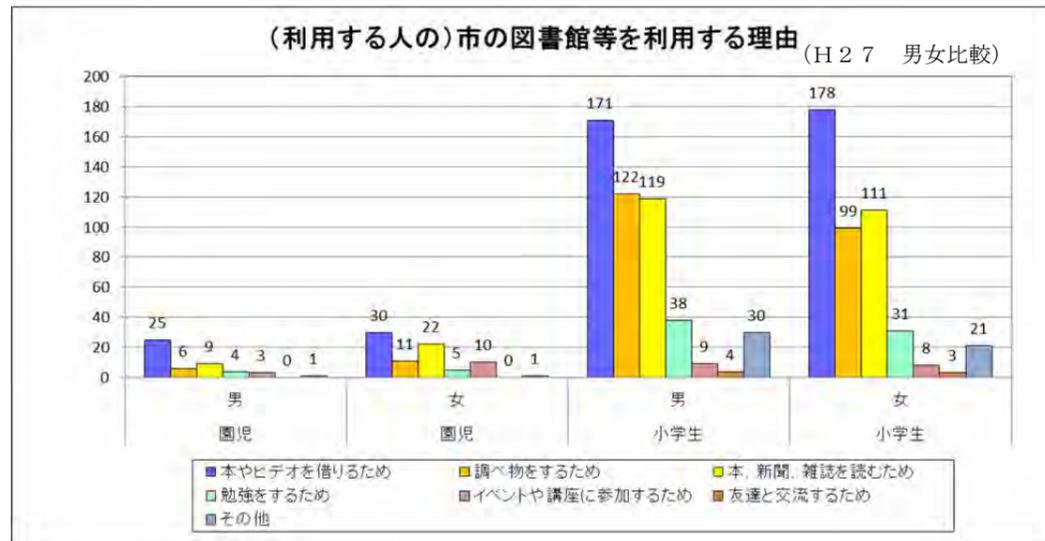
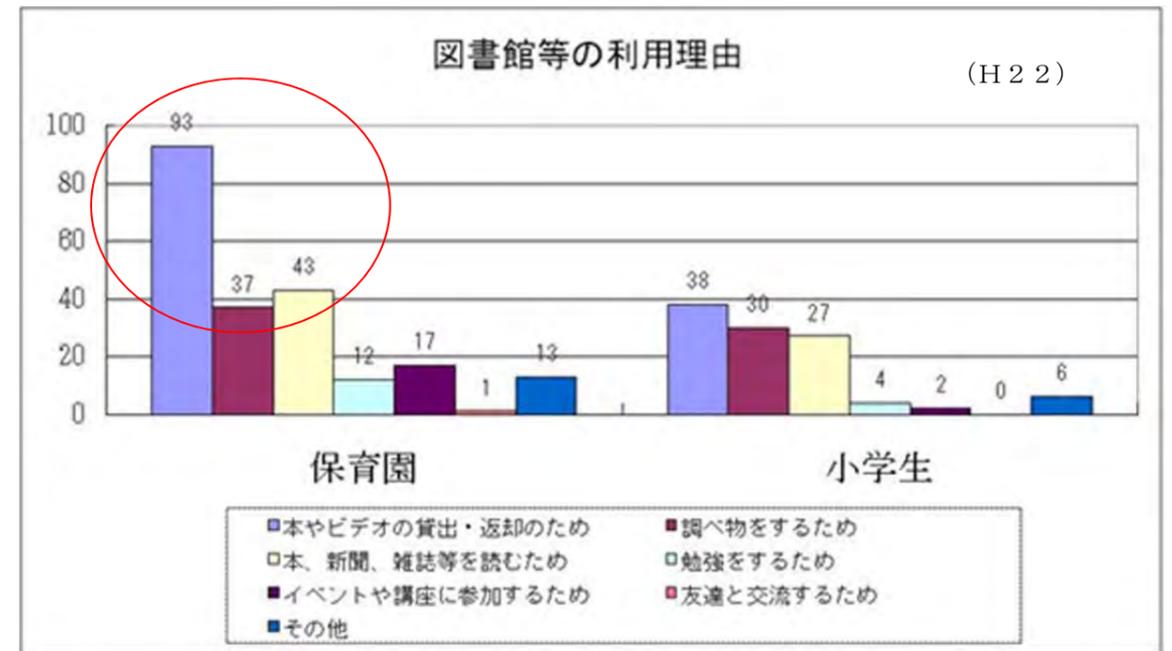
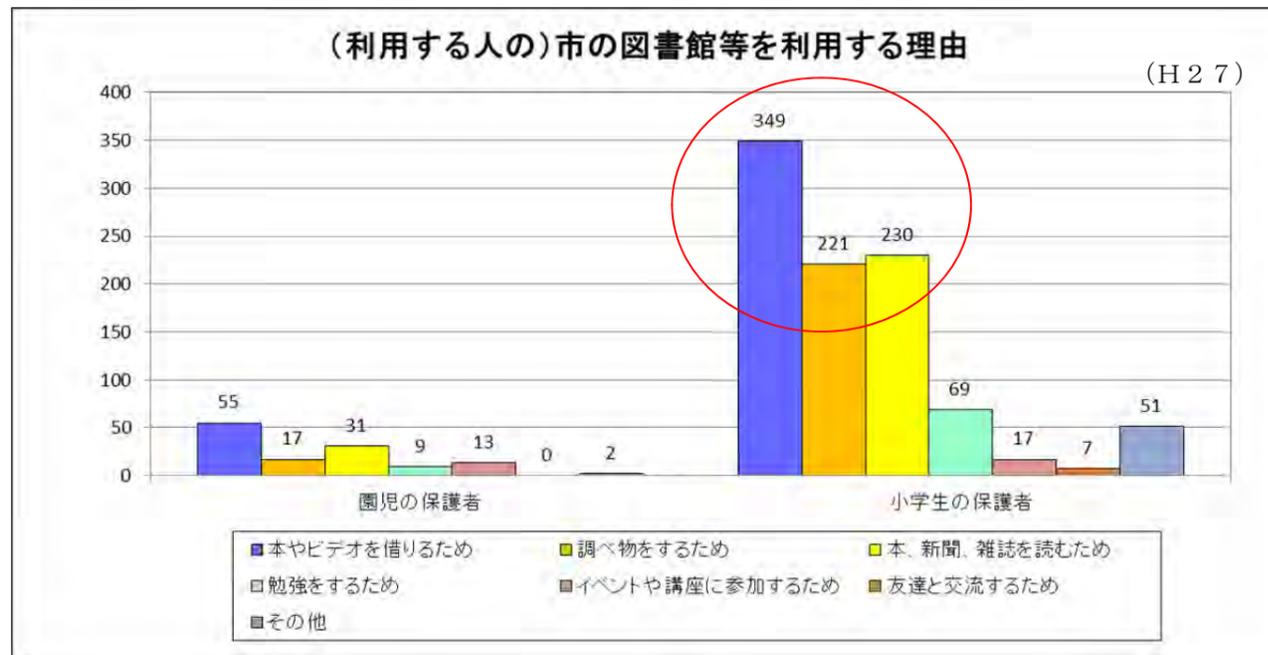
小学生の保護者では、逆に前回の回答者数 63人と少なく、これも誤差の影響で正しい傾向を表しているかどうかは疑問だが、回答者数が 643人と多い今回の結果だけから見ても「ほとんど借りない」の割合が 49.6%と 5割近くを占めており、貸出冊数の低下が危惧される。

男女比較を見ると、いずれにおいても「10冊以上」の割合や4冊以上借りる保護者を合わせた割合について、女児の保護者の方が男児の保護者よりも多い傾向が見て取れる。

残念ながら学年別比較では、学年が上がるに伴うような明確な傾向は読み取れなかった。



【図表 34】 あなたが図書館などを利用する理由は何ですか。(複数選択)



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

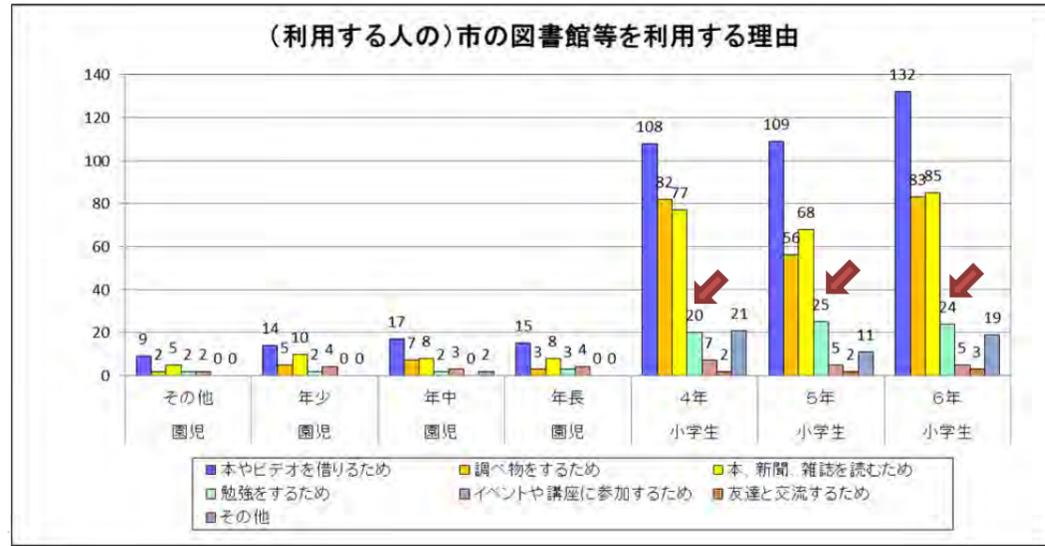
【複数選択における棒グラフの見方】  
 小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

<分析>

前回(H22)とは、アンケート回答者の違いから、経年による変化は読み取りにくいですが、回答者数が比較的多かった前回の保育園児の保護者と、同じく回答者数が多い今回の小学生の保護者の棒グラフが描く山の形状を比べると、全体的に似通っており、特に、選択数の多い上位3つの棒グラフでの傾向が良く似ていることがわかる。ただ、これは3つの選択肢が「本やビデオを借りるため」、「調べ物をするため」、「本、新聞、雑誌を読むため」と、別の選択肢と比べれば図書館の本来機能を利用目的としたものであり、ある意味当然の結果であろう。

男女比較では、特に男女差が理由と思われるような明確な傾向は見られない。

学年別比較では、小学生の保護者の「勉強をするため」の割合が他の選択肢との比較において、園児の保護者での回答傾向よりも多いように見える。これは、小学生自身の勉強のためであるのか、連れてくる子どもの勉強のためという意味であるのか、設問で用意した選択肢の内容では判別できないため、今後のアンケートではその違いがわかるように選択肢を工夫するべきであろう。



【保護者が豊川市の図書館などを利用する理由】 その他（自由記載）意見

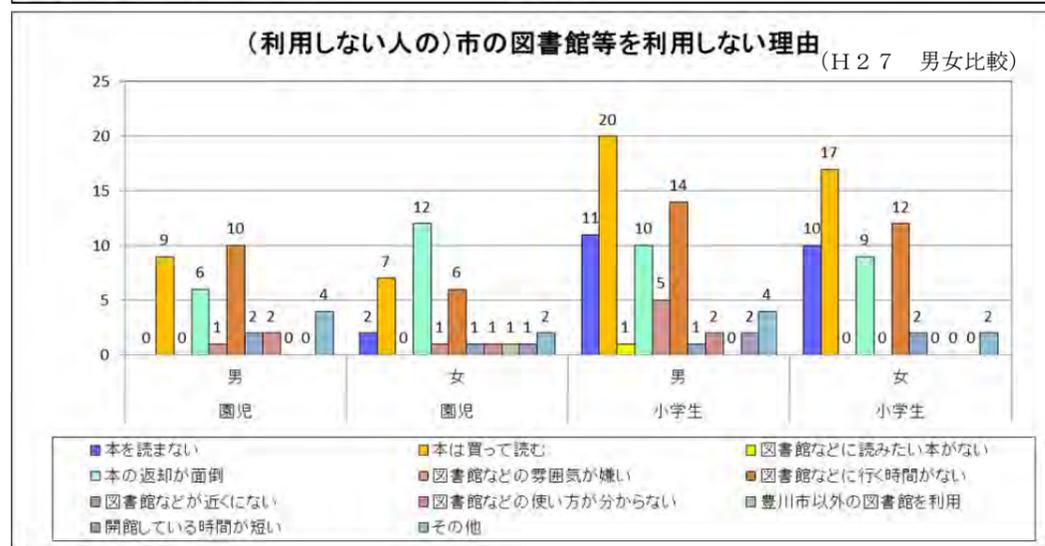
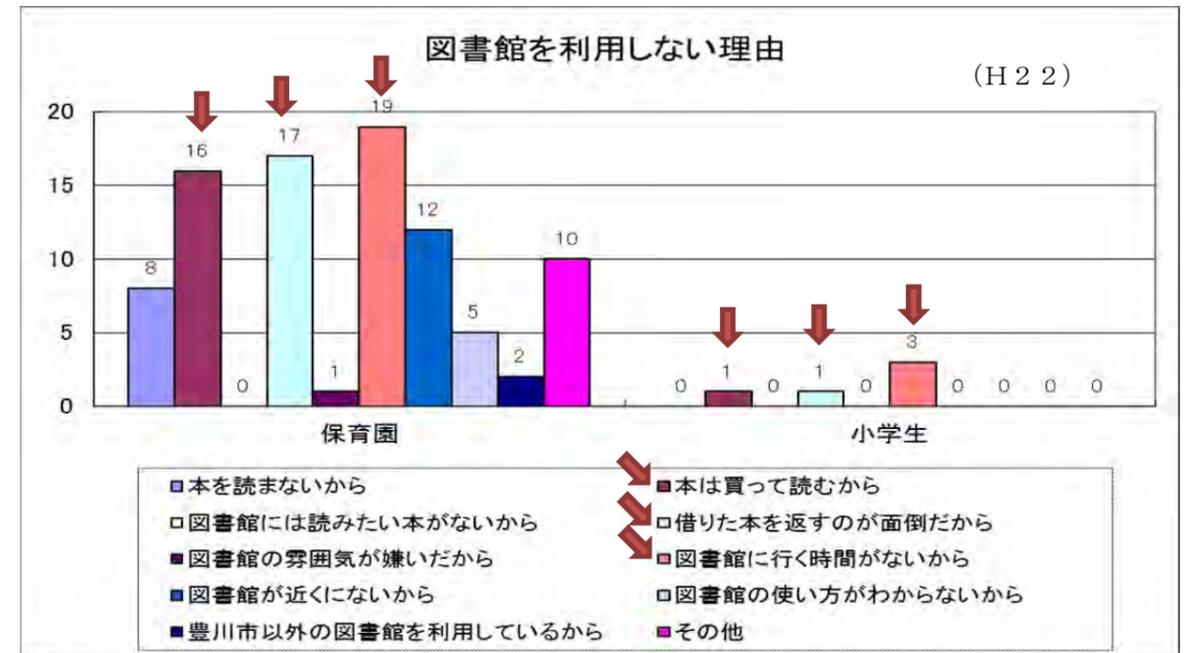
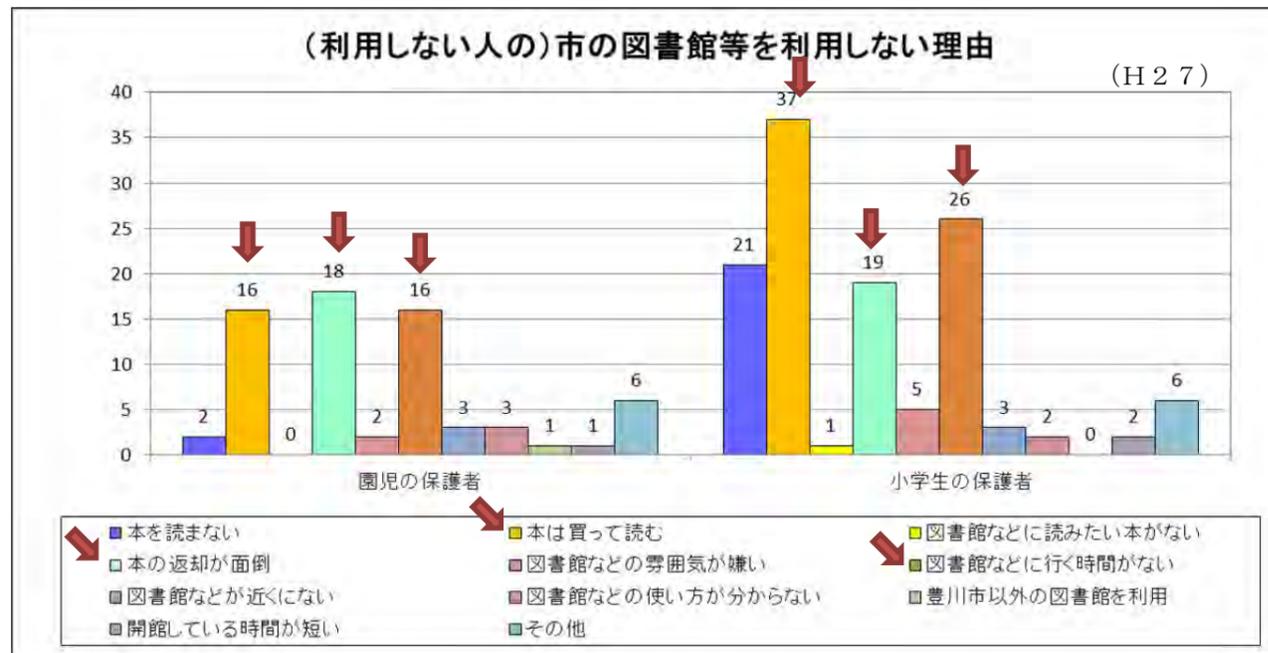
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	静かに本を読む事を子どもと一緒に学ぶため	子どもがていねいに本をあつかえる様になったから	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<p>プラネタリウムを観たついでに見に行きました。</p> <p>移動支援で</p> <p>仕事で使用するため</p> <p>子どもにたのまれて</p> <p>子どもに本を借りるため</p> <p>子どもの付添</p> <p>子供と本を見に。</p> <p>子供の読みたい本を探すため</p> <p>子供用の本を借りるため</p>	<p>学校図書館のボランティアのため</p> <p>子どもの好きそうな本を借りるため</p> <p>子供が本をかりる時に、一緒にみて、かりたり、読んでいます。</p> <p>子供の絵本、本などを借りる為</p> <p>子供の付きそい</p> <p>紙芝居をかりるため</p> <p>読み聞かせに使う本を探しています</p> <p>読書感想文などのため</p> <p>買うほどではないが興味がある物は、まず借りて読む</p>	<p>夏休みの宿題の参考のため</p> <p>見たい本をかりるため</p> <p>子どもに読ませるため</p> <p>子どもに読み聞かせするため</p> <p>子供と一緒にいくことがあるから。</p> <p>子供に読み聞かせをする為</p> <p>読書感想文のため</p>	<p>夏休みの宿題</p> <p>子どもが行きたいといった時だけ</p> <p>時間つぶし</p>	<p>プラネタリウムを見る</p> <p>気がむいた時</p> <p>好きな作家の本を読む</p> <p>仕事で読み聞かせをするために借りに行く。</p> <p>子どもの為</p> <p>子供が夏休みの宿題をやるため</p> <p>子供が調べ物をするため</p> <p>子供の夏休みの宿題時に理由</p> <p>専門書等を見るため（美術書等）</p> <p>読み聞かせに使う本を探しています</p>	<p>CDも借りる</p> <p>ほとんど利用していない</p> <p>下のこの学年の読みきかせボランティアの本をかりる為</p> <p>夏休みに多い宿題</p> <p>宿題</p> <p>図書館近くで、子供が遊び、親はひまだったので</p> <p>待ち合わせ</p> <p>読みきかせ用の本</p>

【図表 34-1】 <市の図書館などを利用したことがない人に聞きます。>あなたが図書館などを利用しない理由は何ですか。（複数選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

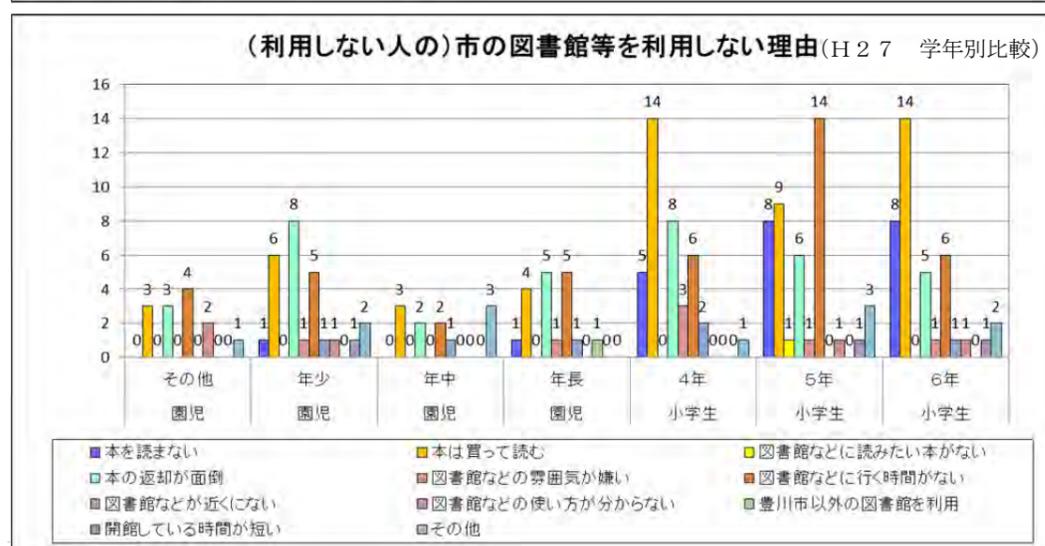
**【複数選択における棒グラフの見方】**  
 小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

<分析>

「市の図書館などを利用したことがない人」だけに限定して訊いている設問であるため、今回も前回（H22）も回答者数が非常に少なく、経年での変化について分析することは難しいが、いずれにしても「本は買って読む」、「本の返却が面倒」、「図書館などに行く時間がない」が市の図書館などを利用しない3大理由であることは間違いであろう。また、回答者数が十分に多ければ、それらと同様に「本を読まないから」も選択を伸ばす可能性が高い。

男女比較や学年別比較についても、回答者数が少なすぎるため、敢えて分析は行わず、グラフを掲載するだけにとどめることとする。

「本は買って読む」や「図書館などに行く時間がない」という理由については、図書館における取組だけでは如何ともし難いところであるが、「本の返却が面倒」という理由の保護者に向けては、返却したい本を投入口に投入するだけで夜間でも簡単に利用可能な「返却ポスト」があることの周知を強化したり、分館や公民館、地区市民館などの活用を案内するなど、図書館として取組可能な対策を検討する必要がある。



【保護者が豊川市の図書館を利用しない理由】 その他（自由記載）意見

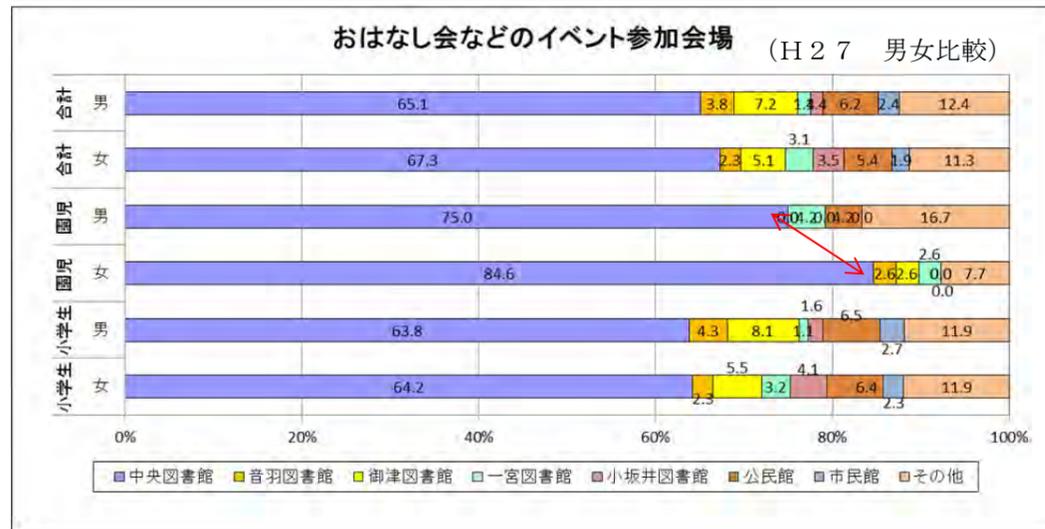
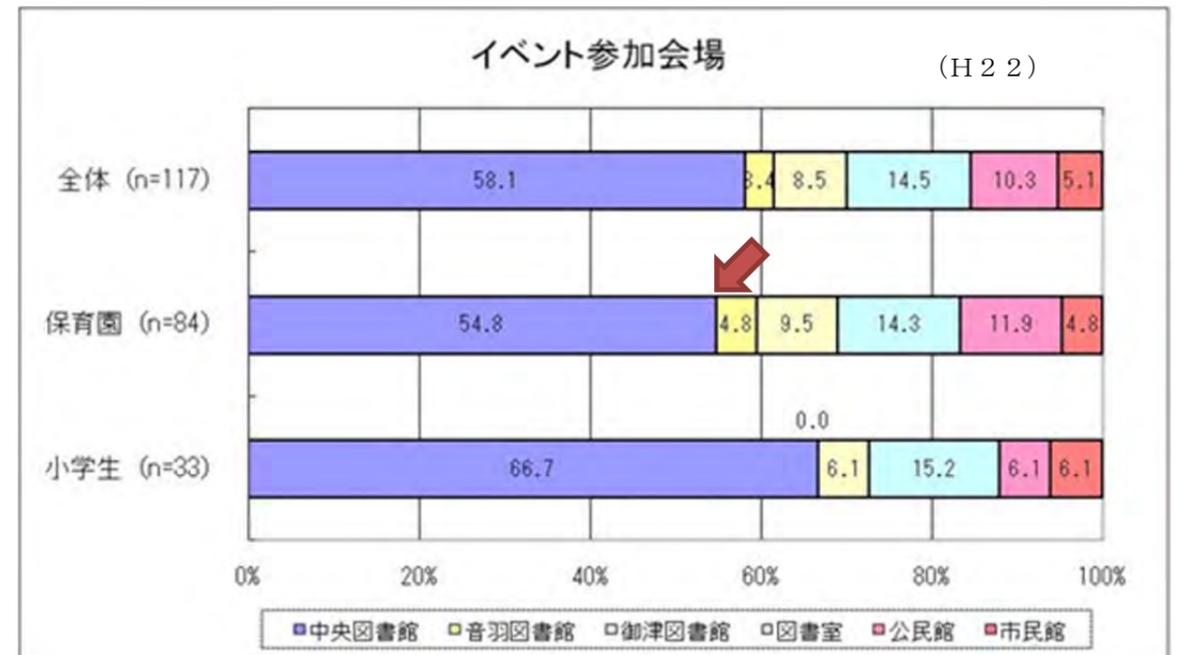
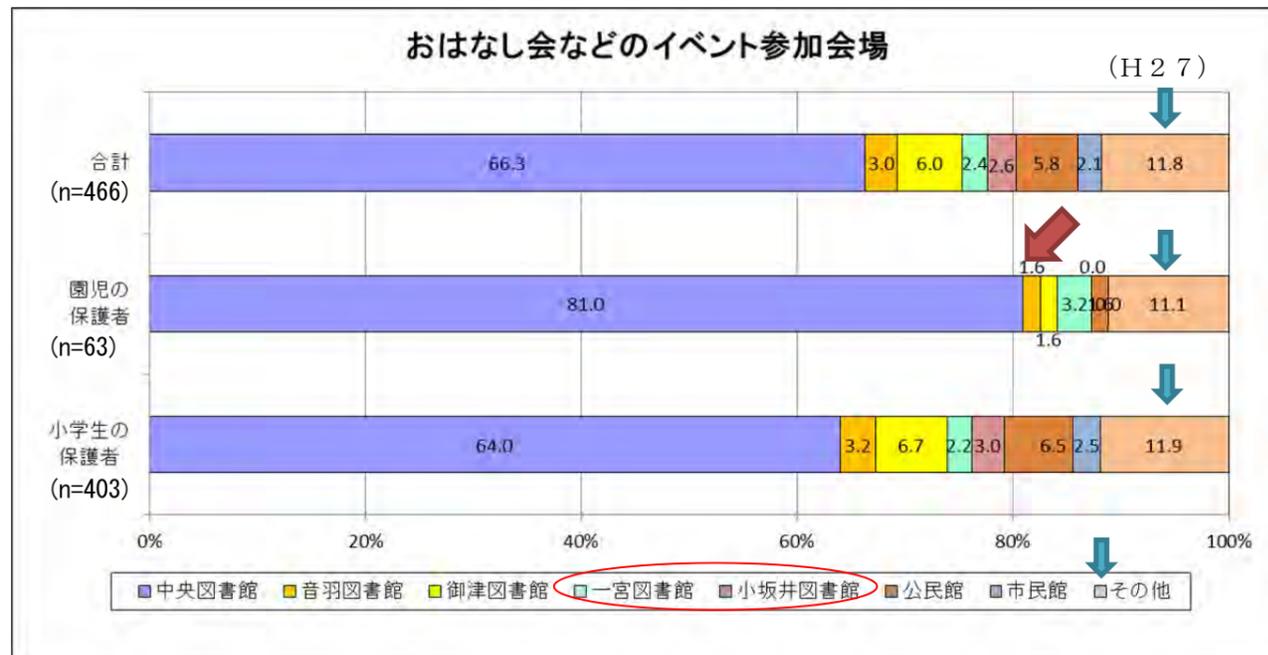
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
まだ小さいので、おとなしくしていないと困るから	<自由記載なし>	行ってみたいと思いつつ、まだ行っていません	下の子が小さい為、落ち着いて本が読めないと思われるから。	<u>どこに図書館があるかわからないから</u> <u>図書館の場所がわからない</u>	子どもがまだ小さいので、下の子もいるので、本を汚してしまわないか心配なので、今はまだ利用したことがない	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
仕事、家事、育児に忙しくて本を読む時間を作れない	<自由記載なし>	<u>場所がよくわからない</u> 調べ物はネットを利用する。	<u>電子書籍</u>	仕事をしているため忙しい。家事優先でそこまで余裕がない。	仕事の休みと図書館の休みが同じだから

【図表 35】 市では、お話し会や読み聞かせ会などをさまざまな場所で開催しています。聞く側として参加したことがある施設を選んでください。（複数選択）

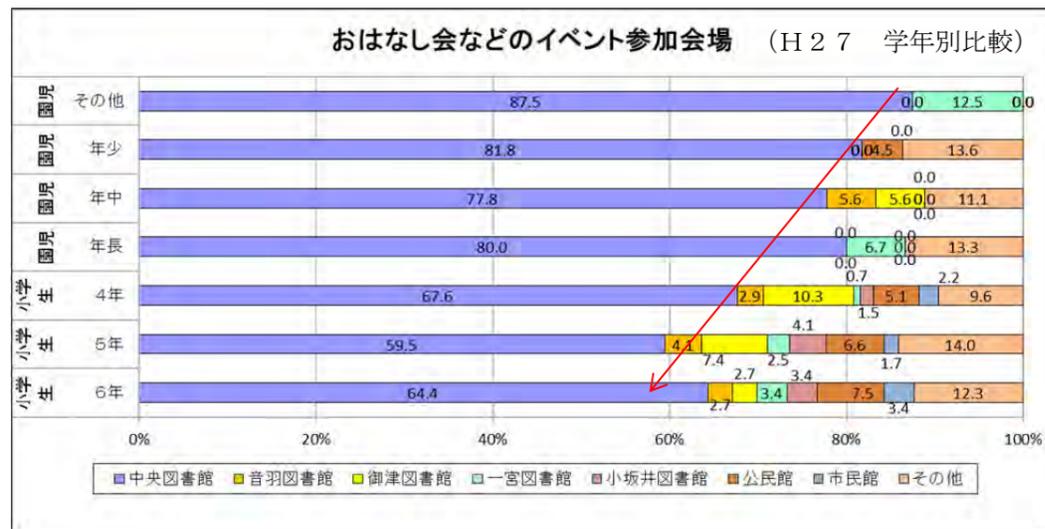


■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、園児の保護者において「中央図書館」でのイベント参加割合が大きく増えているように見える。回答者数は前回、今回のともに少ないため参考程度に留めて受け止める必要がある。

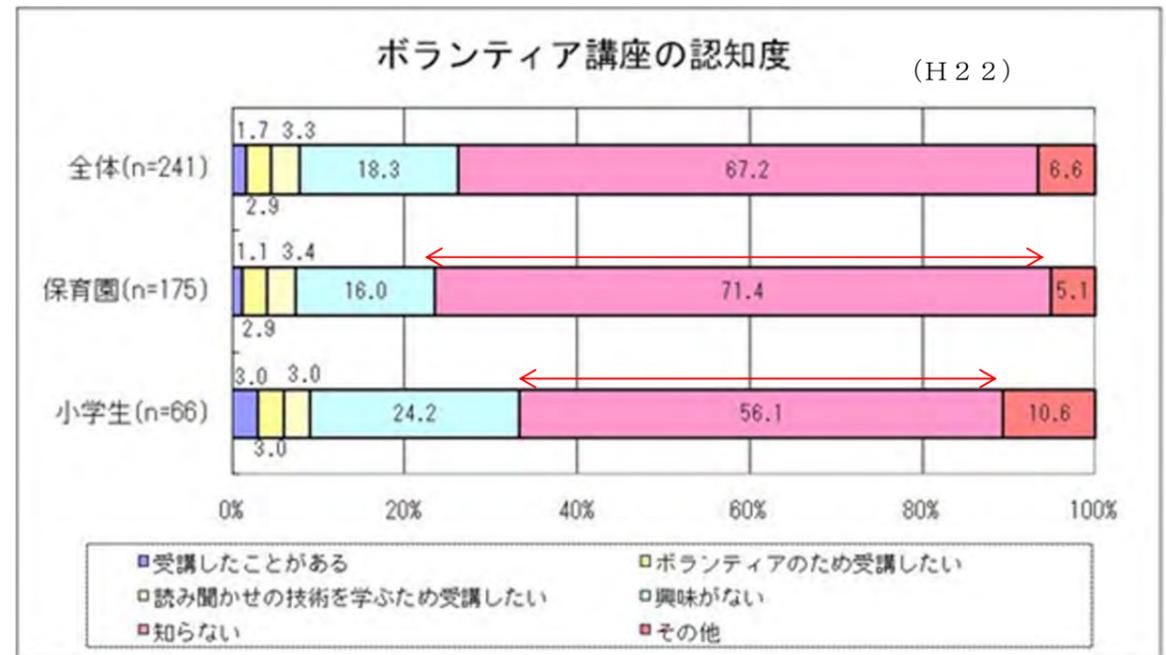
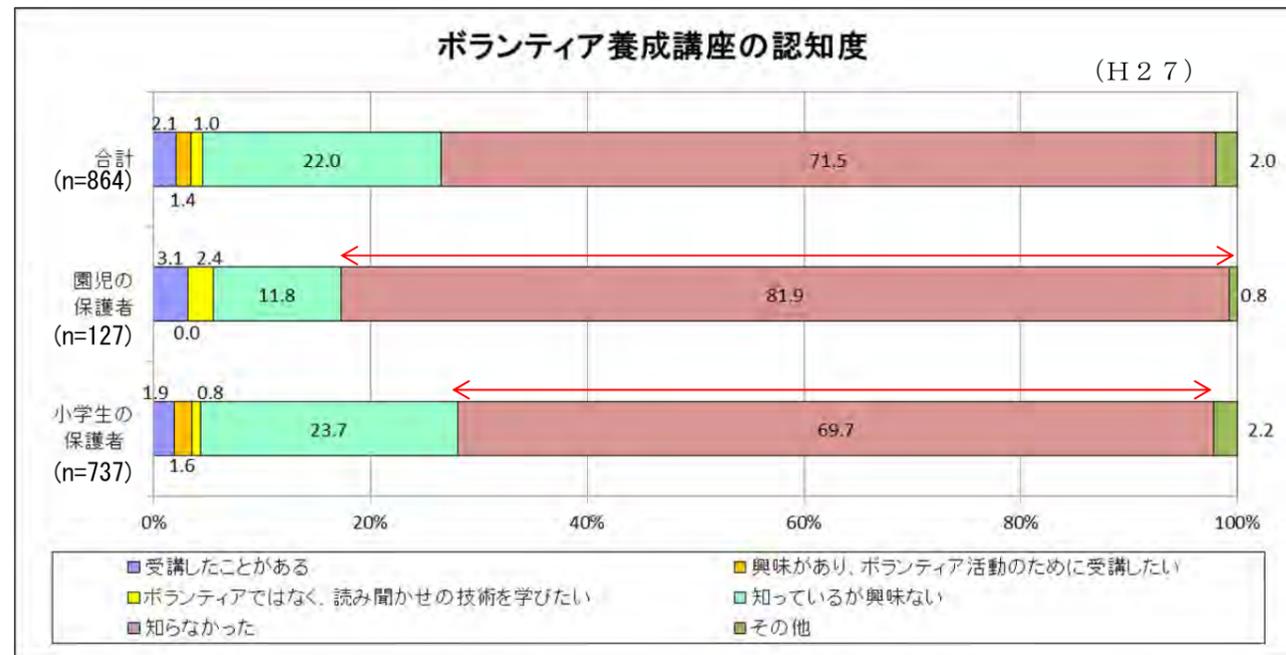
その他、経年による変化としての明確な傾向は読み取りにくいですが、一宮と小坂井が分館化されたことで択肢が増えたため、若干、グラフの印象が変化している。同じく今回から設けられた選択肢「その他」については、各分館でのイベント参加割合よりも高い10%超を占めているのが興味深いですが、残念ながら今回のアンケート中で、この「その他」の選択に対する自由記載欄が設けられていなかったため、「その他」の内訳については明らかでない。別の設問の自由記載などから推測するに、おそらく児童館などを想定しているのではないかとと思われる。



男女比較を見ると、園児の保護者において「中央図書館」でのイベント参加割合が、男児の保護者より女児の保護者の方が大きく上回るという結果が見て取れるが、これはそもそも回答者数が男女それぞれ40人弱であるために、数人の差が割合としては大きな違いとして強調されてしまっているのかもしれない。

学年別比較では、大まかな傾向として、年齢が上がるとともに「中央図書館」でのイベント参加割合が低下しているように窺えるが、そもそも「中央図書館」以外では小さい子ども向けの「お話し会」しか開催されておらず、年齢層があがれば「中央図書館」での参加が増えるのは当然の結果であると思われる。

【図表 36】 図書館では、読み聞かせボランティアのための養成講座を実施していますが、ご存知ですか。（1つを選択）



■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

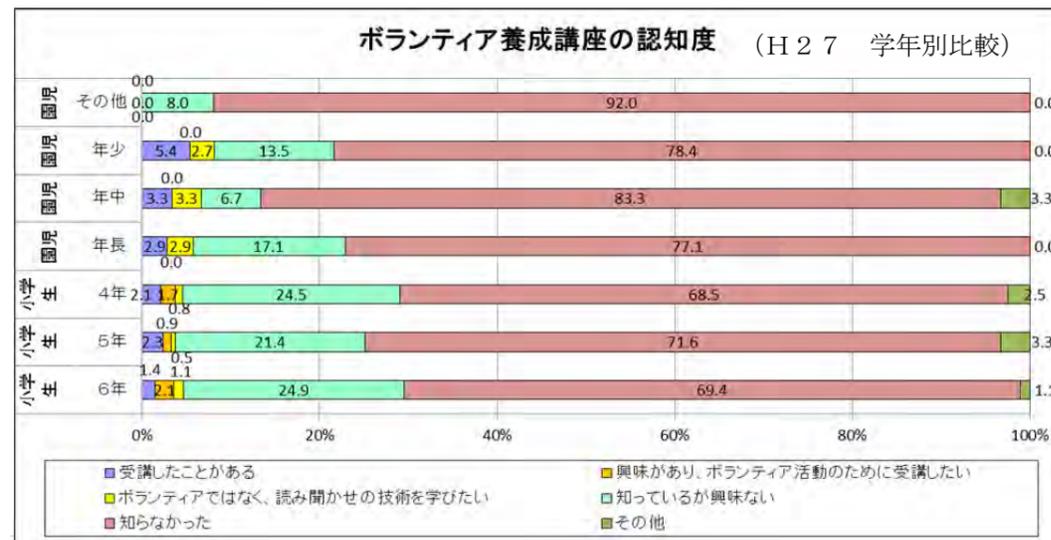
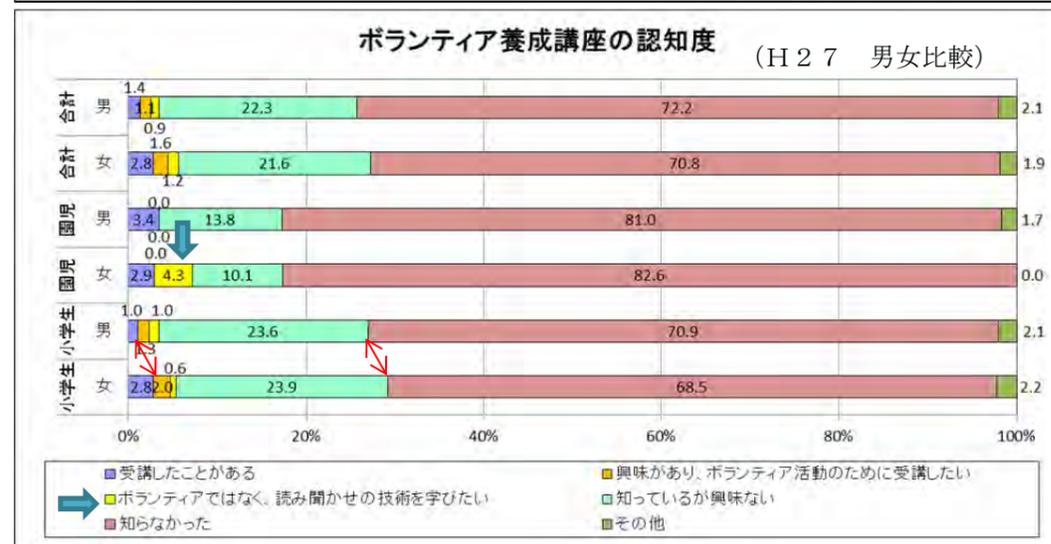
<分析>

前回（H22）と比較して、園児の保護者で「知らなかった」と答える割合が前回の 71.4%から今回は 81.9%へ、小学生の保護者でも前回の 56.1%から 69.7%へと大きく増えている。このため、今後、早急に、周知の方法や範囲などを見直す必要があるのではないと思われる。

男女比較を見ると、小学生の保護者で、わずかだが「受講したことがある」割合が、女児の保護者の方が男児の保護者よりも高く、またその反対に「知らなかった」の割合が女児の保護者より男児の保護者で少しだけ高くなっていることから、女児の保護者の方が認知度が高いといえるだろう。

園児の保護者では回答者数が少ないためもあつてか、小学生の保護者のような男女差は見受けられないが、「ボランティアではなく、読み聞かせの技術を学びたい」を女児の保護者だけが選択しているのが特徴的である。

学年別比較では、前述したとおり、小学生の保護者の方が園児の保護者よりも認知度が高いという程度の大雑把な傾向しか読み取れない。いずれにしても、認知度は3割に達せず、まだまだ周知の努力が必要である。



【図書館で実施している読み聞かせボランティア養成講座を知っているか】 その他（自由記載）意見

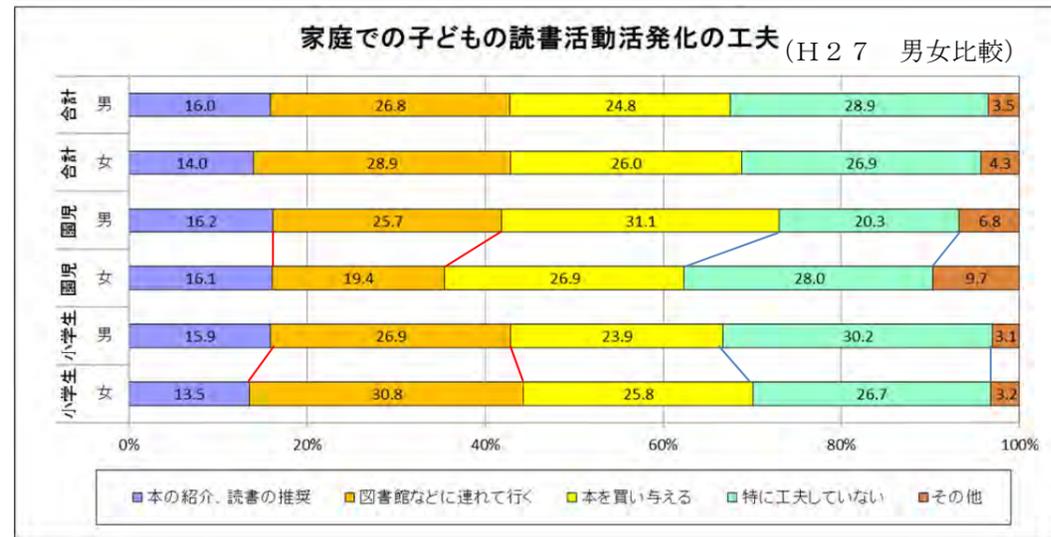
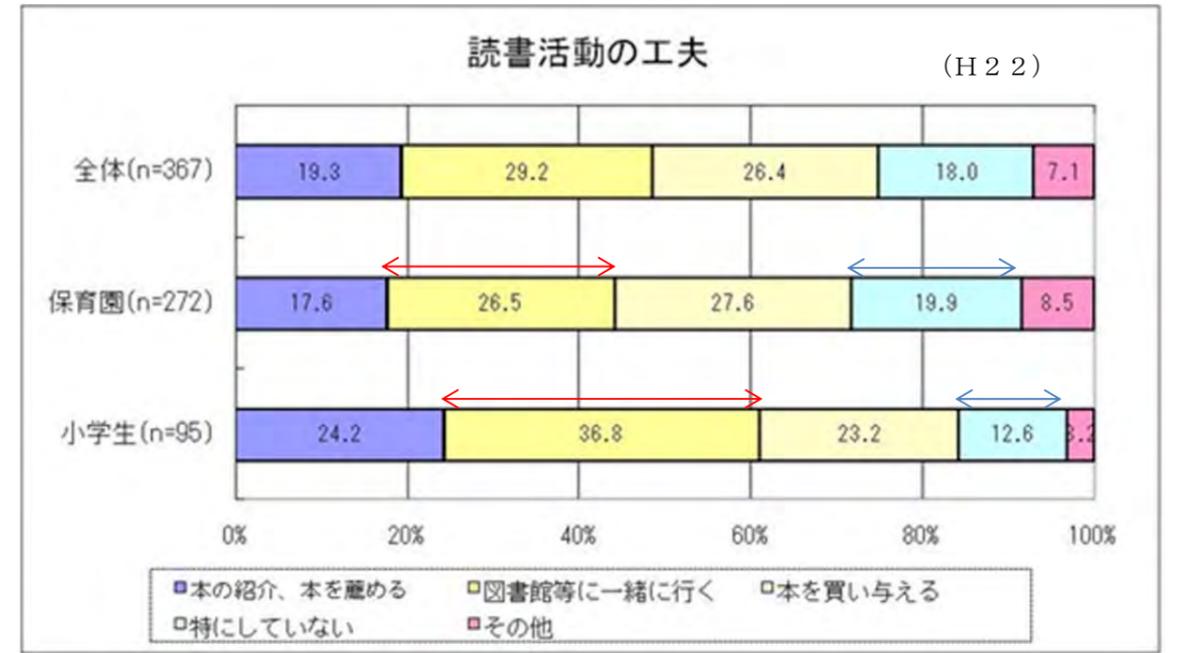
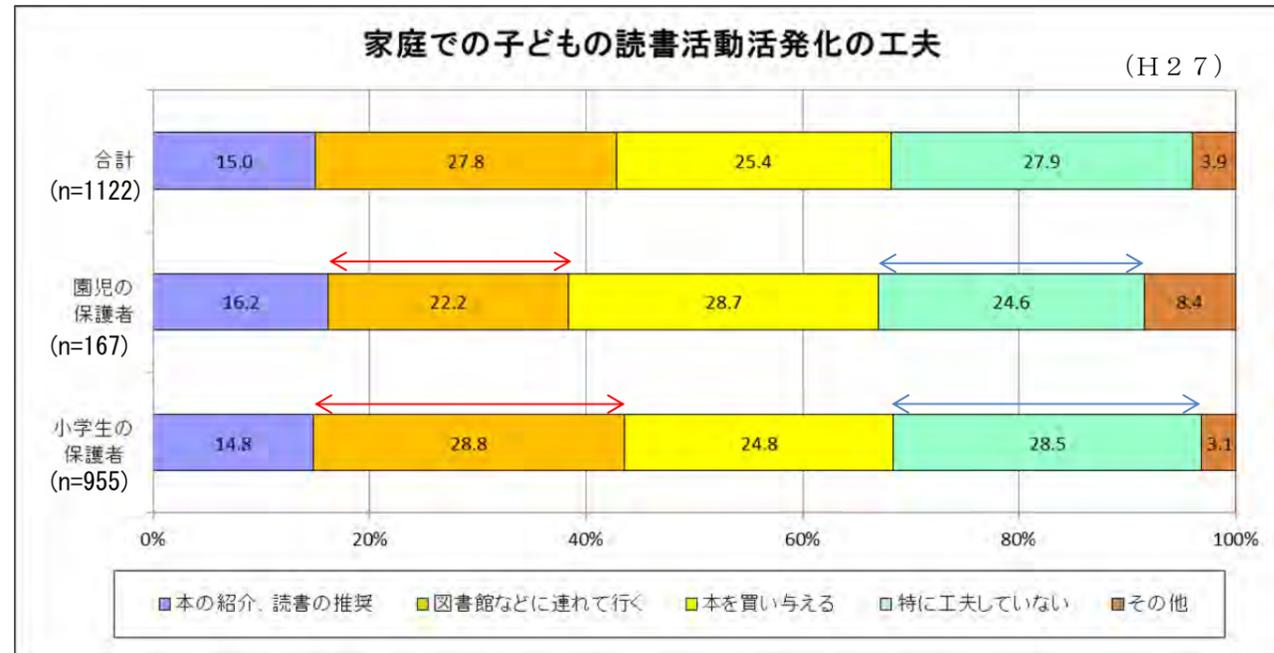
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	時間があれば	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<p>知っているが、今は時間がなく受講できない</p> <p>知っているが、時間がない</p> <p>知っているが時間がとれない</p>	<p>仕事の都合でボランティアは難しい</p> <p>知っている。子どもと一緒に読み聞かせをよく行きました（子供が小さい時）。自分も一緒に聞いていると、すごくいやされました。興味あります。</p>	<p>興味はあるが勤務上ボランティア活動は難しい</p> <p>知っている</p> <p>知っているが、他にすべきこと（仕事&amp;家事）で多忙</p>	<p>なかなか参加するまでにはならない</p> <p>興味はあるが、読み聞かせをする自信がない</p> <p>人前で読むのが苦手なため知っている</p>	<p>知っているが、仕事をしているため予定が合わない</p>	<p>知っているが時間がない</p> <p>目が悪いから</p>

【図表 37】 あなたは、ご家庭で、お子さんの読書活動を活発化させる（読書を好きにさせる、読書を習慣づけさせるなど）ために、どのような工夫をされていますか。（複数選択）



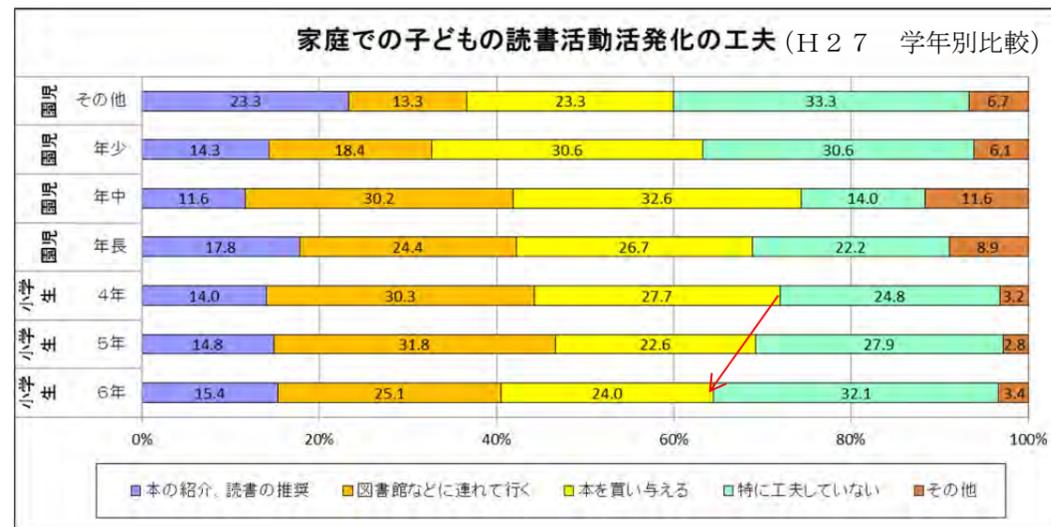
■ 前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）との比較において、特に気にかかるのは「図書館等と一緒にいく」の割合が、園児の保護者では前回の26.5%から今回は22.2%へ、小学生の保護者では前回の36.8%から28.8%へといずれも大きく低下していることである。また、「特に工夫していない」の割合が、園児の保護者で前回の19.9%から今回の24.6%へ、小学生の保護者でも前回の12.6%から今回の28.5%へと大きく増えており、この2つを合わせ考えると、今後、読書活動を高めるための工夫として、ぜひ、図書館を活用してもらえようPRに力をいれるべきだと思われる。

男女比較を見ると、園児の保護者では、女児の保護者の方が男児の保護者より「図書館などに連れて行くが」低く、かつ、「特に工夫していない」が高いのに対し、小学生の保護者ではそれらは逆に男児の保護者の方が女子の保護者より高いという結果になっている。

学年別比較では、小学生の保護者において、学年が上がるとともに「特に工夫していない」の割合が高くなる傾向がややあり、気にかかる場所である。



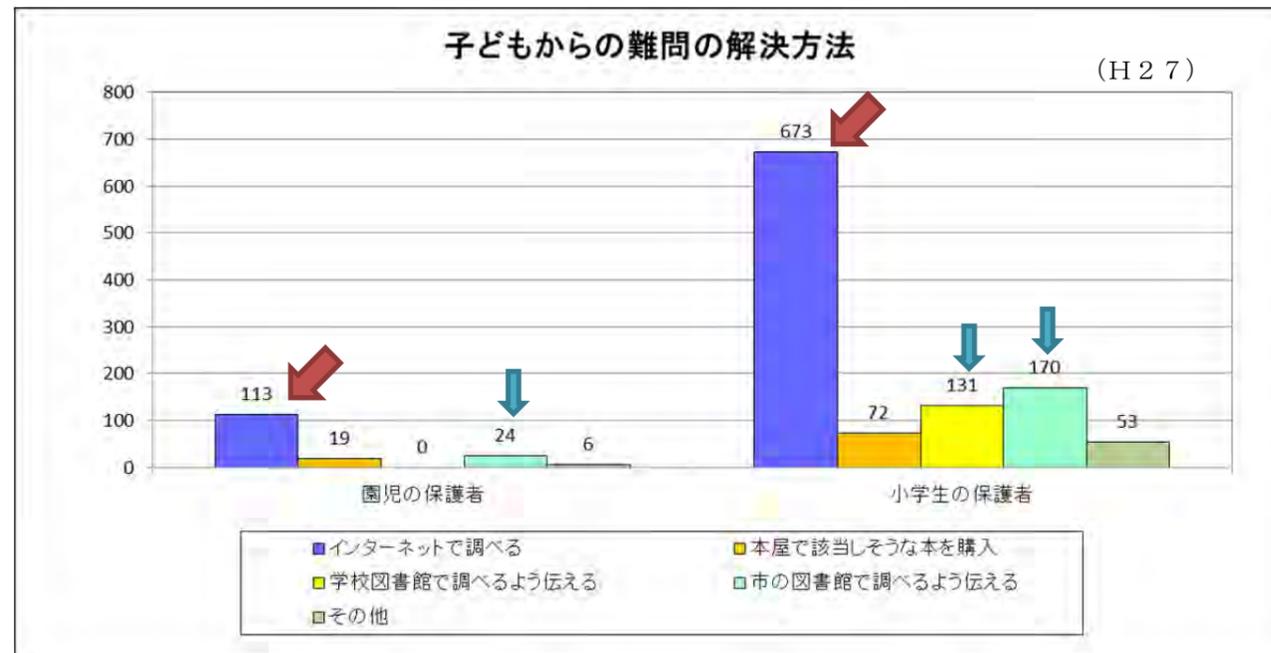
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
一緒に家にある絵本の中から選んで読んでいる	寝る前、本の時間を作っている	一人で図書館でかりてくる 何種類も話の載っている本を買い、「どれを読んで欲しい？」と聞き、寝る前の本の隙間1があります。	寝る前の読み聞かせ	<自由記載なし>	家にある本で読みたがる本を読んであげるようにしている。 絵本だけのものとか、最初は簡単な本からスタートし、子どもが知っている話の本を渡すと「これ知ってる」といって喜んで何回も読んでいたりしていた 子どもが自分で本を出したりしまえるようにして、いつでも読める環境にしている 手の届くところに本を置いておく。季節に合った本を置いておくなど。 毎日読み聞かせをする。親も子どもの前で本を読む	自分が読む姿をみせている 週に2回はゲームをやらず、本などを読むようにしている	2～3才頃から就寝前に読み聞かせ 一人で、図書館でかりてくる

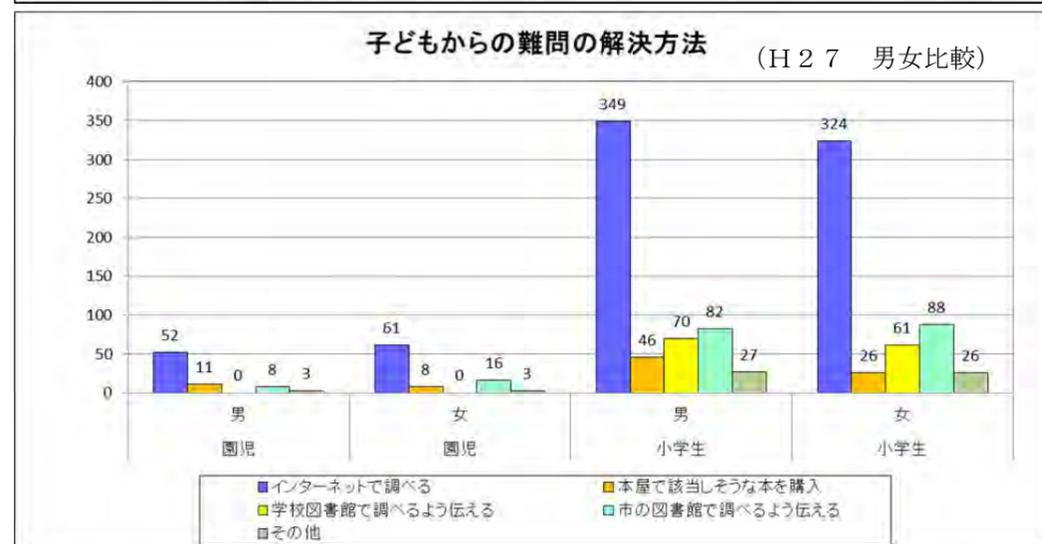
小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
古本屋へ連れて行く 小さい頃から寝る前に絵本を読む事を習慣にしている。 読みそうな本、読んでほしい本を適当に選んで居間においておく。 保育園の時に、1人で読んだ本はノートに題名を書き、何冊読んだか分かるようにした。	リビングのすぐに手に取れるところに本を置いている 一緒に読んでみる 自然と本が好きになり自発的に読んでいる 宿題の音読があまり好きではないようなので一緒に声に出して読むようにしています。 読みたいと思う本と一緒に買いに行く。 本人が欲しいという本を買い与えるようにしている	一緒に楽しむようにしている。 好きそうなもの、読んで欲しいものを選んで借りてくる 子ども一緒の本を読む 子供が保育園から低学年ぐらいまでは図書館へ連れて行った。今は、本屋へ行く。 自発的に読みたい話す	<b>まんが</b> でもよいので活字を読む機会を持たせようとしている 小さいころから本の読み聞かせをしていた。子どもと同じ本を読み、その本について話したりする。 寝る前に読み聞かせをする。	何回もよみたそうなら、購入します。Book off とも利用します。 子供の頃は毎晩読み聞かせをしたが、本に興味がある子にはならなかった。 読み聞かせ 本を買う時は、子供と一緒に選び、子どもが興味ある本を買うようにしている。親が無理やり勧めない 本屋さんに行き、興味のある本をさがさせる。 本好きにしたいけど根気がないみたい、どうしたら好きになるか知りたい	ほしいと言えば買ってあげる <b>まんが</b> をすすめでかつじに慣らさせる 子供の興味のもった本をあたえるようにしている 子供を連れて本屋へ行く 自分が読む姿を見せている 前回と同じ本でも、本人が興味を示した本なら何でも借りて一緒に楽しむという事を大切にしている。 我が家は寝る前の1時間は読書タイムで、図書館月に1回30冊を借ります。30冊の中で好きな本を何度も何度も読んで一緒に楽しめます。今では私がしてきたことを姉ちゃんが妹に全く同じように読み聞かせをしてくれます。（お願いしたわけではなく自然に姉から）、妹がどこへ行っても「本を読んで」と言っても姉は本が大好きだから嫌がることなく一緒に楽しんでいます。※姉ちゃんは小6年生、妹は小1年生

【図表 37-1】 あなたが、お子さんが興味をもっていることで分からないことを聞かれた場合、どのような方法で調べてあげますか。（2つまで選択可）



前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)



**【複数選択における棒グラフの見方】**  
小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

<分析>

本設問は、今回から新設されたものであるため、前回との比較はない。

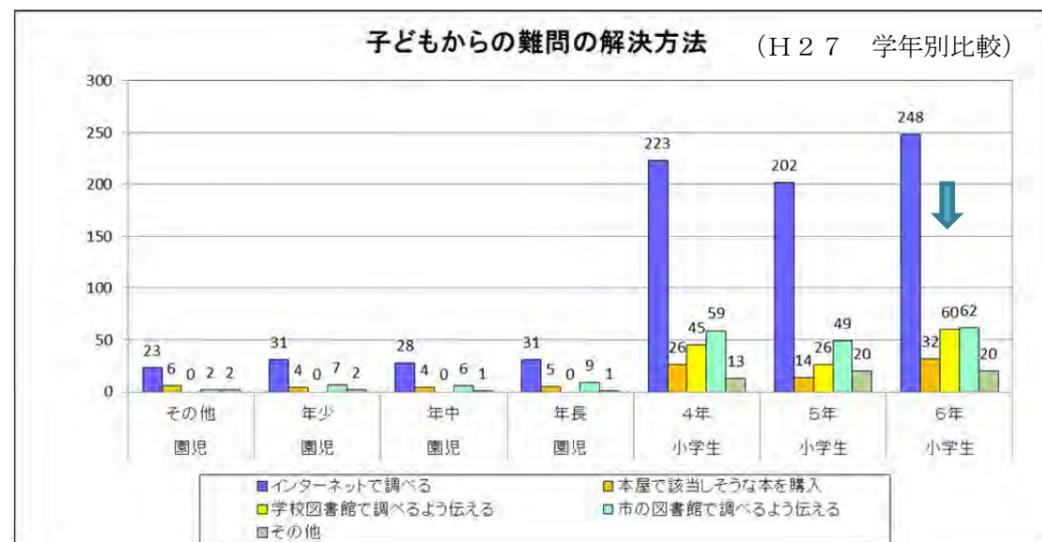
「児童・生徒編」での子どもたち向けの同じ内容の設問に対する結果と同じく、いずれにおいても「インターネットで調べる」が突出している。

もはや、子どもを持つ家庭では、インターネットの活用は欠かせないものとなっていることは明白である。今後は、図書館のホームページの充実や電子図書館の整備の重要度がますます上がっていくものと予想される。

ただ、「市の図書館で調べるように伝える」が、小学生だけでなく園児の保護者にも共通してある程度選択されているのは嬉しい結果といえるだろう。小学生の保護者では「学校図書館で調べるよう伝える」が次いで多く、「本屋で該当しそうな本を購入」を上回っている。

男女比較では、棒グラフが形作る山の形状がいずれもほぼ相似形であり、男女差は見られない。

学年別比較でも、年齢が上がるのに伴うような明確な傾向は特にみられない。強いて挙げれば、小学6年生の保護者において「学校図書館で調べるように伝える」の選択が、他の学年よりやや多いように見える。



【子どもから保護者が知らないことを聞かれた場合の調べる方法】 その他（自由記載）意見

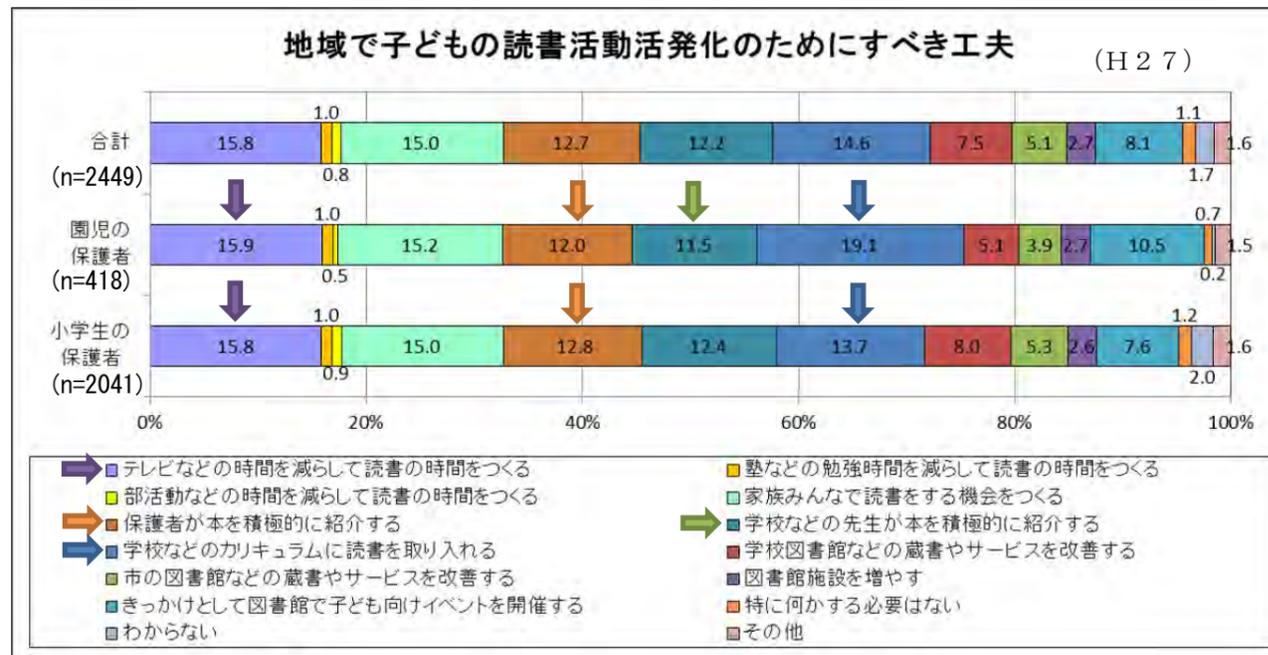
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
まだ、しゃべれないので聞かれたことなし	家族、友人に聞く	子どもは4さいで日本語をわかりません	よっぼどわからないことはきかれていない	<自由記載なし>	家にある本で調べる	家にある図鑑や自分の知識の範囲内で答えられる	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<p>家にある本</p> <p>家にある本でしらべる。</p> <p>家にある本で調べる</p> <p>家にある本で調べる</p> <p>辞書を使って</p> <p>図書館で借りた本を一緒に調べる</p>	<p>じ書で調べさせる</p> <p>教えてあげられるものは一緒に考えて、導き出すようにしている</p> <p>口頭で伝える。又は、辞書でわかる事は、調べさせる。自分で答えられる範囲は答えであげる</p> <p>辞書などで調べさせる</p> <p>詳しい人に聞く</p> <p>祖父母に聞く</p>	<p>まずは自分で調べさせる</p> <p>一緒に考える</p> <p>家にある本で調べさせる</p> <p>教科書を確認し、掲載されていないものは知らなくてもよいものか、ネットで確認する。</p> <p>辞書、家にある本や図鑑などをつかう。（即答をもとめられることが多いので</p> <p>辞書などリビングに置いてあるので調べるよう伝える</p> <p>辞書引き</p> <p>人に聞く</p> <p>先生にきいてごらんという</p> <p>電子辞書</p>	<p>家にある資料及び辞書で調べる。祖父母に聞く</p> <p>家にある図鑑及び辞書</p> <p>学校の先生に聞いて！と言う</p> <p>教科書や家にある辞書などで調べる</p> <p>教科書をよく読む（宿題の場合）</p> <p>教科書を使用する</p> <p>自分で国語辞典などを引かせる。</p> <p>教科書をもう一度よく読ませる</p> <p>辞書等で調べる</p> <p>主に教科書</p> <p>本人の興味ある物にたとえたりして教える</p>	<p>お父さんに聞くとだいたいの事は解決できている</p> <p>家にある本</p> <p>家にある本を見て調べる</p> <p>華族や身近な大人に聞いてみるように伝える</p> <p>教科書などを参考にする</p> <p>子ども自身に調べさせる</p> <p>自宅の本で調べる</p> <p>辞書で調べる</p> <p>主人や兄に聞く</p> <p>電子辞書</p> <p>友だちに聞く</p>	<p>一緒に考える</p> <p>英単語などは辞書で</p> <p>家の辞書で調べる</p> <p>教科書</p> <p>今のところなし</p> <p>自宅にある本でしらべるまちにすすめる</p> <p>辞書で調べるように伝える</p> <p>分からない時は、先生に聞きなさいと伝える</p>

【図表 37-2】 子ども読書活動を活発化させるために、一般論として、学校等、地域、家庭などでどのような取り組みが必要だと考えますか。（複数選択）



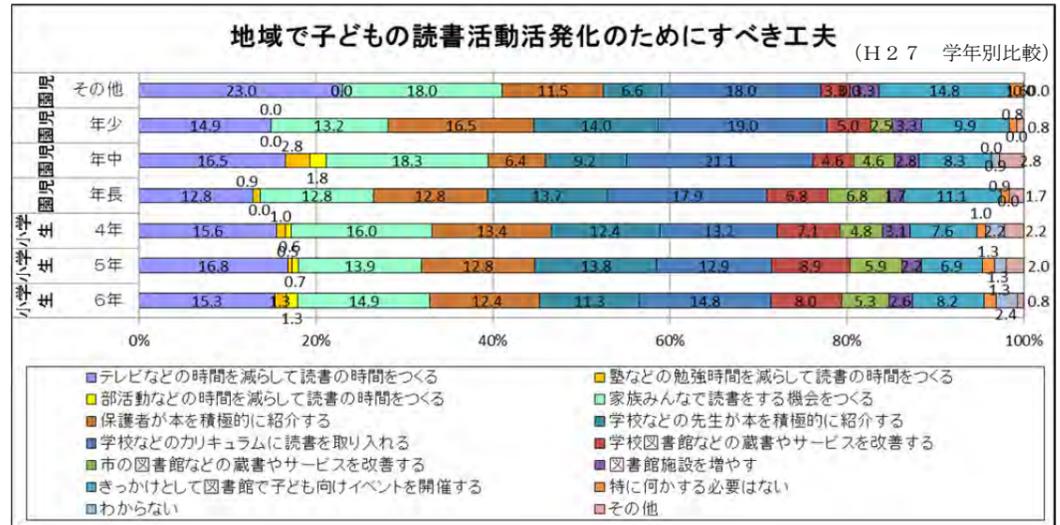
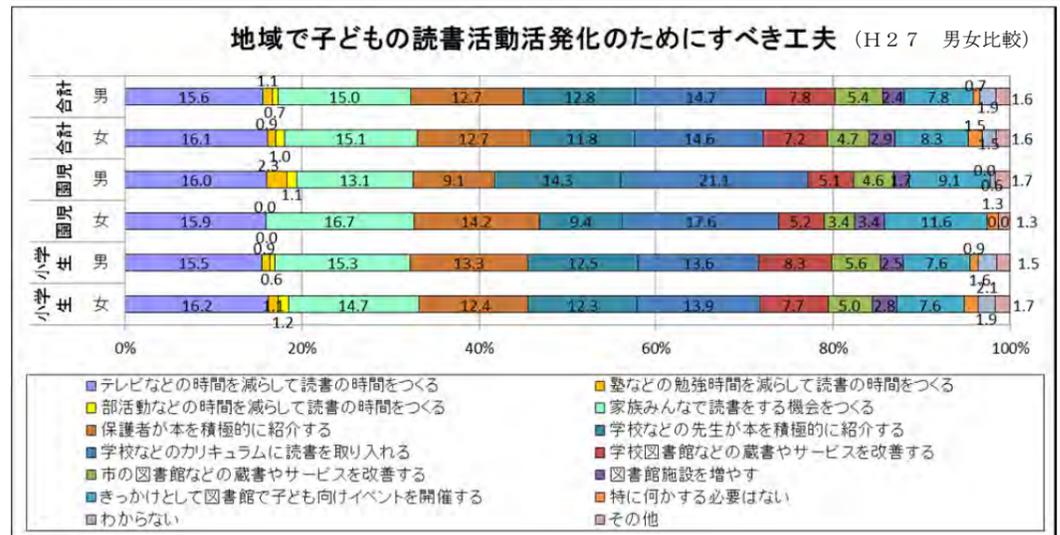
■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔りがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

<分析>

前回（H22）と比較して、いずれも「テレビなどの時間を減らして読書の時間をつくる」と「学校の授業に読書を取り入れる」の割合が前回より今回の方が高くなっている。また、園児の保護者については「学校（保育園）などの先生が本を積極的に紹介する」も前回と比べ今回の割合が高まっている。

逆に「保護者が本を積極的に紹介する」の割合は、園児と小学生のいずれの保護者においても前回より今回の割合が低くなっている。

男女比較や学年別比較では、特筆すべきほどの明瞭な男女差や傾向はみられなかった。



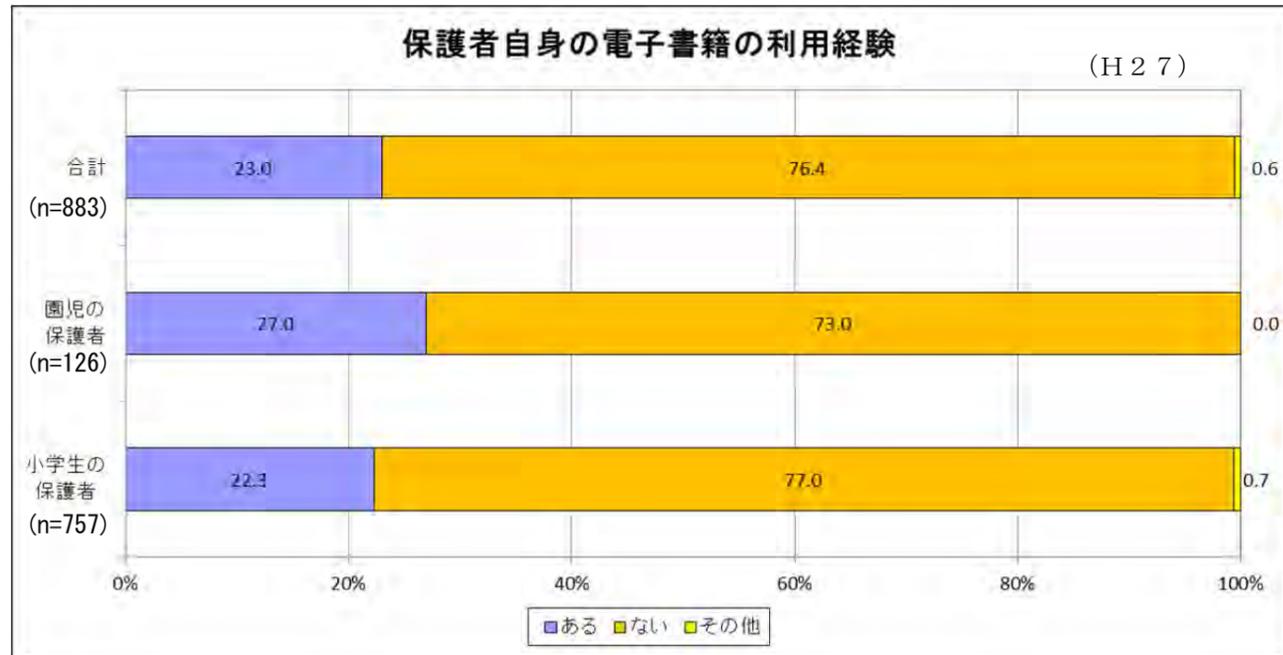
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	日本語がむずかしいですから	<自由記載なし>	子ども用図書館（幼児向け）分館を作り、声を出しても気にならない。小さい子連れが来られる場所を作る。（気をつかっていかない人もいるから） 子どもが小さい時から「子連れでも図書館に行く」を習慣化させる。「子連れで図書館に行っても良い」事を広める（CM、ネットの雨の日のお出かけ情報にのせる等）	人気の作者の講演会やワークショップをひらく 本が好きな人の話を直接聞く機会を作る	私の子ども時代に比べ活動が盛んになっていると思います。	一宮図書館は金沢から遠いので、金沢にも図書館を作っていただけだと嬉しいです。

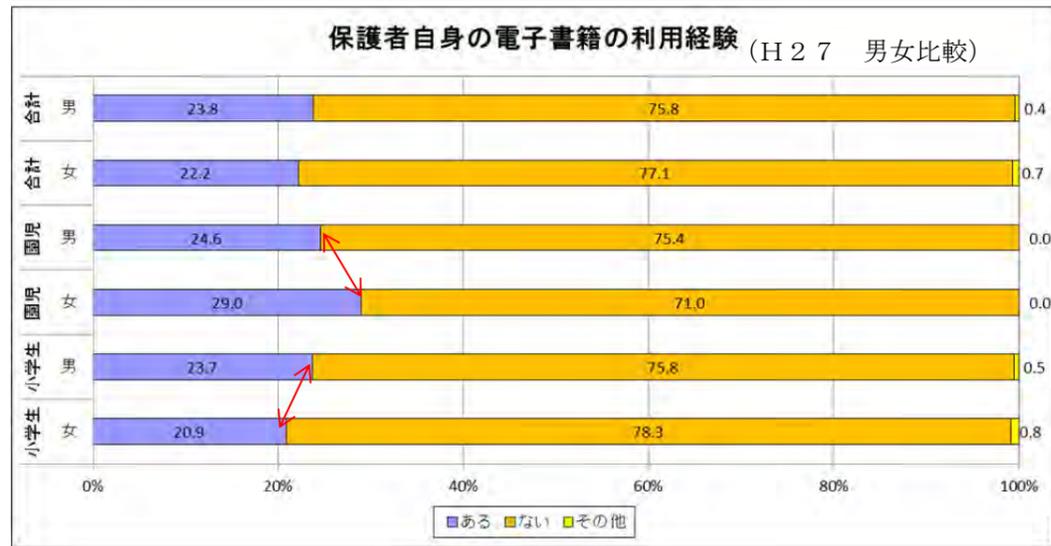
小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
1日のほとんどがゲームで占めているため、ゲームを減らす スーパーで貸し出し、返却できるようにする。 子ども達だけで行ける場所範囲内に図書館等の施設があると良いたくさんその様な所を作ってほしい。 棚を整理し手に取りやすい並べ方を工夫する必要がある。 さがす意欲がわからないのでポップをつけて紹介したり工夫をする必要性を強く感じる。 豊橋の学校では朝の会の前に読書の時間があるそうです。	ペア活動のときお互いの本を読みあいつこする。 もっと広い駐車場のある図書館 市の図書館を子どもが訪れる機会をつくること 親や学校が強要してもムリ！！わが家も絵が多い本しか読みません。 読み聞かせの機会を増やしてもらおう 本が好きなことは自然と読む。 興味は自分がつくるもの 本に興味を持てるようなはたらきかけをする <b>漫画</b> 、雑誌を否定しすぎ、選出次第では役に立つ	ゲームをやめる 学校が始まってからでは不可能、0～3歳までの家庭環境でいかに文字や絵本に触れる機会を与えられるかがポイントになると思う。 学校の図書館の本を自宅に持ち帰ることが出来るようにする。学校ではゆっくり読む時間が取れない 子どもが読んで面白かった本をクラスの子に紹介する。 小さいころからの家庭での読みかかせの習慣が最も大事！！ 図書館でおすすめの本を紹介する。POP等を増やしたらどうか。小さい子も目を止める様な楽しいものが良いと思います。 乳児期からのよみかかせ	クリスマス、誕生日のプレゼントに本をあげる ゲーム、動画を時間制限する。 学校で「朝の10分読書」などを取り入れる 自分の体験、エピソードを伝えたりする 幼いころから本を身近に置く	最初は子どもが読みたい本を読ませる 自治体で図書館運営をツタヤに委託して費用が抑えられ、利用者は老若男女格段に増えた地域があるように、もっと図書館に行きたくなるような環境づくりが必要だと思います。 読書好きになるかどうかは個々で違う。習慣付けなら⑦で良い。	何かの時間を減らして読書時間を作るという感覚ではなく、どんなに少ない時間でも一緒に本を楽しむという事が読書好きにつながると思っています。まずはやはり家族と一緒にが良いかと思えます。 読書についてほめる。内容をたずねる。会話にする。

【図表 38】 あなたは電子書籍を利用したことがありますか。(1つを選択)



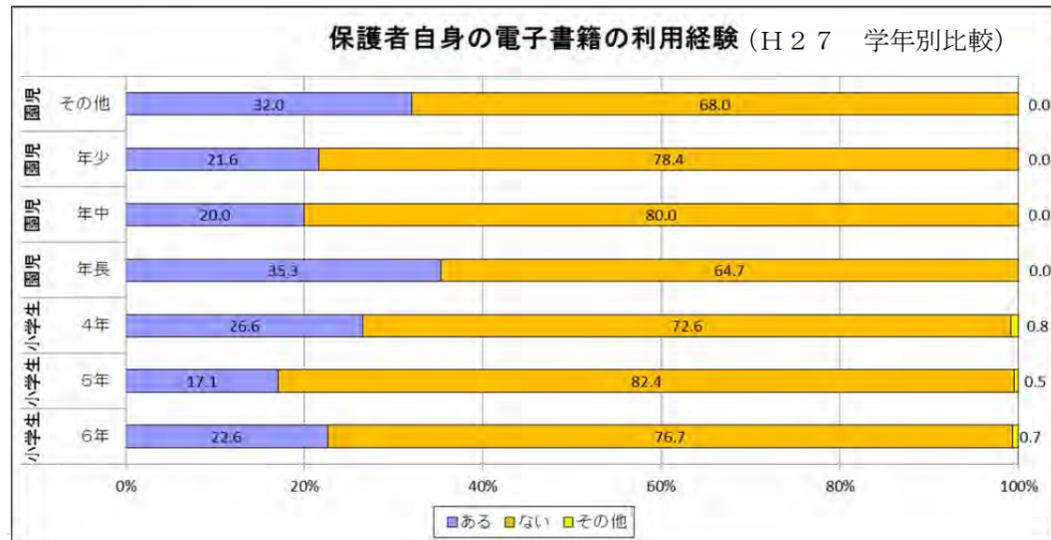
前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)



<分析>

「児童・生徒編」の子ども電子書籍利用経験と比べると、子どもたちが小学生でも3割以上、中学生・高校生では5割以上に利用経験があるのに対し、保護者の利用経験はいずれも3割に満たない。1つの家庭に保護者の回答者は1人だが、子どもは兄弟姉妹など複数いるかもしれないので、必ずしも親の知らないうちに子どもが電子書籍を利用しているとは限らないが、いずれにしても保護者の電子書籍利用割合はまだまだ少ない。

男女比較を見ると、園児の保護者では女兒の保護者の方が、小学生の保護者では男児の保護者の方が利用経験が高いという逆転がみられるが、兄弟姉妹などの存在を考慮すると、あまり今回の男女差に意味はないかもしれない。学年別比較では、子どもの年齢の上昇に伴うような明確な傾向は見取れなかった。



【保護者自身の電子書籍の利用経験】 その他（自由記載）意見

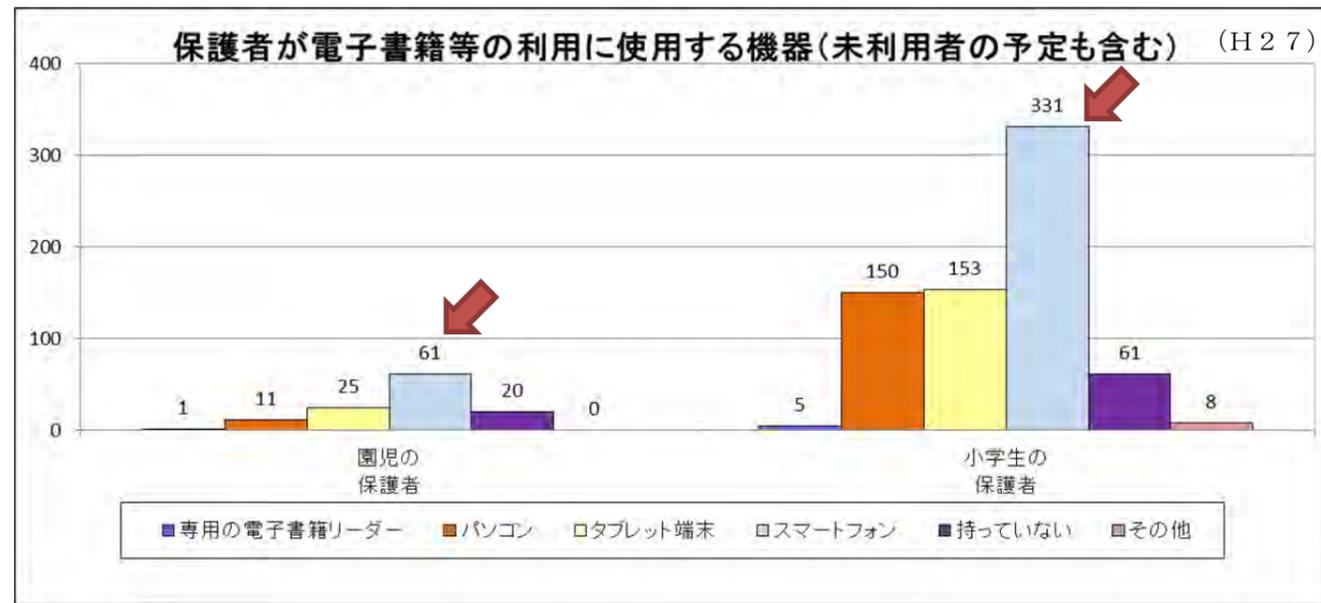
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

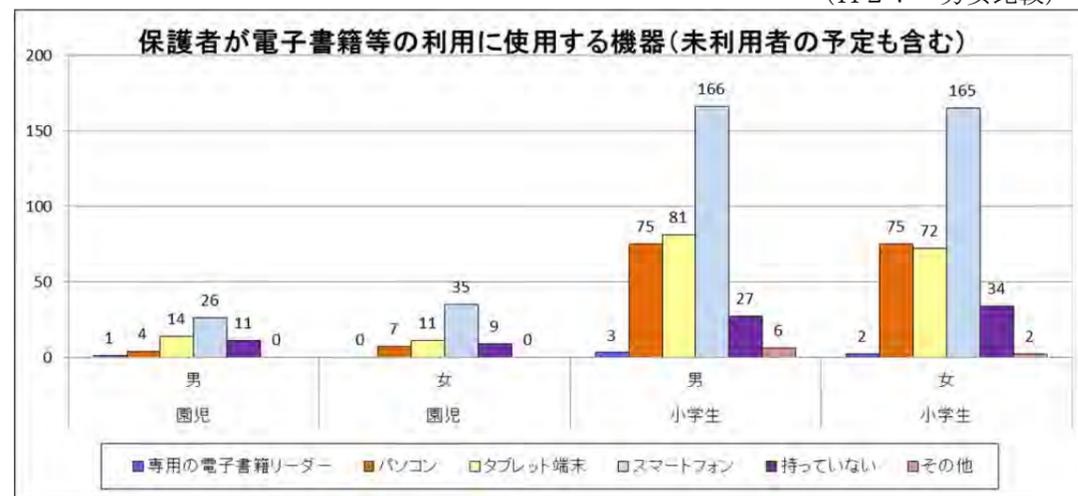
4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<b>まんが</b> です	<自由記載なし>	<自由記載なし>	スマートフォン

【図表 38-1】 あなたが電子書籍等を利用するためには以下のどれの機器を使用しますか。(複数選択)



前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)

(H27 男女比較)



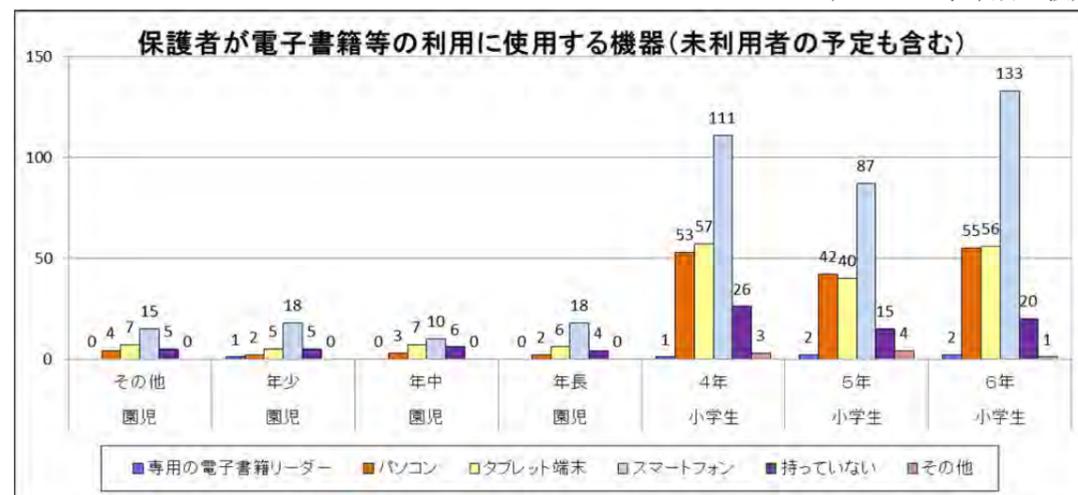
【複数選択における棒グラフの見方】

小・中・高などの集団ごとに回答の総数が異なるため、別の集団との棒グラフの高さの比較には意味がない。また、前回との比較においても絶対的な高さについての比較には意味がない。したがって、分析にあたっては、各集団内における棒グラフの高さの比較、言い換えれば「棒グラフが形作る山の形状」の特徴的な部分についての比較を行う必要がある。

<分析>

電子書籍等の利用機器に関しては、「児童・生徒編」の子どもたちの回答傾向と保護者の回答傾向は良く似ており、いずれも「スマートフォン」が突出して選ばれている。次いで「パソコン」と「タブレット端末」が同程度であるのも共通している。

(H27 学年別比較)



男女比較には、特筆すべき差異はみあたらず、学年別比較でも年齢に伴って変化するような明確な傾向は見られない。

【保護者自身が電子書籍を読むために利用する機器】 その他（自由記載）意見

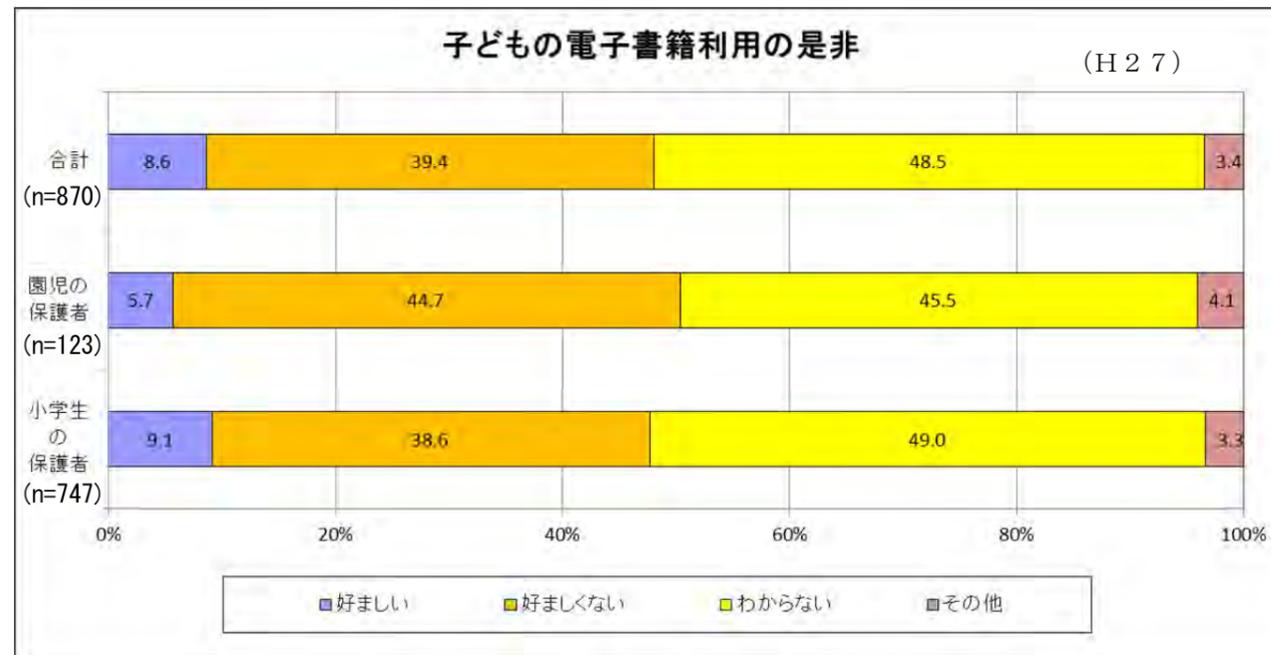
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>	<自由記載なし>

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
利用していない 利用しない	<自由記載なし>	使用しない 電子辞書 利用したことがないので、その 時にならないと分からない	<自由記載なし>	利用していない	<自由記載なし>

【図表 38-2】 子どもたちが電子書籍による読書をするかどうか。 (1つを選択)



前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)

■前回と今回では、アンケート回答者の総数に大きく隔たりがあるため、慎重に比較を行う必要がある。

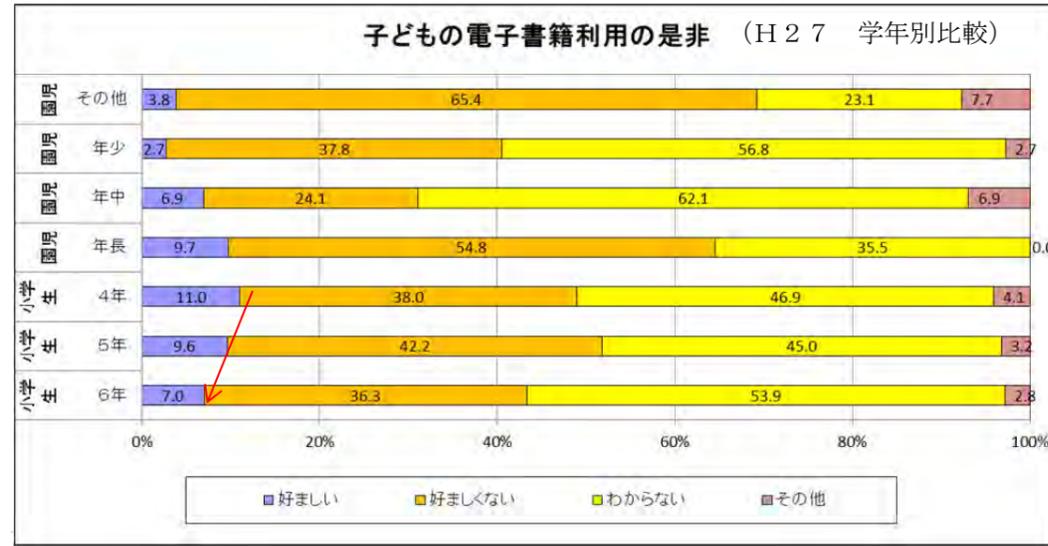
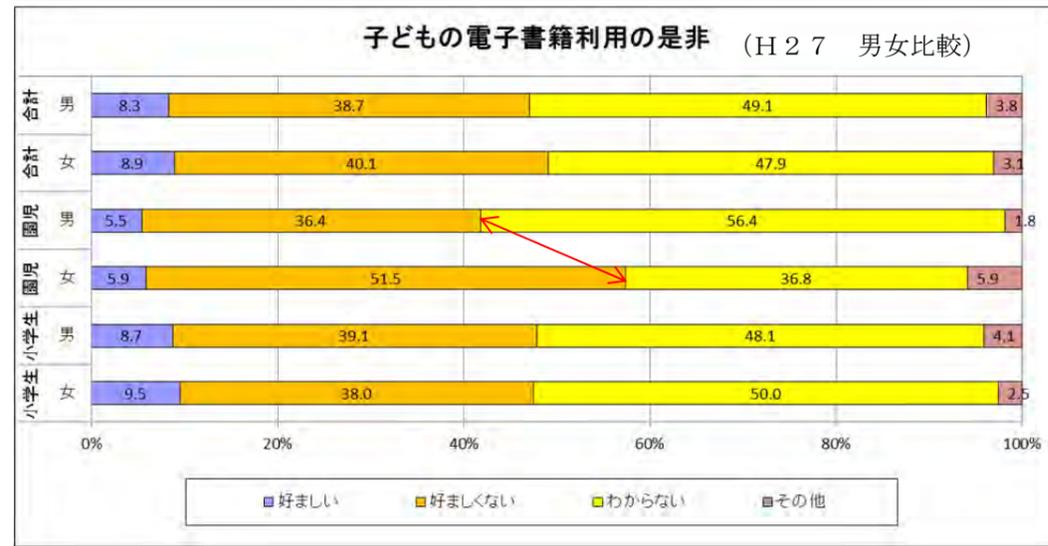
<分析>

子どもが電子書籍を利用することについては、いずれも「わからない」の割合が最も高く、次いで「好ましくない」が4割前後を占め、1割に満たない「好ましい」と大きく差を開けている。「児童・生徒編」での子どもの電子書籍の利用経験の回答結果では、小学生で3割以上、中学生・高校生で5割以上が既に電子書籍の利用を経験していると出ており、保護者の意向との乖離がみられる。

男女比較を見ると、園児の保護者で「好ましくない」が男児より女児の保護者に多い結果となっているが、小学生の保護者ではこのような男女差は見られない。ただ、園児の保護者の回答者数は男児女児合わせて123人しかおらず、男女それぞれでは60人前後と少ないため、たまたま数人の差が男女差として拡大されてしまっているだけかもしれない。

学年別比較では、小学生の保護者において「好ましい」の割合が学年が上るとともに、わずかに低下しているように見えるが、他の選択肢には明確な傾向は見えず、偶然そのように見えるだけかもしれない。

いずれにしても、今後、電子図書館の利用を拡大するためには、保護者の理解を得る努力が必要である。そのためには、後掲の「その他（自由記載）意見」などで保護者が懸念する子どもの目への影響などについて、何らかの技術的な改善についても働きかけなければならないだろう。



【子どもたちが電子書籍による読書をするについてどう思うか】 その他（自由記載）意見

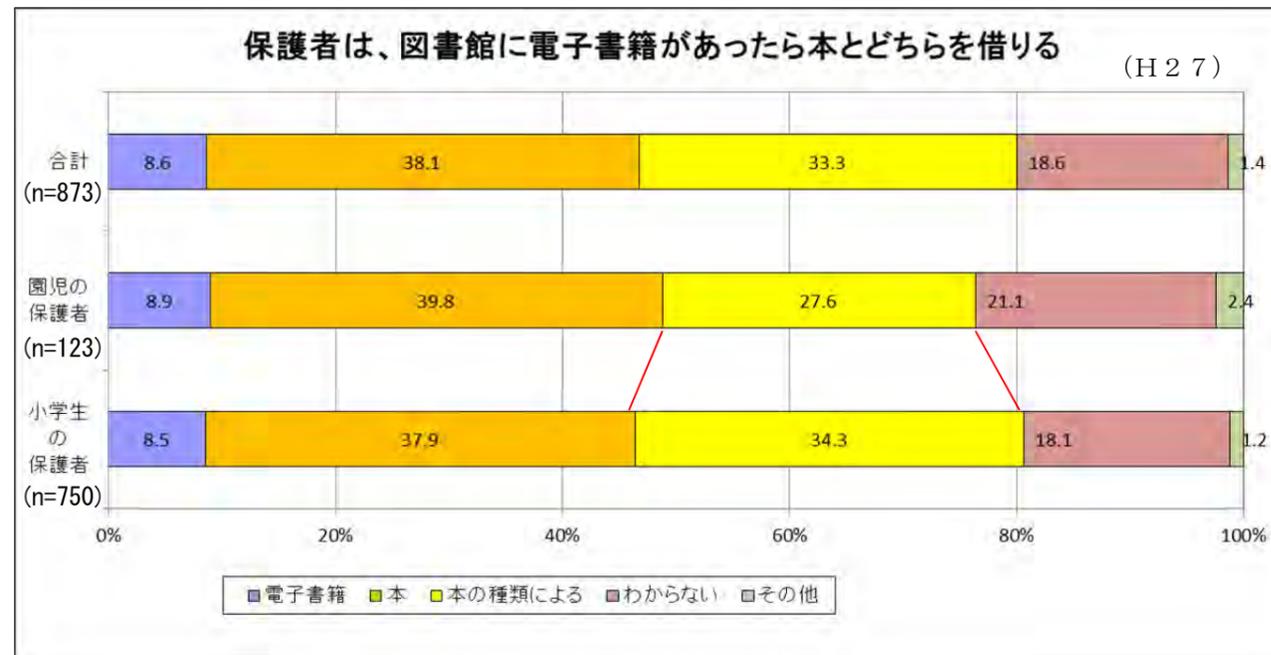
保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<自由記載なし>	時代に合った読み物があると思うので、形はあまり気にしていない 別にどちらともない	外出先では便利かも…	本を読みたいきっかけになるのらないのでは。	好ましくないわけではないが、目に良くないと思う	読書をする事は好ましいが、使用機器による目への影響の安全性が確立できていない現状では好ましくない。	紙のにおいや感触を味わってほしいから 保育園児では、まだ早いと思う	外出先では、便利かも

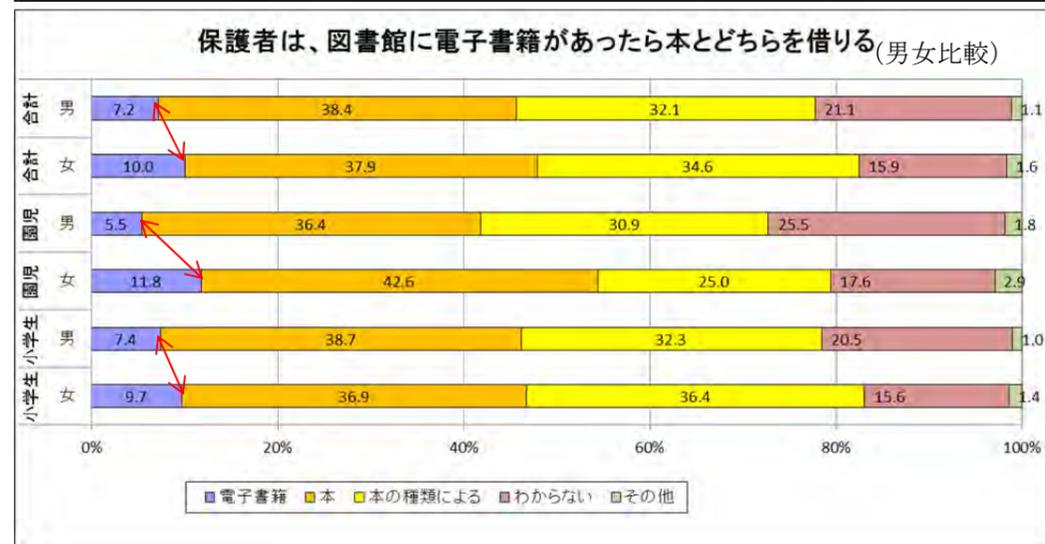
小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
どちらかといえば本で読んでもらいたい。電子画面だと目に悪そう。 悪いとは思わない 何も思わない 子供のうちはしっかり本を読んで欲しい。 手軽に読めるのはいいが、長い間読むには視力にも良いと思わないのですすめたくはない。 電子書籍は便利かもしれないが、できれば、本を手にとって紙の手触わり、色、において（昔の紙と新しい紙の違い）も感じてほしい	いい面とよくない面とがあると思うのでどちらとも言えない どちらでも良い。紙であってもそうでなくても本人が楽しく手軽に読めるかどうかだ と思う。 調べ物は電子書籍、読書は本がいい。 本を全く読まないよりは、いいと思う。	かたよらなければよい 子どもの年齢による。中学生以上は電子書籍でも良いと思うが、それ以下は紙の質感だったり本の重みを感じてほしいので 手軽で良いと思うが、視力低下を考えると… 読みづらくないなら問題ない。読みづらいなら問題あり。 目的により大人と一緒にあればいいと思います。 有害な光による目へのダメージが気になる。	どちらとも言えない。長時間の場合、電子書籍は目が心配 どちらとも言えません。	どちらとも言えない どのようなことでもよし、悪しはあってあたりまえ。本人が良ければOK 興味を持ってくれるならどちらでも良い 必要であれば電子書籍でもよいと思う	どちらでも構わない 画面を見続けることで目に悪い影響があると困る。 手軽ではあり貸出の手間がはぶけるが本のあたたかみが感じられない 本を読むのに先に慣れてほしい 目が悪くならないか心配 目の健康を考えるとよくないかも、それは本でも同じかな……

【図表 38-3】 図書館に電子書籍の貸出があれば、本と電子書籍のどちらを利用したいと思いますか。(1つを選択)



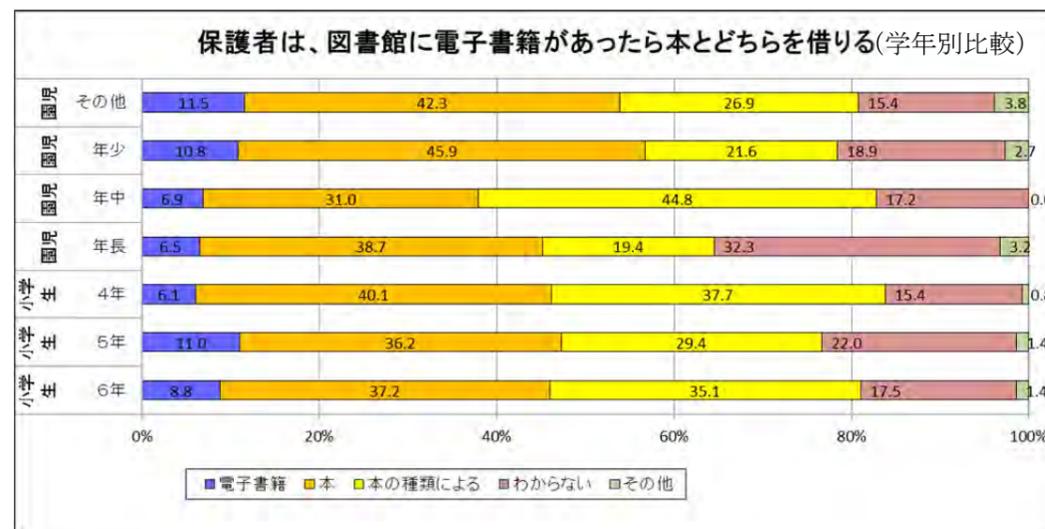
前回アンケートに対応する設問なし  
(今回からの新規設問)



<分析>

「電子書籍」の選択割合は、いずれにおいても9%弱で、「本」の選択割合が4割近いのに対して大きく水をあけられている。「児童・生徒編」の子どもたちの回答と比べると、やはり自身の電子書籍へ利用選択割合でも一つ前の設問(子どもの電子書籍利用の是非)と同様に大人の方がかなり低いことがわかる。

「本の種類による」に関しては、園児の保護者より小学生の保護者の方がやや選択割合が高い。ただ、次頁の「その他(自由記載)意見」を見ると、この設問の趣旨を、子どもが読む本を借りる場面を想定したものだと考えている保護者と、保護者自身が読む本を借りる場面を想定したものだとして理解した保護者とが混在していることが推察される。前者だとすると、一つ前の設問と同じことを表現を変えて重複して訊いていることになってしまうため、アンケート主催者としては保護者自身の選択を訊くための設問であると考えられるが、確かに、どちらも取れる表現になってしまっているため、次回アンケート時には質問趣旨が明確になるよう改善が必要である。



男女比較では、いずれも女兒の保護者の方が男児の保護者よりも「電子書籍」を選択する割合が多い。学年別比較では、回答者数が少ないことを勘案すると、特筆できるほどの年齢に伴う増減傾向は見られない。総合的に見て、子どもたちに比べて保護者はかなり電子書籍を許容する割合が低いことは間違いないが、一方で、子どもたちは既にかかなりの割合で電子書籍に触れているという事実も確認できたため、今後、電子書籍について保護者と子どもたちの間の意識差がこれ以上広がることはあまり好ましくないと思われることから、図書館においても電子図書館などの導入に際して、何らかの対応策を検討する必要がある。

【紙の本と電子書籍のどちらを利用するか】 その他（自由記載）意見

保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
大人は電子書籍、子どもは本、絵本がよい	<自由記載なし>	<自由記載なし>	電子書籍の貸出は便利だが、本や絵本そのものに触れさせたい	大人の電子書籍は賛成だが、子どもにはパソコンやタブレットを幼いうちから利用して欲しくない。	<自由記載なし>	<自由記載なし>	大人は電子書籍、子どもには絵本に触れてほしい

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
あったとしても利用はしないと思う	ブルーライトなどの有害な光が画面から出ないようにすれば①です。	いない 目へのダメージと機器へのダウンロードにかかるつながるのに必要なお金等（スマホは時間制限の安いタイプだし…）の問題が解決されれば利用してみたい。	どちらも利用したい。 電子書籍は、図書館へ行く手間は減るが、電子機器を長時間使用したくない。	両方利用する。	りょうほう 本の種類により、調べものを使う場合は利用したい 落として壊してしまうため子どもには怖い

保育園児の保護者

その他（年少未満児）		年少		年中		年長	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<p>&lt;自由記載なし&gt;</p>	<p>いないいないばあ… （この本に出逢って から娘はいつもこの 本を私に持ってきて は差し出していました。 好きで好きで仕方 ない様子でした。） ぎゅうってだいすき （きむらゆういち） だるまさんシリーズ くっついた のせてのせて100階 だてのバス</p>	<p>ねこざかなシリーズ （わたなべ ゆうい ち） いもとようこ エリックカール 松谷みよ子「ぼうしを とって ちょうだい な」</p>	<p>ごぶごぶごぼごぼ、1 1匹のねこ、だるま さんシリーズ、のろ まなローラー、グリ とグラ だるまちゃんをとてんぐ ちゃん はらぺこあいおむし ちょっとだけ のんたんシリーズ 西宮達也、ひらのゆき こ、パンダ銭湯</p>	<p>いぬとくま、ずっとふ たりは、わにわにの ごちそう、わにわに のおでかけ たいせつなあなたへー あなたがうまれるま でのことー（サント ラ・ポワロ＝シェリ フ） しょうぼうじどうしゃ じふた のんたんシリーズ。3 65日毎日1ページ ずつ読む本 みやにしたつやさん</p>	<p>”「わたしは あかね こ」、「あげます。」、 「ちょっとだけ」 宮西達也さん、シゲタ サヤカさん” 「和」の行事えほん 高野紀子作 こんのひとみ「かあさ んのこもりうた」、 同「くまのこうちょ うせんせい」</p>	<p>ちいさいモモちゃんシ リーズ ティラノサウルスシリ ーズ 作者 宮西達 也さん ぼく おかあさんのこ と… 加古里子さんの絵本で す。ほとんど好きで す。 昔、歯医者さんで読ん だ本で、外国の本で、 男の人が困った人々 に自分の服をどんど んあげてしまうとい う話（題名忘れ）</p>	<p>「りんごかもしれな い」 100かいだてのおう ち しまじろうは良いです あきやまただし、なか がわみちこ（パオち ゃんシリーズ） いやいやえん ねこざかなシリーズ （わたなべゆうい ち）、いもとようこ、 エリックカール バムとケロシリーズ （島田ゆか）、ティ ラノサウルスシリー ズ（みやにしたつ や）、じごくのそう べえ モグラくんとセミのこ くん、ころころころ</p>

【保護者のおすすめの本又は作家】 その他（自由記載）意見

小学生の保護者

4年生		5年生		6年生	
男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者	男児の保護者	女児の保護者
<p>「ばばあちゃんシリーズ」絵本 「バムとケロ」シリーズ バムとケロの絵本 11ぴきのねこ 101ぴきのおたまじゃくし、カラスの ぱんやさん ありがとうともだち、あらしのよるにシ リーズ おまえうまそうだな おやすて山 ずーっとずーっと大好きだよ かこさとし からすのパン屋さん ごみたろう サーカスのライオン しげんちゃん じごくのそうべえ わんぱくだんシリーズ スーホの白い馬 セブンイレブンでもらえる「ポノロン」 はらぺこあおむし ひさの星 ミック みやにしたつや もこもこもこ ノンビリすいぞくかん こんな日だってあるさ 番ネズミのやかちゃん もちもちの木 ごんぎつね もったいないばあさん 宮西達也 しげたさやか 日本昔ばなし ちびまる子ちゃんの話 八郎 他 斉藤隆介さんの本、ごんぎつ ね 他 新美南吉さんの本 モチモチの本、あのとときすきになったよ、 おかん など 歴史の本</p>	<p>「でんしゃでいこう でんしゃでかえろ う」、「おやすみ くまたん」、「め っきら もっきら どおん どん」、 「おつきさま こんばんは」 「十二支のはじまり」（子供はこの本で 十二支を覚えました。） 「心の不思議」 はらぺこあおむし ・作者 いもとよう こさんの本 昔からある童話など 宮西達也 ミック！ 100万回生きたねこ オズの魔法つかい いじめだよ いつでも会える 菊田まりこ イッパイアッテナシリーズ いないいないばあ のせてのせて いのちをいただく ええところ おふろだいすき、かたあしだちょうのエ ルフ、かぎばあさんシリーズ シートン動物記、ファーブル昆虫記、パ ムケロシリーズ、オズの魔法使い、や なぎ村シリーズ（福音館書店）、ちょ っとだけ、ぼくの見た戦争（ポプラ社）、 メガネをかけたら、わたしの一番あ の子の一番 シゲスサヤカ、宮西達也 シニガミさん（宮西達也さん） しろいうさぎとくろいうさぎ すまいるママ「はなになりたい」 だじゃれ日本一周（長谷川義史） ディズニー全集 みやにしたつや もこもこもこ、まり 谷崎俊太郎 ごぶ ごぶごぼごぼ 駒形克己 モリー先生との火曜日 河童が覗いたインド 宮西達也さん→シニガミ1. 2. 宮西達也さんの本 私は、むかし話がおすすめです。子供は、 ディズニーシリーズが大好きでした。 犬の本も大好きです。 手ぶくろを買いに 小さな時は、グリとグラシリーズ、そら まめのベッドなど… 斉藤洋 ルドルフとイッパイアッテナ シリーズ 松谷みよ子 モモちゃんとアカネちゃん シリーズ 長新太（画1）、赤村輝夫、おしゃべり なたまごやき 大きな木</p>	<p>「おしいれのぼうけん」古田足日・田畑 精一作 「チビねずくのクリスマス」ダイア ナ・ヘンドリー作 「窓ぎわのトットちゃん」黒柳徹子 「あいしてくれてありがとう」宮西達也 他ティラノサウルスシリーズ おとなしいめんどり ちびゴリラのちびちび みんなでぬくぬく いもうとのにゅういん ぼくじょうのくまさん ぐりとぐら あらしのよるに（木村裕一）のシリーズ 科学漫画、サバイバルシリーズ おまえうまそうだな（宮西達也）、ふし ぎ駄菓子屋銭天堂（廣嶋玲子） かこさとし かこさとし くまの校長先生 太宰治 ぐりとぐらシリーズ ぐりとぐらシリーズ しまふくろう いきる せかいでいちばんつよい国 てづかおさむ、くろやなぎてつこ、すず きまもる、ごみたろう トラのじゅうたんになりたかったトラ （ジェラルド・ローズ） としょかんライオン（ミシェル・ヌード セン） むしプロ（山本孝） おもちのおふろ（荻田澄子） にんじんばたけのパピブペポ ネズミ君シリーズ バムケロシリーズ（島田ゆかさん）、日 本の昔話、世界の童話 はらぺこあおむし ルドルフといっぱいあってな（イッパイ アッテナ）のシリーズ レオレオニ、ぐりとぐら、ゾロリシリー ズ 星の王子様、サンテグジュペリ 走れメロス、太宰治 いっきに読める名作選、斉藤孝 星新一 長谷川義史、島田ゆか、内田りんたろう、 いもとようこ、さとうわきこ（ばばば あちゃん）、松谷みよこ（いないない ばあ） 田原人権ファンクション委員会0 緑色のカエルと茶色のカエル 生きているだけで100点満点</p>	<p>「かみさまからのおくりもの」「ラブ・ ユフォーエバー」「クレヨンにくろ くん」「ととけっこうよがあげた」「ま どからおくりもの」 うずらちゃんのかくれんぼ、バーバパ の本、ノンタンの本 おすすめくまちゃん、おやすみくまちゃ ん、おふろのくまちゃん（作者 S・パ レントー：文 D・ウォーカー：絵、福 本友美子：やく） おつきさまってどんなあじ、かいじゅう たちのいるところ、まよなかのだいど ころ、ぐりとぐら、ねえ・どれがいい、 ちいさなクレヨン、100かいだての いえ、ちか100かいだてのいえ、お しいれのぼうけん がたんごどん（安西水丸さん） からすのパン屋さん、地下100かいだ ての家、バムとケロの本、100かい だての家 ぐりとぐら どんぐりむらのパンやさん ごみ太郎 ごんぎつね ソラメ君シリーズ とよたかずひこさんの絵本（たくさんあ ります） バーバパパのシリーズ、ノンタンのシリ ーズ バムとケロシリーズ、くれよんのくろち ゃんシリーズ、そらまえくんシリーズ はんぶんこ（しまじろう） 日本昔ばなし 世界昔ばなし ぼくが、ぼくを作るには 作者 エリックカール（絵がきれいな ので子どもが小さいころよくよんでいま した。） 十五少年漂流記</p>	<p>うどんのうーやん（岡田よしたか） もぐらバス（佐藤雅彦） りんごかもしれない（ヨシタケシンスケ） 窓際のトットちゃん ニルスのふぎな旅・めがねウサギ エルマー 谷川俊太郎さんの本／もこ、もこ、もこ、 スイミー、他全部 鈴木まもるさんの本／ツバメのたび、山 のくらしと動物たち等 瀬川康男さんの絵の本／いいおかお、い ないないないばあ等 みずならのいのち（手島圭三郎）、おと うさんのちず（シュルヴィッツ）、よ あけ（シュルヴィッツ）、モチモチの 木（斉藤隆介）、貝の子プチキュー（茨 木のり子）、でんでんむしのかなしみ （新美南吉） 100万回生きたねこ からすのパン屋さん ぼちぼちいこか しげちゃん シャーロックホームズ しょっとだけ はじめてのおつかい どうぞのいす とべないホテル 小沢昭巳 はらぺこあおむし びょーん まつおかたつひで ふゆじたくのおみせ こぎつねコンチ はなさんのおきやくさま ぼくとかああさん いもと ようこの 分、絵のもの いつも読むと感動して 子どもが泣いてしまいます。 ずっとそばに ボクものがたり こうち ょうせんせい りんごかもしれない 宮西達也 宮西達也さん→シニガミ1. 2 宮西達也「ティラノサウルス」シリーズ 宮部みゆき、ブレイブストーリー 星座の神話 恐竜たちのいるところ おしいれの冒険 子供が好きだった本 あいうえおうさま そらいろのたね かわいいてんとうむ し りんごがひとつ こんにちにはあか ぎつね 自分が好きで読んで聞かせた本 やさし いライオン いのちのおはなし しゅ くだい 新美南吉 大泥棒ホッツェンプロッツ、ロアルド・ ダールさんのシリーズ おさるのまいにち、100万回生きたねこ 日本昔話の本 木の本（名前は忘れたけど、最後は切り 株になる。）</p>	<p>「ノンタン」シリーズ、「たまごにいち ゃん」シリーズ、「ねずみくんのチョコ ッキ」シリーズ、おたまじゃくしの1 01ちゃん、ありんこぐんだん、注文 の多いレストラン、へっこき嫁さん、 はらぺこあおむし、「キャベツくん」 シリーズ、バックン、ごんぎつね 赤毛のアン 角野栄子さん 13歳のキミへ 999ひきのあたばじゃくし かこさとし からすのパン屋さん スーホの白い馬 だいじょうぶだいじょうぶ、エルマーの 冒険 図書館ライオン、猫のタクシー 百羽にツル2 ティーリーの願い グリ・グラ どうぞのいす ないしょのおともだち 文ビバリードノ フリオ 絵バーバラマクリントオク あのとときすきになったよ 文薫くみこ 絵飯野和好 バムとケロ シリーズ バムとケロ、ぐりとぐら、いやいやえん ブッダがせんせい（著・宮下真） みやにし たつや もったいないばあさん わにわにの絵本シリーズ（福音書店） こどものとも本は、小さいころによん でうけがよかった。大人も楽しいと子 供もたのしい。 夏の庭、リリアーネ 宮西達也 ティラノサウルスシリーズ わたなべゆういち ねごごかなシリーズ 深夜特急（沢木耕太郎） 獣の奏者（上橋菜穂子） 読み聞かせは絵本まで行っていた。推薦 する作者はいもとようこさん。 日本の昔話し。 夜回り先生</p>